

資料編 1

市民アンケート・ヒアリング調査結果

目次

I. 調査概要（一般、大学生・高校生、中学生）	89
II. 調査結果（一般、大学生・高校生、中学生）	
1. 基本構成	90
2. 文化芸術への興味・関心	91
3. 文化芸術に関する八戸市のイメージ	92
4. 文化芸術との関わりについて	93
5. 八戸市の文化芸術について	112
III. 調査概要（文化団体）	121
IV. 調査結果（文化団体）	
IV-1.活動している団体について	
1. 団体について	122
2. 活動の頻度や場所について	124
3. 課題について	126
4. 情報発信について	128
IV-2.回答者個人について	
1. 基本構成	129
2. 文化芸術に関する八戸市のイメージ	130
3. 八戸市の文化芸術について	132

I 調査概要（一般、大学生・高校生、中学生）

- 調査の目的 市民の文化芸術に対するイメージや関心、今後の文化芸術に対するニーズ等を調査することを目的とする。

- 調査対象

対象者	人数	有効回収数	有効回答率	選定（抽出）
①18歳以上の市民（一般）	1,212人	357票	29.5%	①令和元年10月31日現在の 住民基本台帳より、無作為抽出による選出 ②市政モニター
②大学生	290人	231票	79.7%	市内2校
③高校生	972人	885票	91.0%	市内4校（2年生）
④中学生	551人	495票	89.8%	市内7校（2年生）
合計	3,025人	1,968票	65.1%	

- 調査方法
 - ①調査票のQRコードを読み取り、SNSで回答
 - ②同封の返信用封筒に入れ、投函

- 調査時期 令和元（2019）年11月～12月

- 調査項目
 - ①文化芸術への興味・関心について
 - ②文化芸術に関する活動について
 - ③文化芸術事業・施設について
 - ④文化芸術の情報入手について
 - ⑤八戸市の文化芸術について

Ⅱ 調査結果（一般、大学生・高校生、中学生）

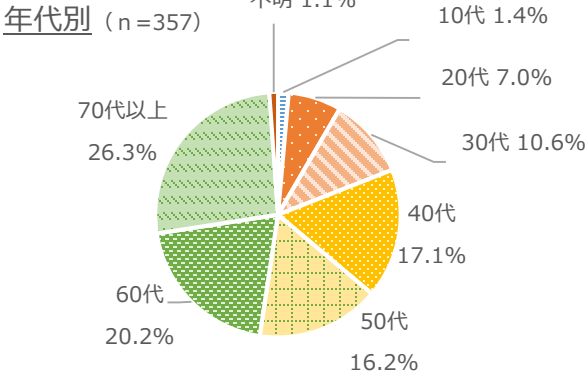
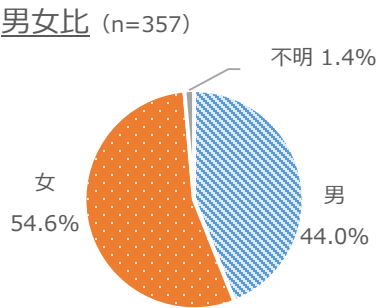
1 基本構成

【問 1】あなたについてお聞きます。

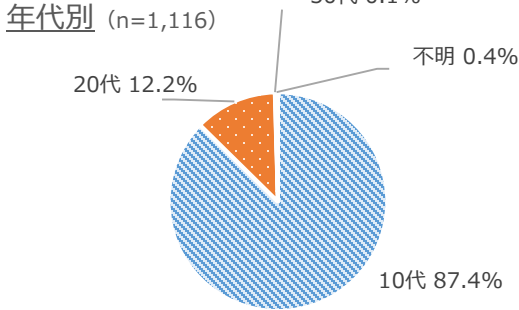
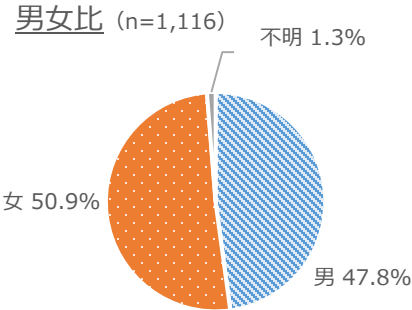
問 1 - (1) 性別

問 1 - (2) 年代

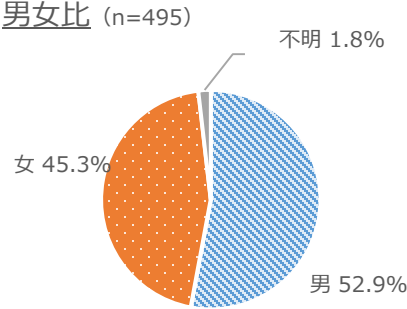
一般



大学生・高校生



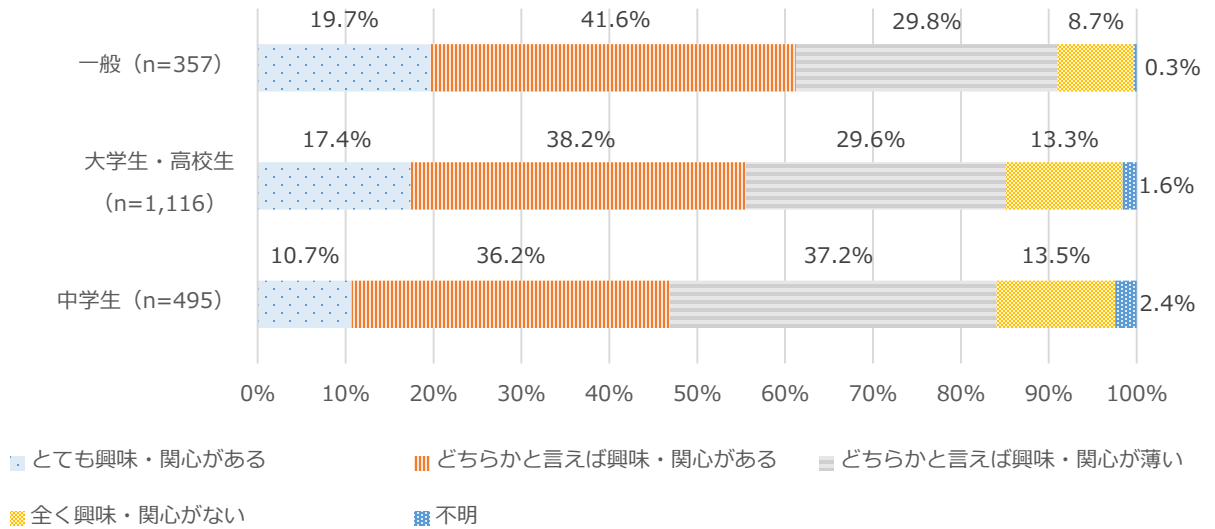
中学生



2 文化芸術への興味・関心

【問1-(3)】普段から何らかの文化芸術に興味・関心がありますか？

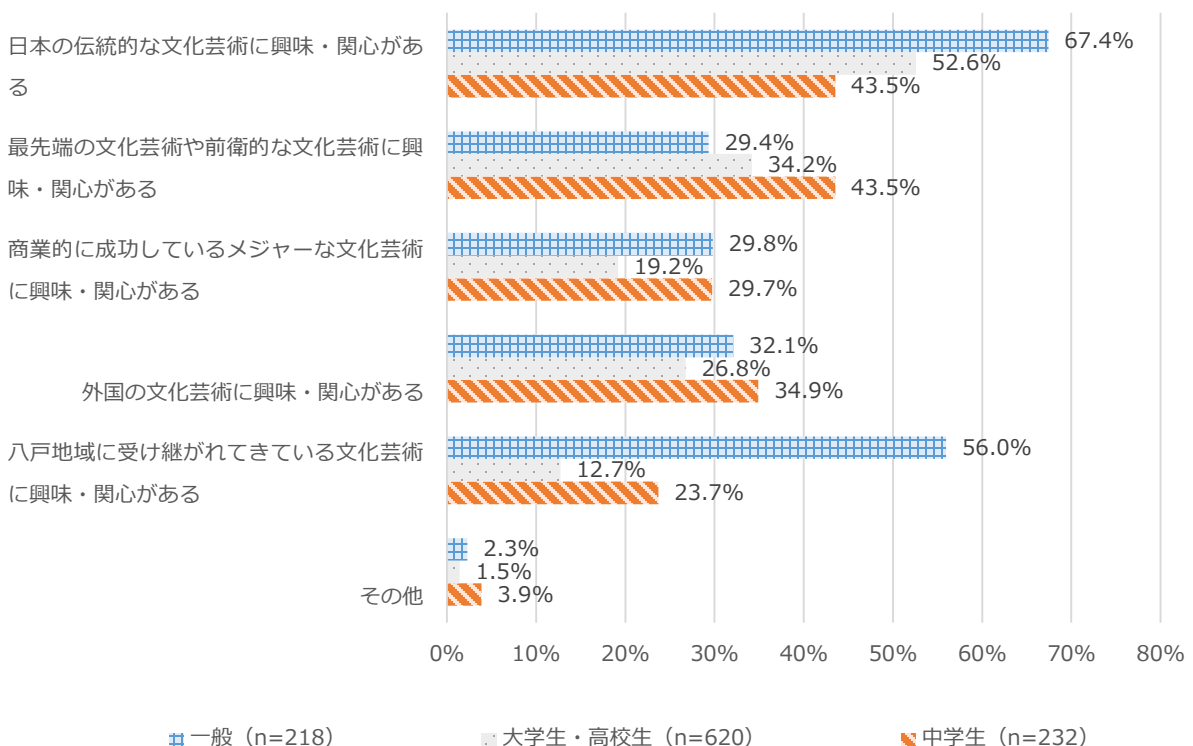
一般と大学生・高校生は「とても興味、関心がある」「どちらかと言えば興味、関心がある」が50%を超えているが、中学生は50%を下回る結果となった。



【問1-(4)】(3)で「興味・関心がある(1又は2)」とお答えした方にお聞きします。

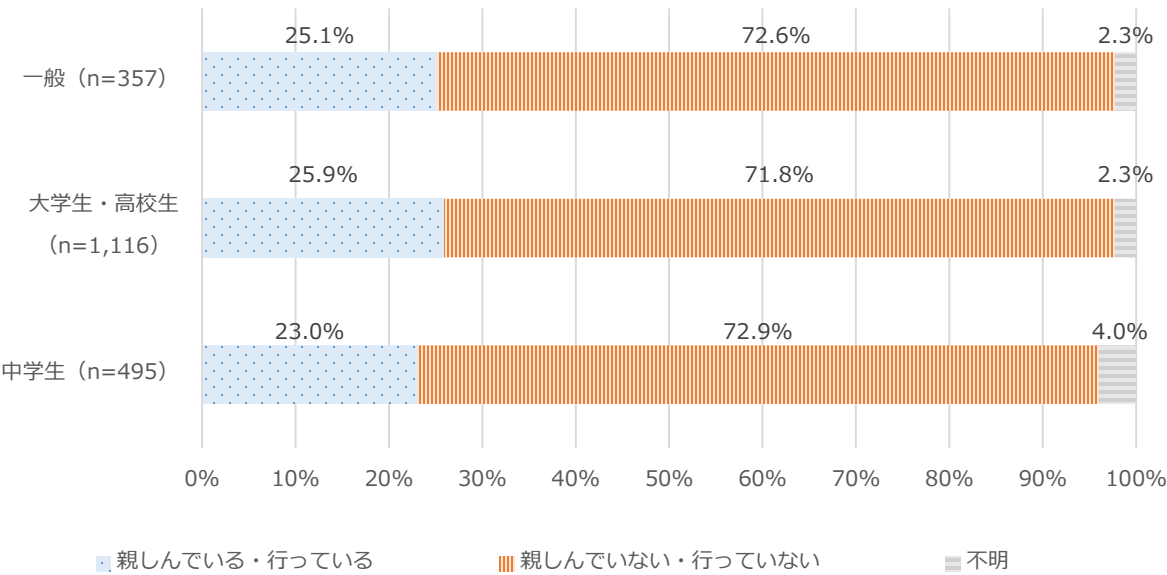
興味・関心があるのは、どのような分野でしょうか？

「日本の伝統的な文化芸術」への興味・関心が各世代で最も高くなった。一般は「八戸地域の文化」への興味・関心が2番目に高く、大学生・高校生と中学生では「最先端の文化」への興味・関心が2番目に高い結果となった。



【問 1 - (5)】 普段から文化芸術「活動」に親しんでいますか？

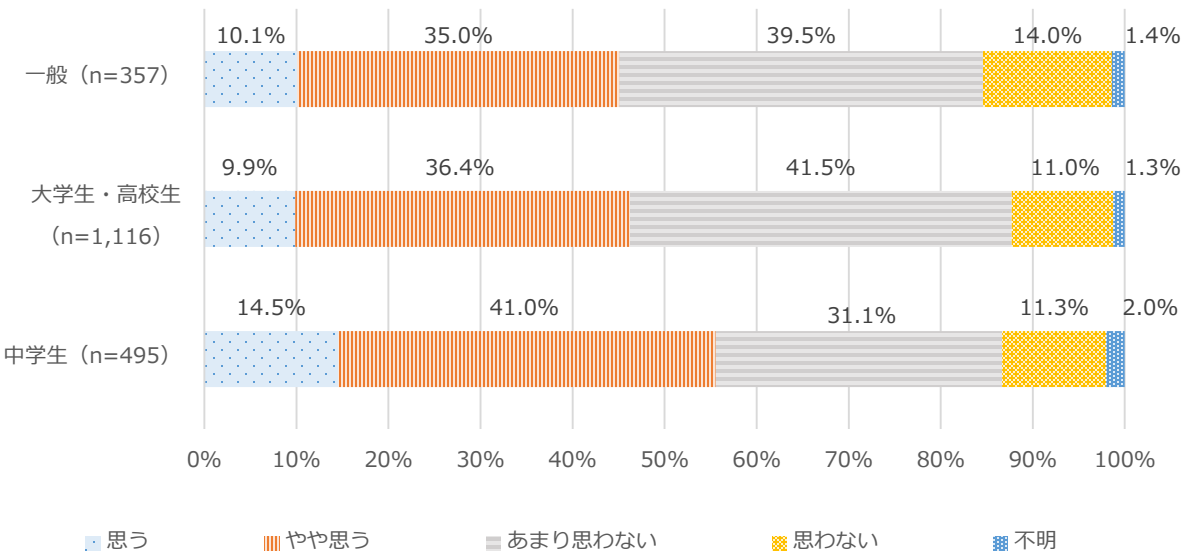
全体の傾向としては、「親しんでいない・行っていない」が最も高く、70%を超える結果となった。



3 文化芸術に関する八戸市のイメージ

【問 2 - (1)】 八戸市は文化芸術活動が盛んなまちだと思いますか？

一般では「盛んなまちだと思う」「やや思う」が45.1%、大学生・高校生は46.3%、中学生は55.5%となり、中学生が最も高くなったが、全体として同じ傾向であることが分かった。

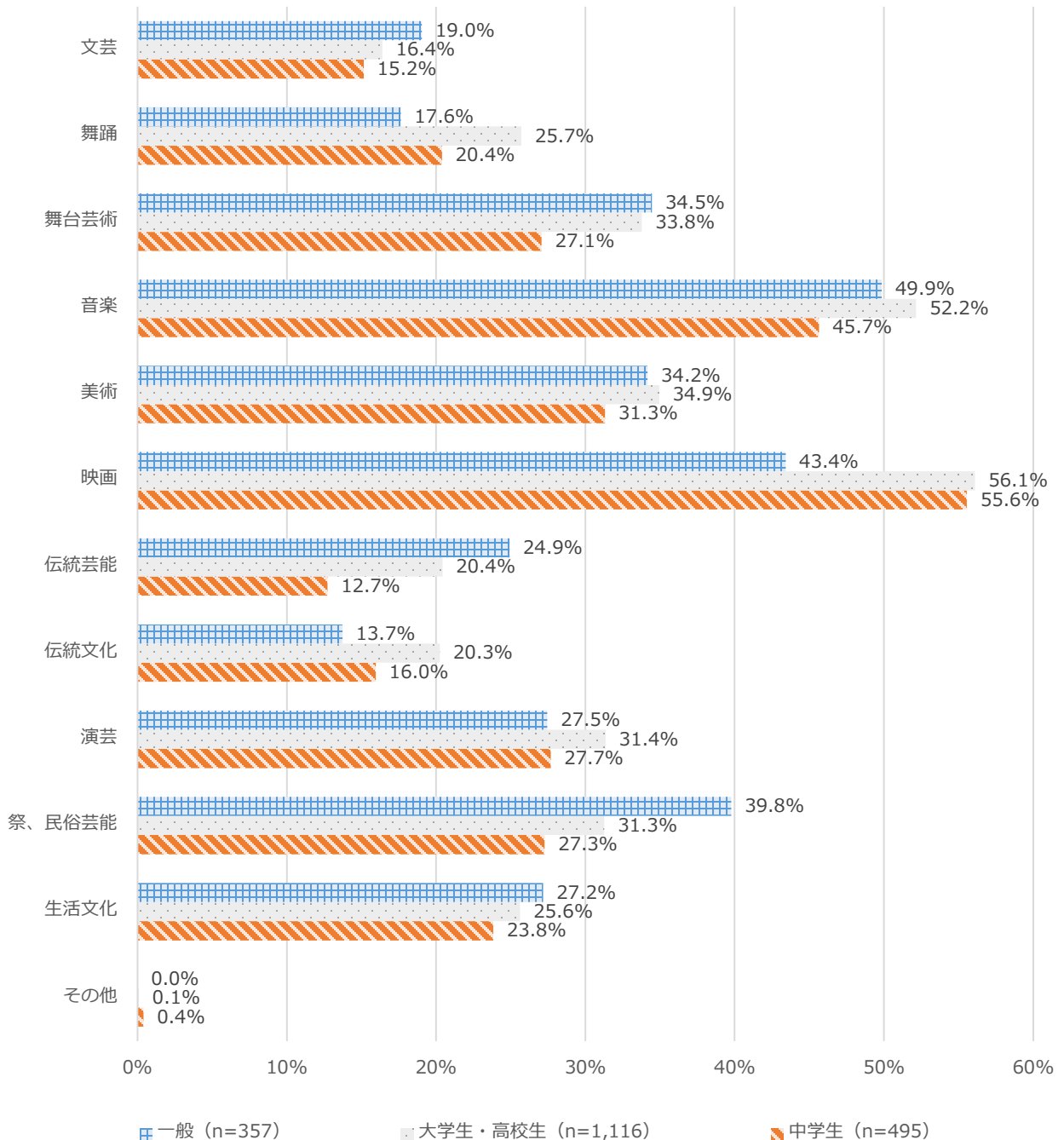


4 文化芸術との関わりについて

【問3-(1)】文化芸術との関わりについてお聞きます。（複数回答可）

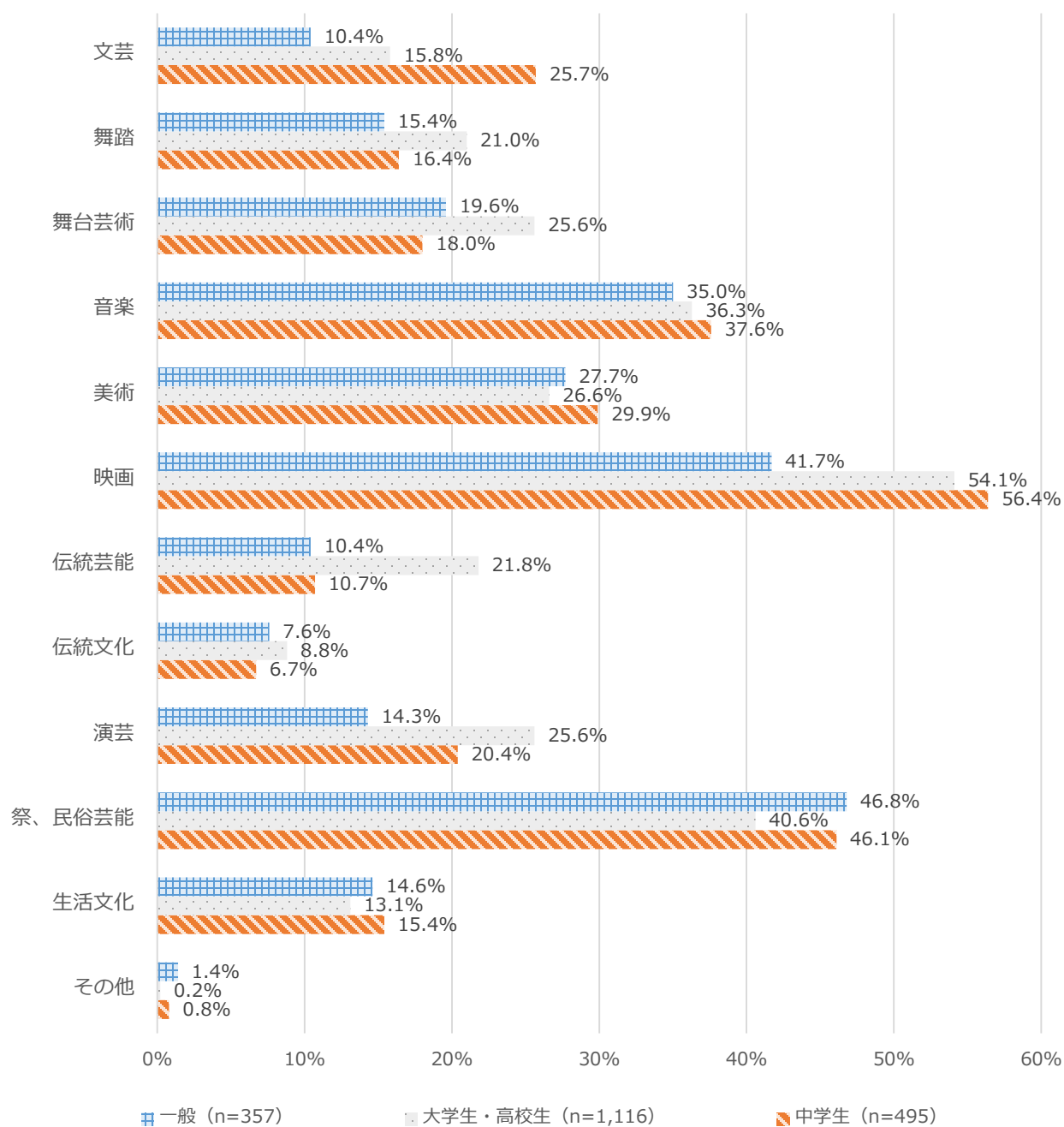
①あなたにとって興味・関心があるもの

「映画」「音楽」が全ての世代で40%～50%台となり、高い関心を示していることが分かった。次いで、30%を超えているのが「美術」、20%～30%台が「祭・民俗芸能」「舞台芸術」「演芸」「生活文化」となった。世代別の傾向では、「映画」は各世代の関心が高いが、特に大学生から中学生の関心が高く、「祭・民俗芸能」では一般の関心が高いという結果となった。



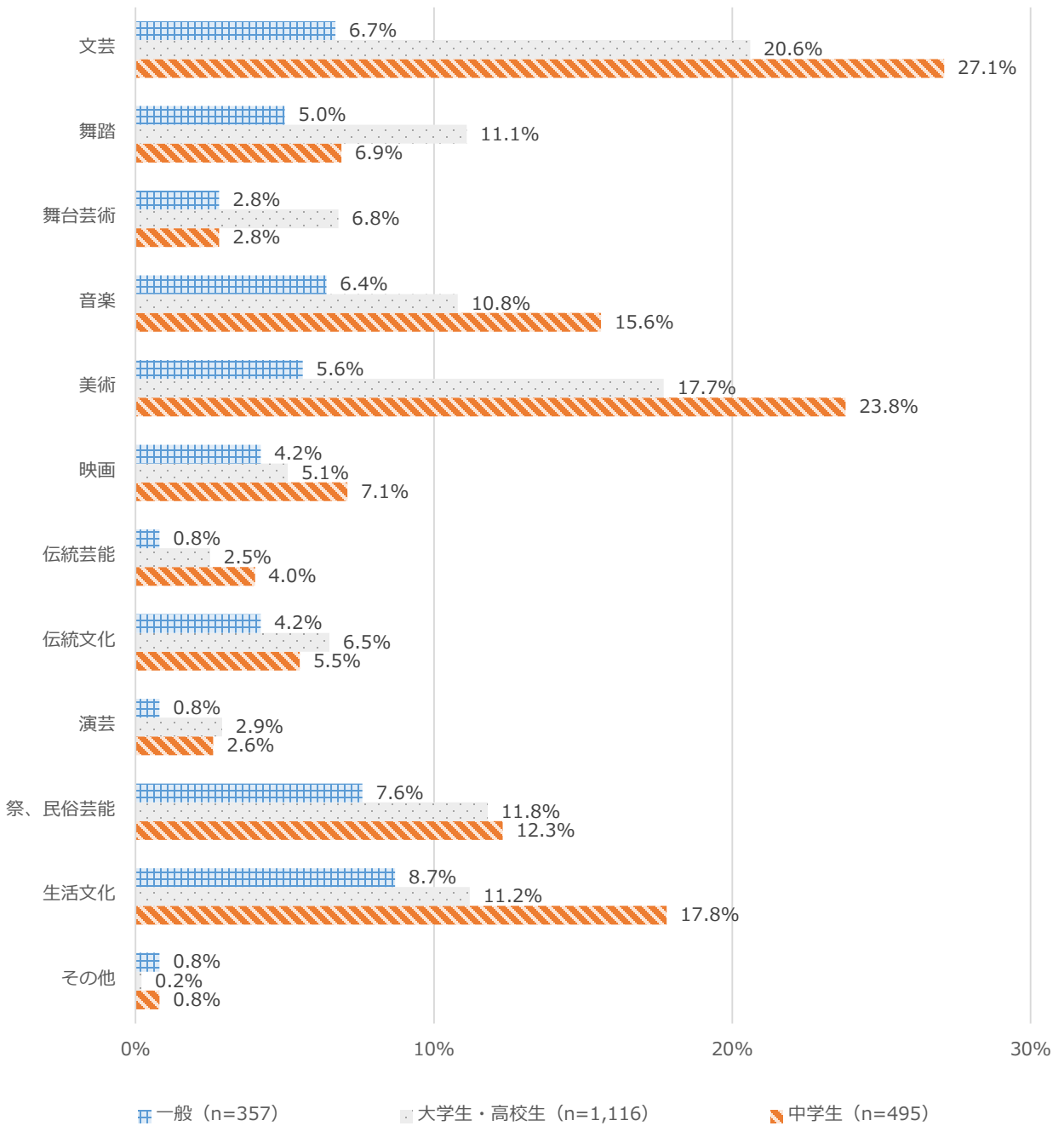
②過去1年間に鑑賞したもの

「映画」は各世代で高く、特に大学生・高校生、中学生が高いという結果になった。次いで、「祭・民俗芸能」「音楽」が全ての世代で30%～40%台となった。各世代の中でも、「舞踊」「舞台芸術」「伝統芸能」「演芸」は大学生・高校生の数値が他と比べて5%～10%程度高く、「文芸」は中学生の数値が高い。



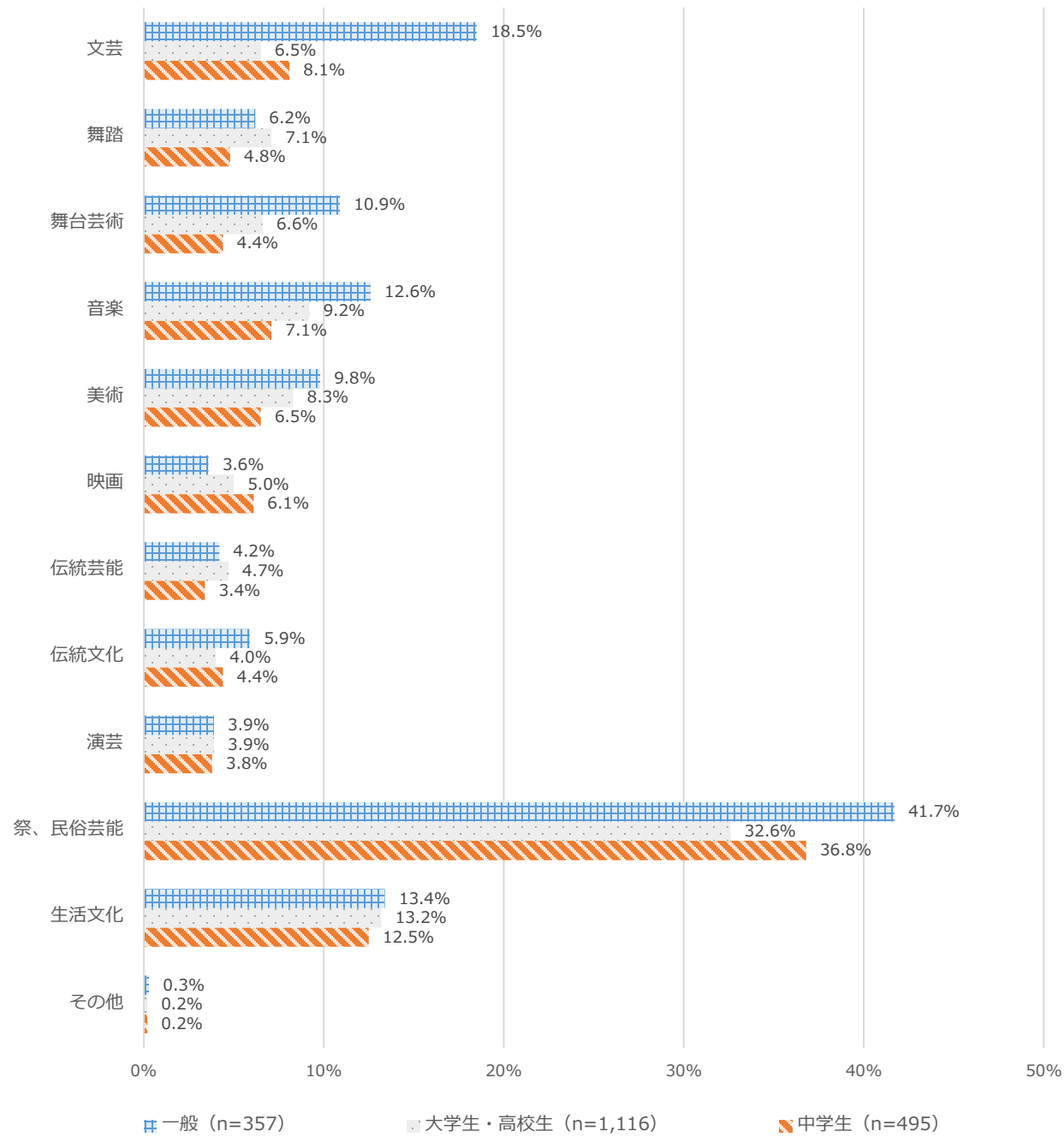
③過去1年間に自ら取り組んだもの

数値が高い項目はいずれも、中学生から大学生の数字が高い傾向があり、授業の影響が考えられる。



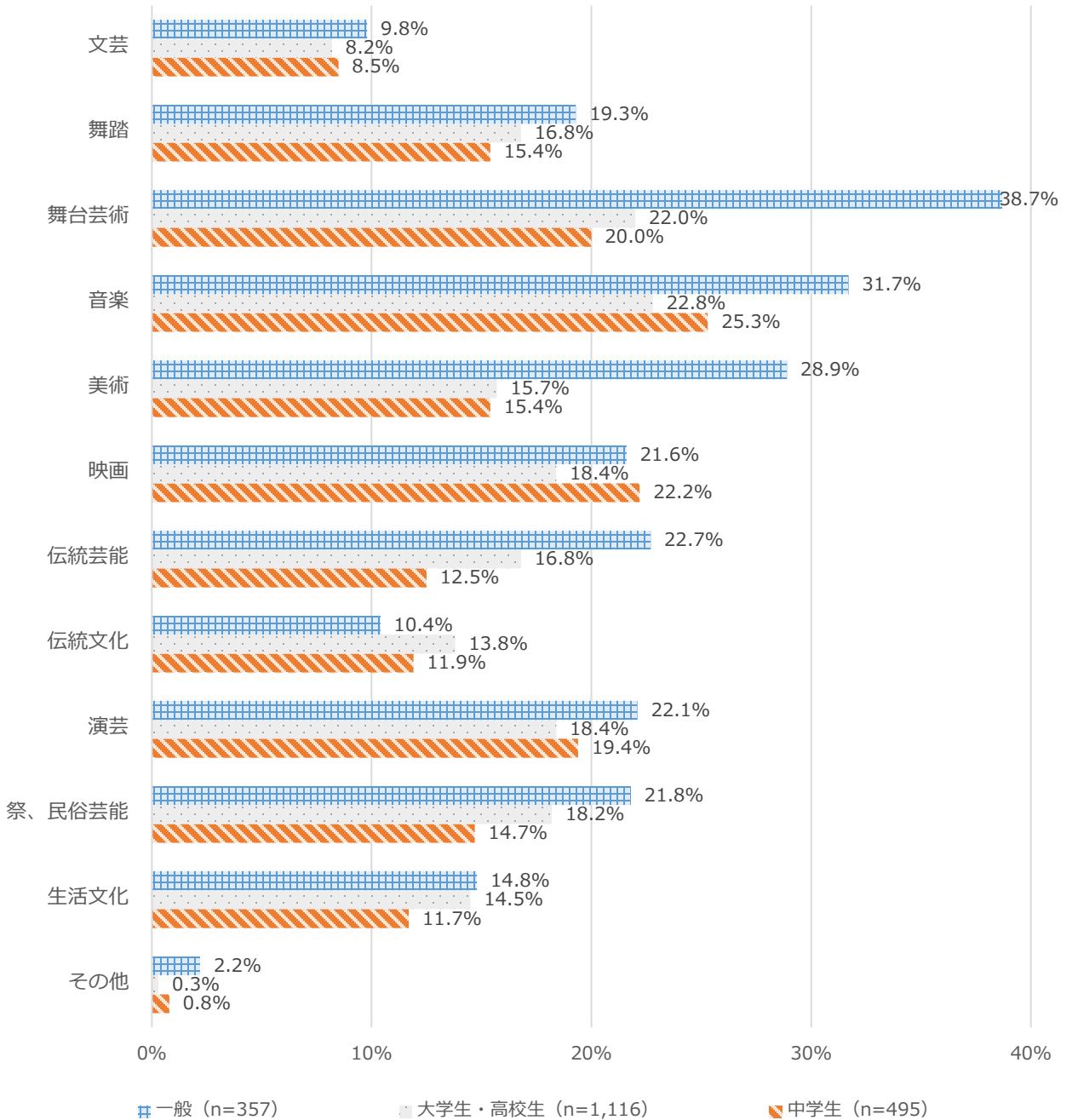
④市民等による市内での活動が活発だと思うもの

「祭・民俗芸能」が30%～40%台となり、突出して高いという結果になった。次いで、「生活文化」は各世代共通して13%前後であり、「文芸」では一般の評価が他世代と比較して目立って高かった。



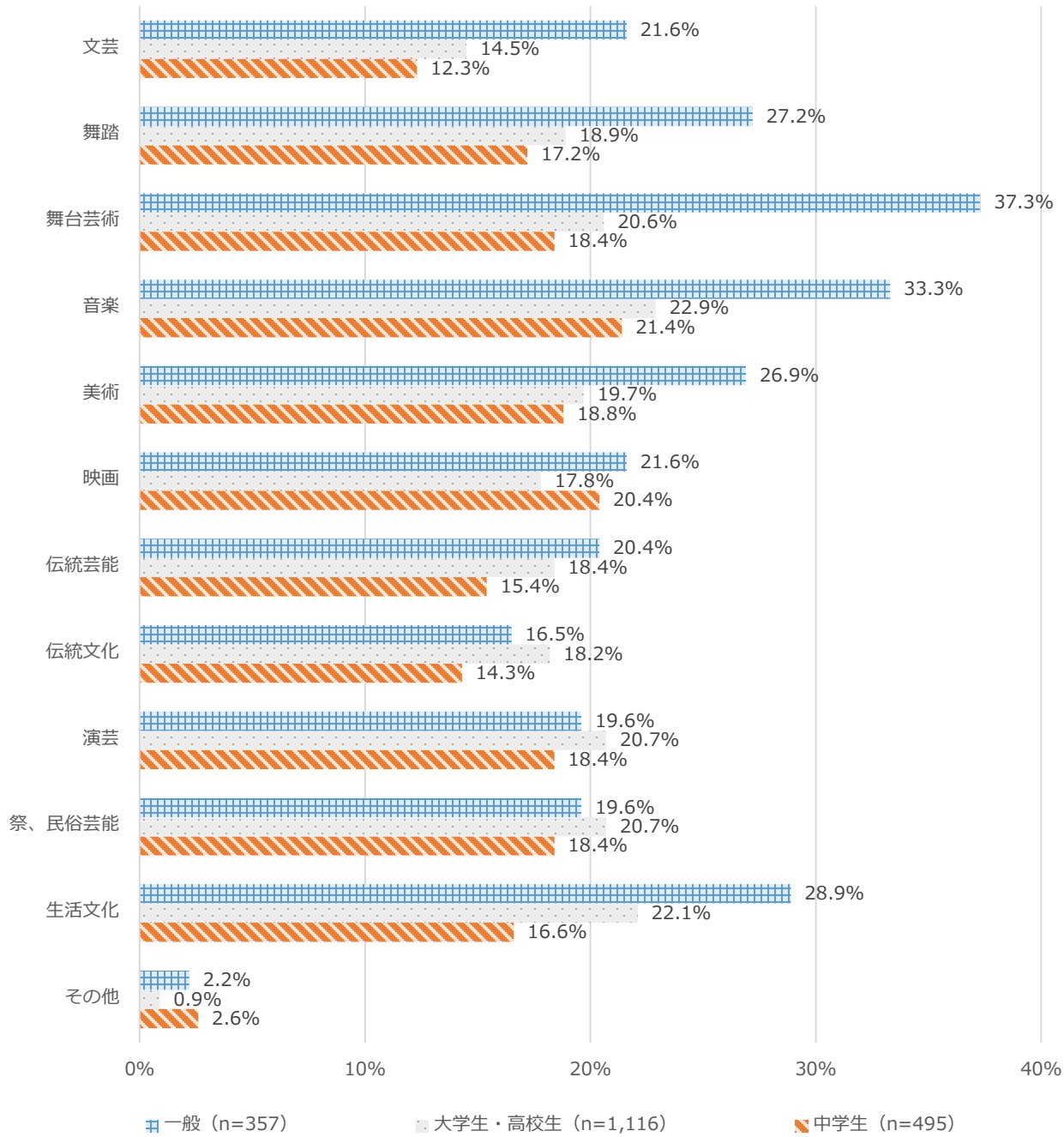
⑤鑑賞の機会が増えたほうが良いと思うもの

「⑤機会」では、「舞台芸術」「音楽」が高く、各世代の評価が20%～30%台となり、特に一般の評価が多世代よりも高い結果となった。



⑥市民等の活動がより活発になることを期待するもの

「舞台芸術」「音楽」が高くなっており、「舞台芸術」「音楽」「生活文化」「舞踊」「美術」「文芸」の6ジャンルで、一般の期待が他の世代と比較して大きくなった。

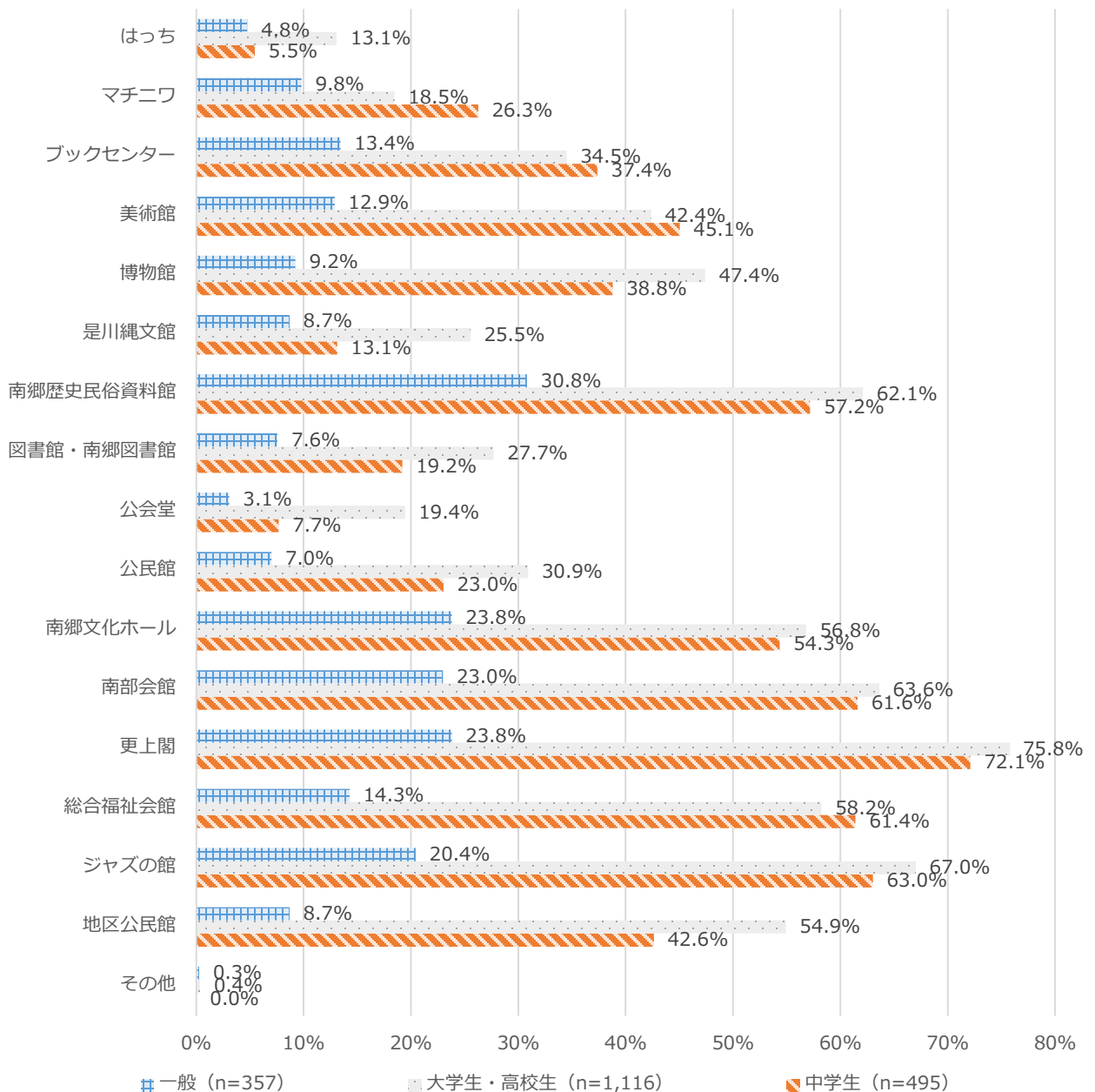


【問3-(2)】施設別にお聞きします。(複数回答可)

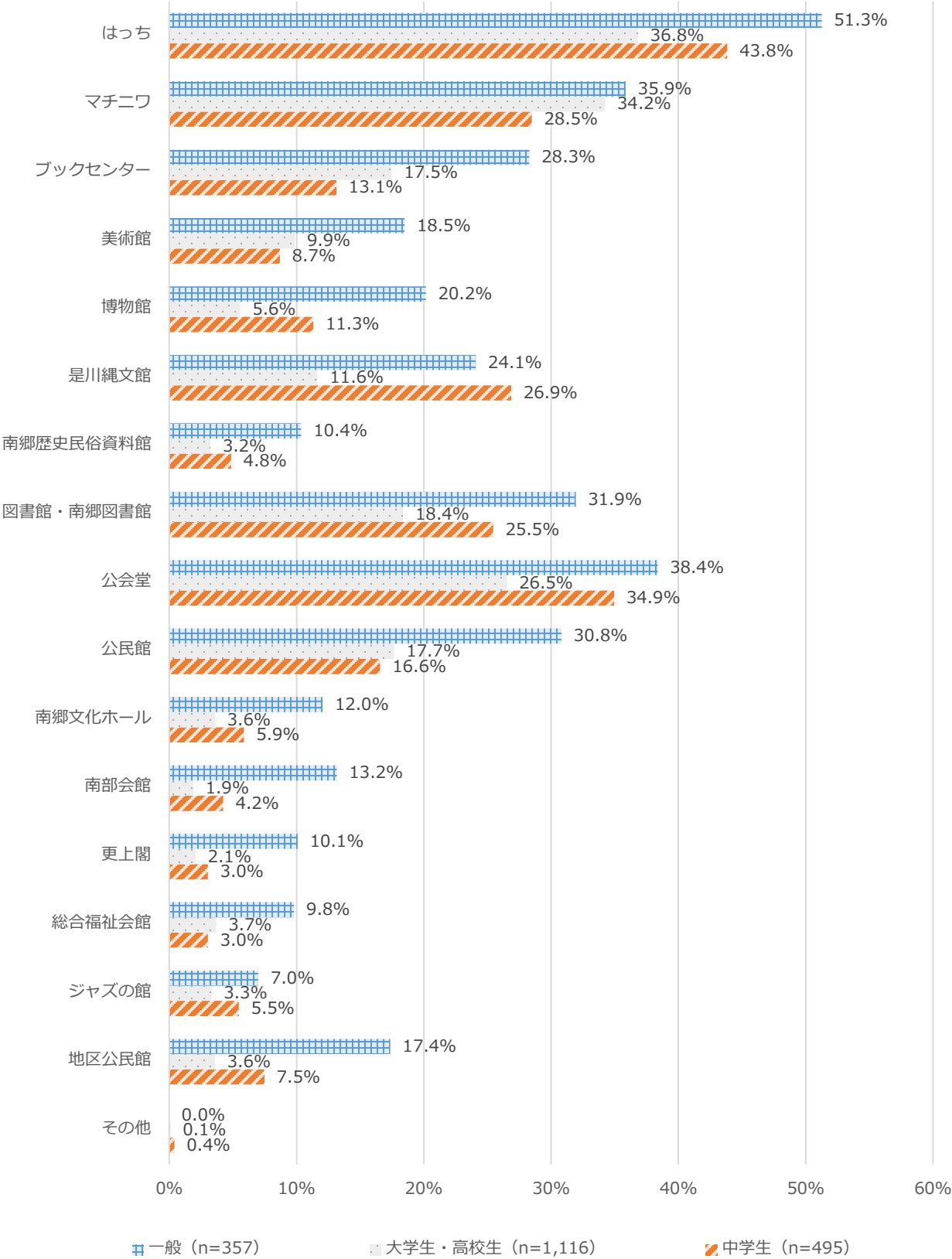
- ①以下の施設のうち、知らない施設 →「知らない」
 ②過去1年間に鑑賞で利用した施設 →「鑑賞」
 ③過去1年間に文化芸術活動(創作、練習、発表等)で利用した施設 →「活動」
 ④文化芸術に関する催しが盛んだと思う施設 →「活発」
 ⑤鑑賞機会の提供について、より充実を期待する施設 →「期待」

公共施設

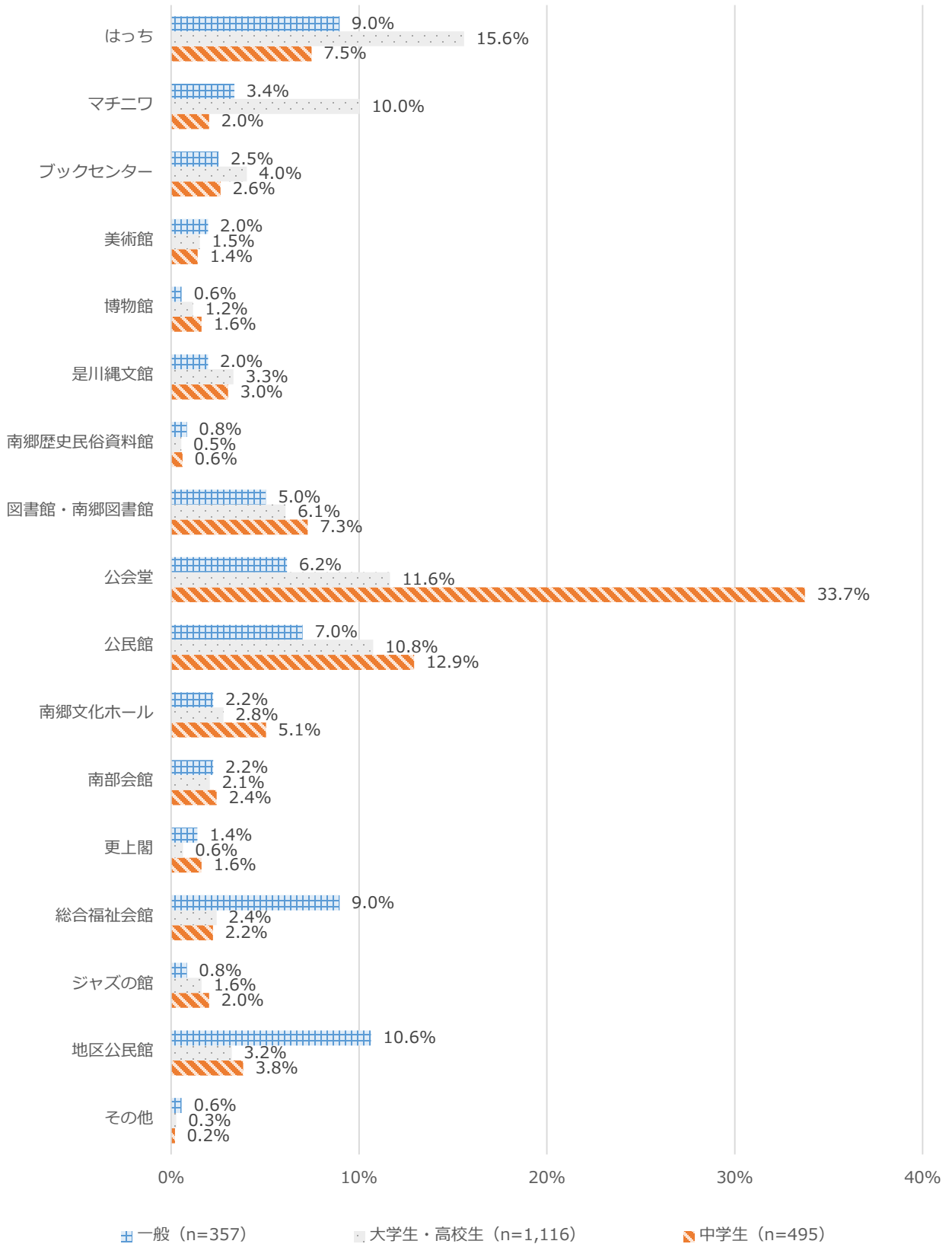
「①知らない」では、南郷地区の文化施設のほか、中心市街地では「更上閣」「南部会館」が全世代で数値が高いことから認知度が低く、「はっち」「マチニワ」「公会堂」は数値が低いことから認知度が高いことが分かった。また、一般と比較すると、大学生・高校生、中学生の数値が高い傾向であるが、「はっち」「マチニワ」のほか、授業等で利用する機会のあると考えられる「是川縄文博物館」「公会堂」などは、比較の数値が低い結果となった。



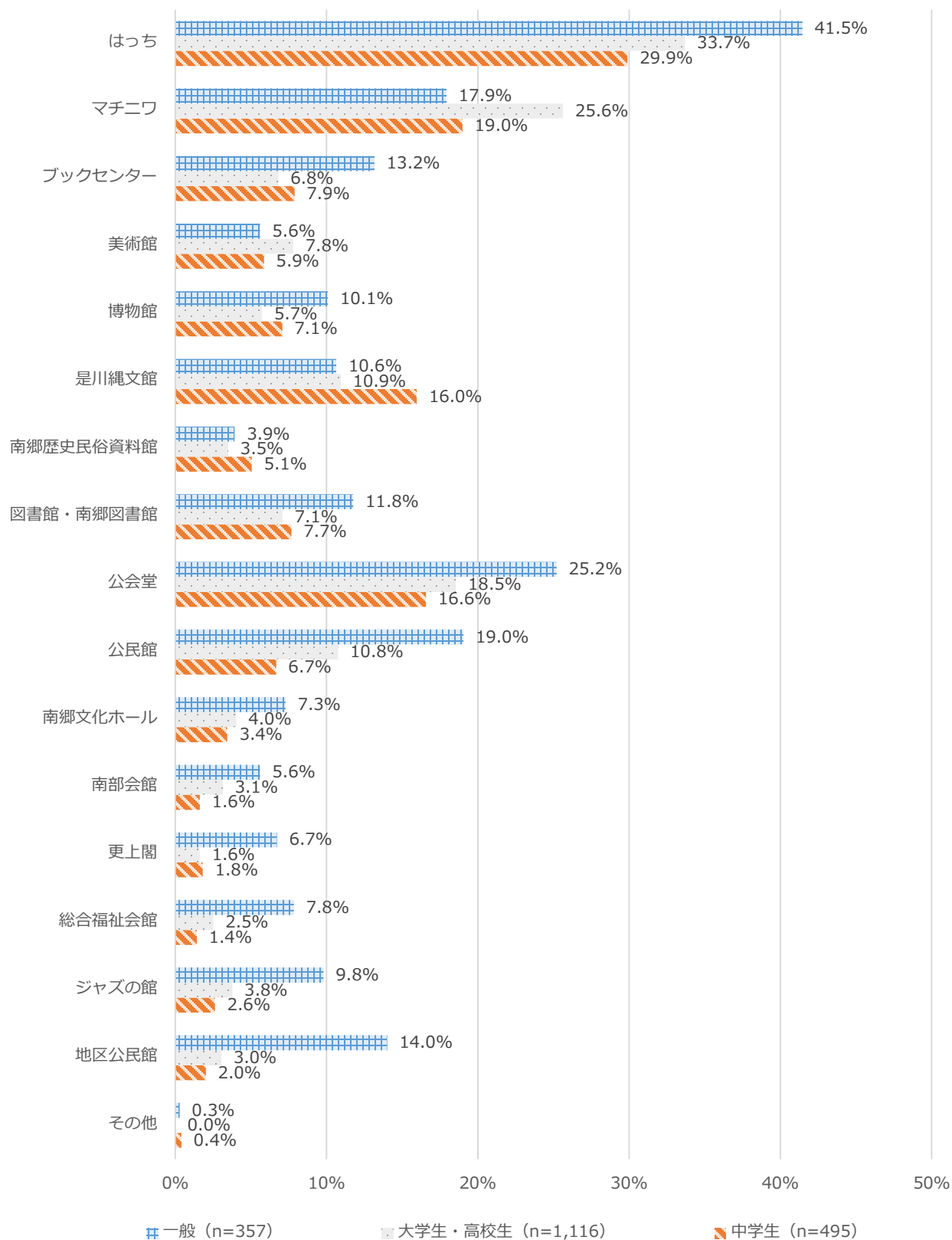
「②鑑賞」では、「はっち」「マチニワ」「公会堂」は全世代で利用度が高い。3施設以外で30%を超えたのは、一般の「図書館・南郷図書館」「公民館」のみであった。全ての施設で、一般の利用が高い傾向がある。



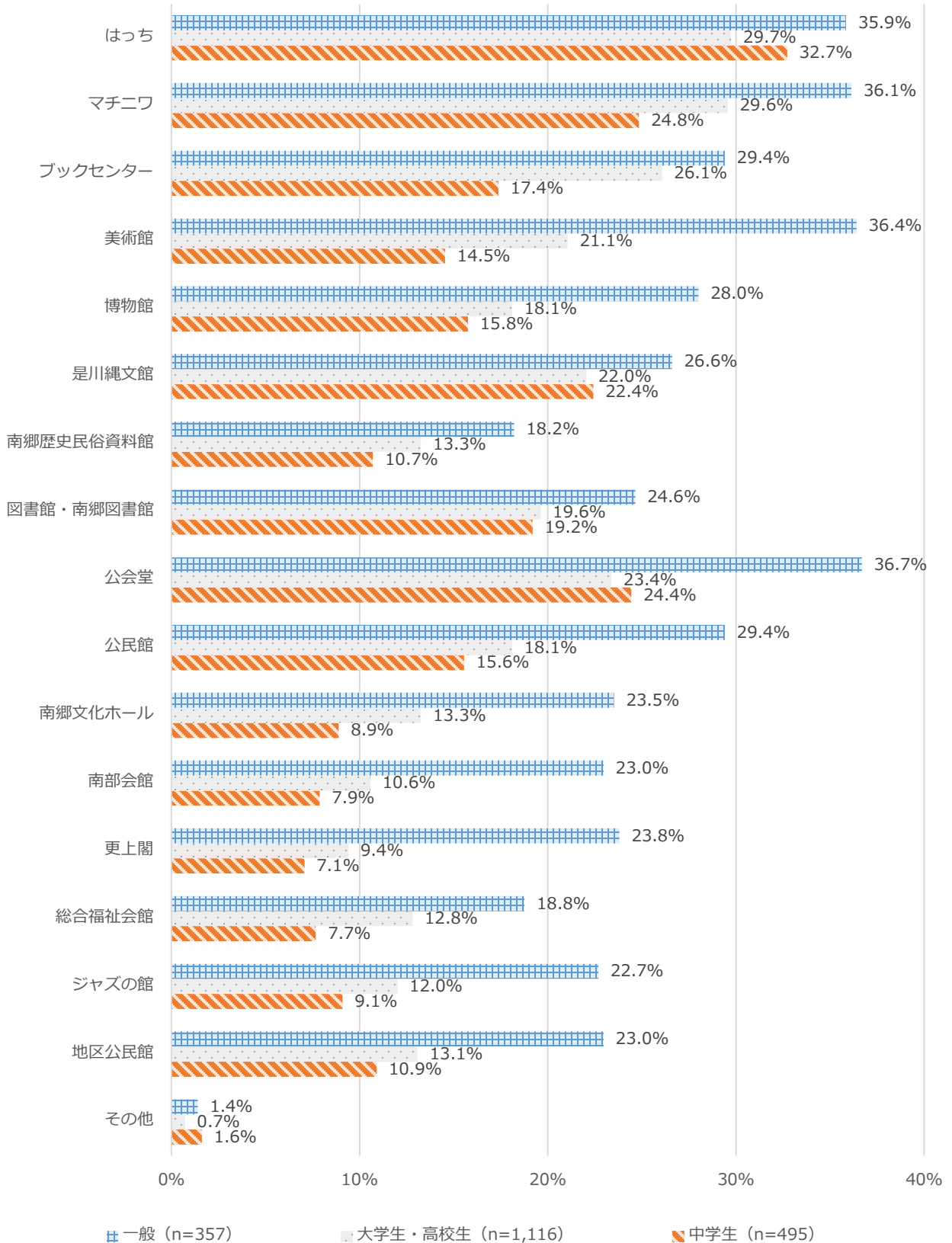
「③活動」では、「はっち」「公会堂」「公民館」が高い結果となった。特に、「公会堂」は中学生の数値が高く、「はっち」「マチニワ」は大学生・高校生、「総合福祉会館」「地区公民館」は一般が他世代と比較して高くなった。



「④活発」では、「はっち」が概ね30%以上が活発と評価している。「マチニワ」は大学生・高校生が、「公会堂」「公民館」は一般が、「是川縄文館」は中学生が評価しており、普段の利用に応じた結果であると推測される。

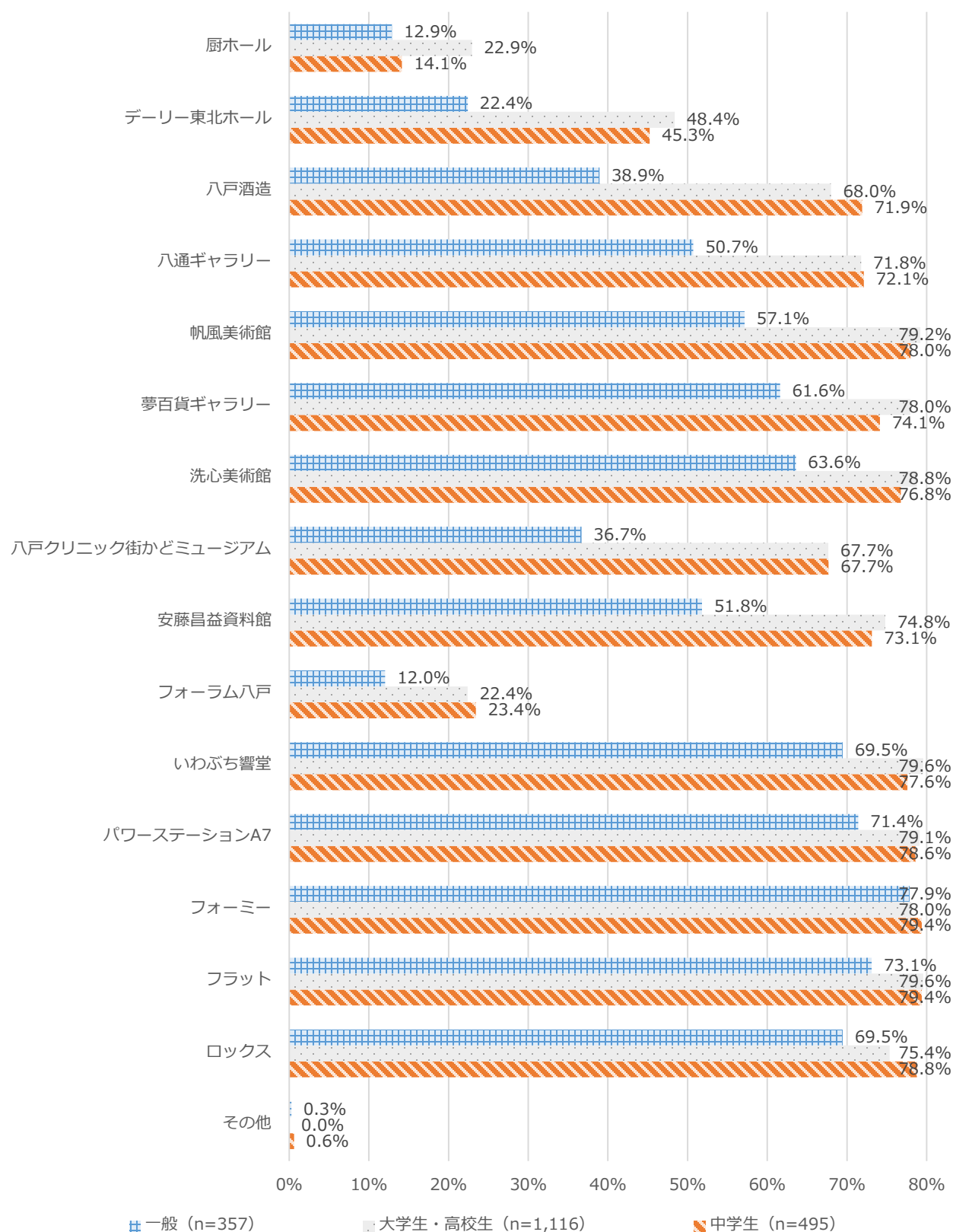


「⑤期待」では、一般は「公会堂」「美術館」「マチニワ」「はっち」の順で高い数値を示しており、大学生・高校生、中学生も同様の傾向を示していたが、「美術館」については一般と比較すると低い結果となった。また、全ての施設において、大学生・高校生、中学生と比較して、一般の期待値が高くなった。

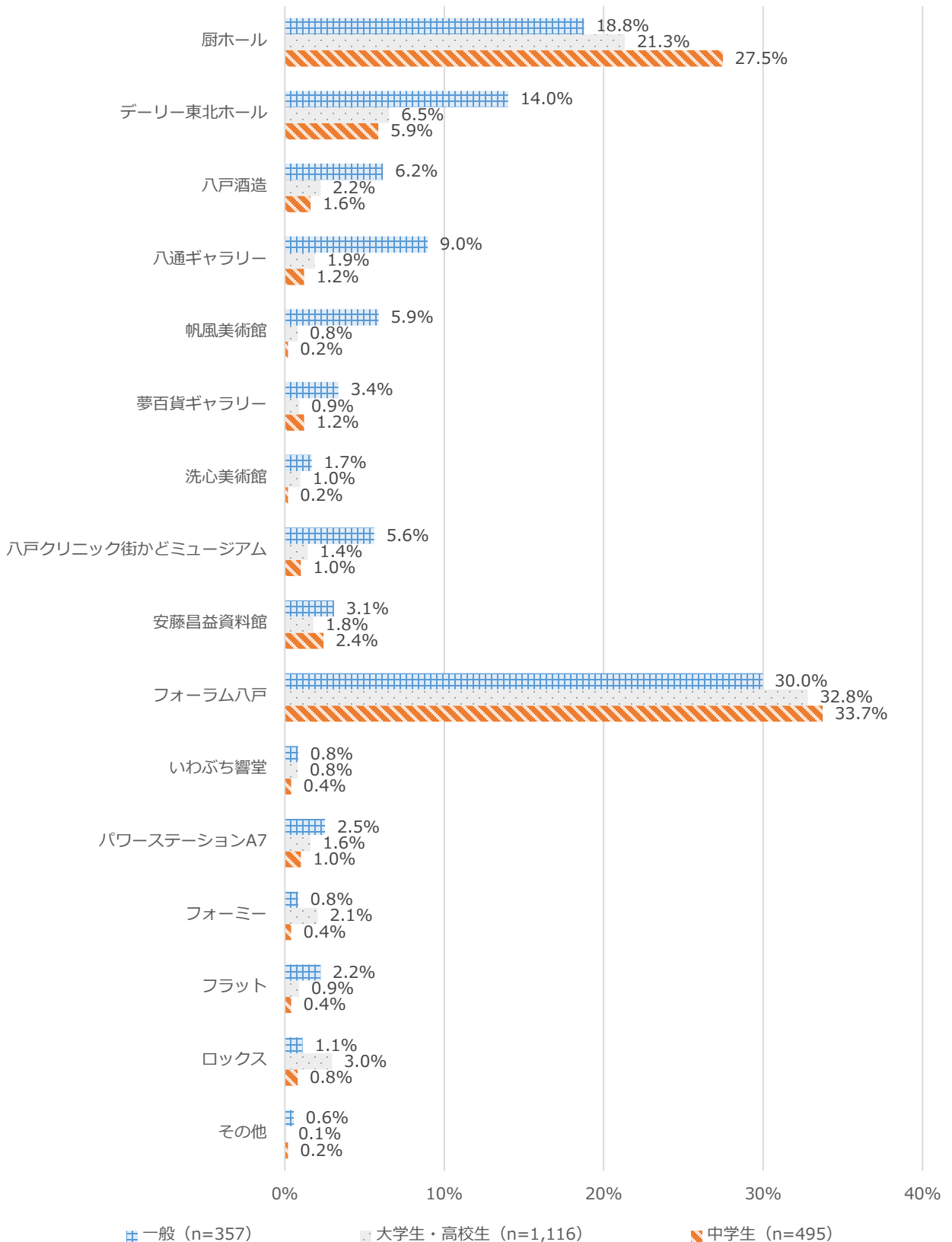


民間施設

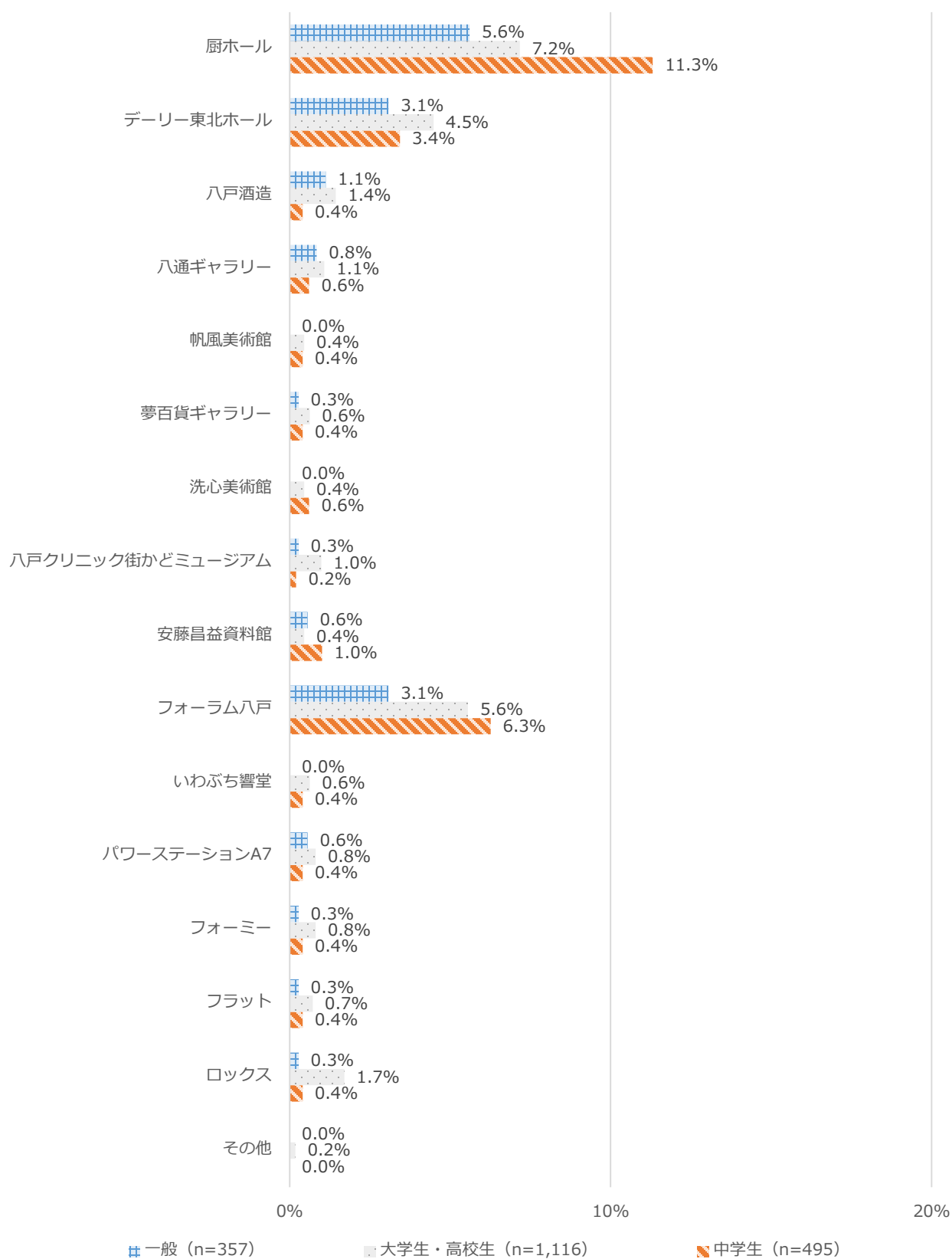
「①知らない」では、全世代が50%を下回ったのは「厨ホール」「フォーラム八戸」「デリー東北ホール」の3施設のみとなった。一般と比較すると、大学生・高校生、中学生の認知度がいずれの施設でも高い数値となった。



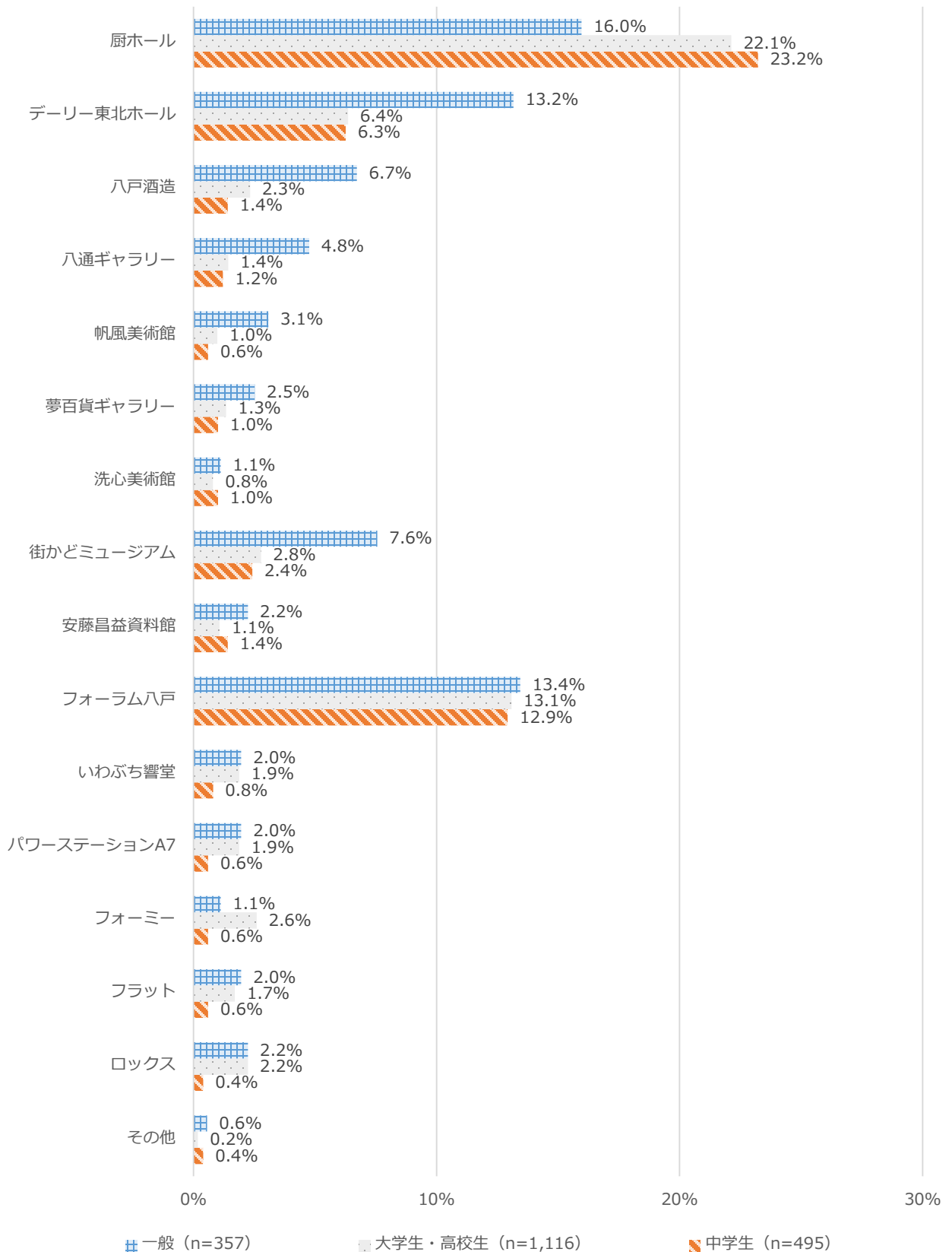
「②鑑賞」では、全世代で30%を超えたのは「フォーラム八戸」で、次いで「厨ホール」が約20%、多くの施設は10%を下回る結果となった。他世代と比較すると、一般の利用が比較的高い傾向があるが、いくつかのライブハウスは大学生・高校生の利用が高い結果となった。



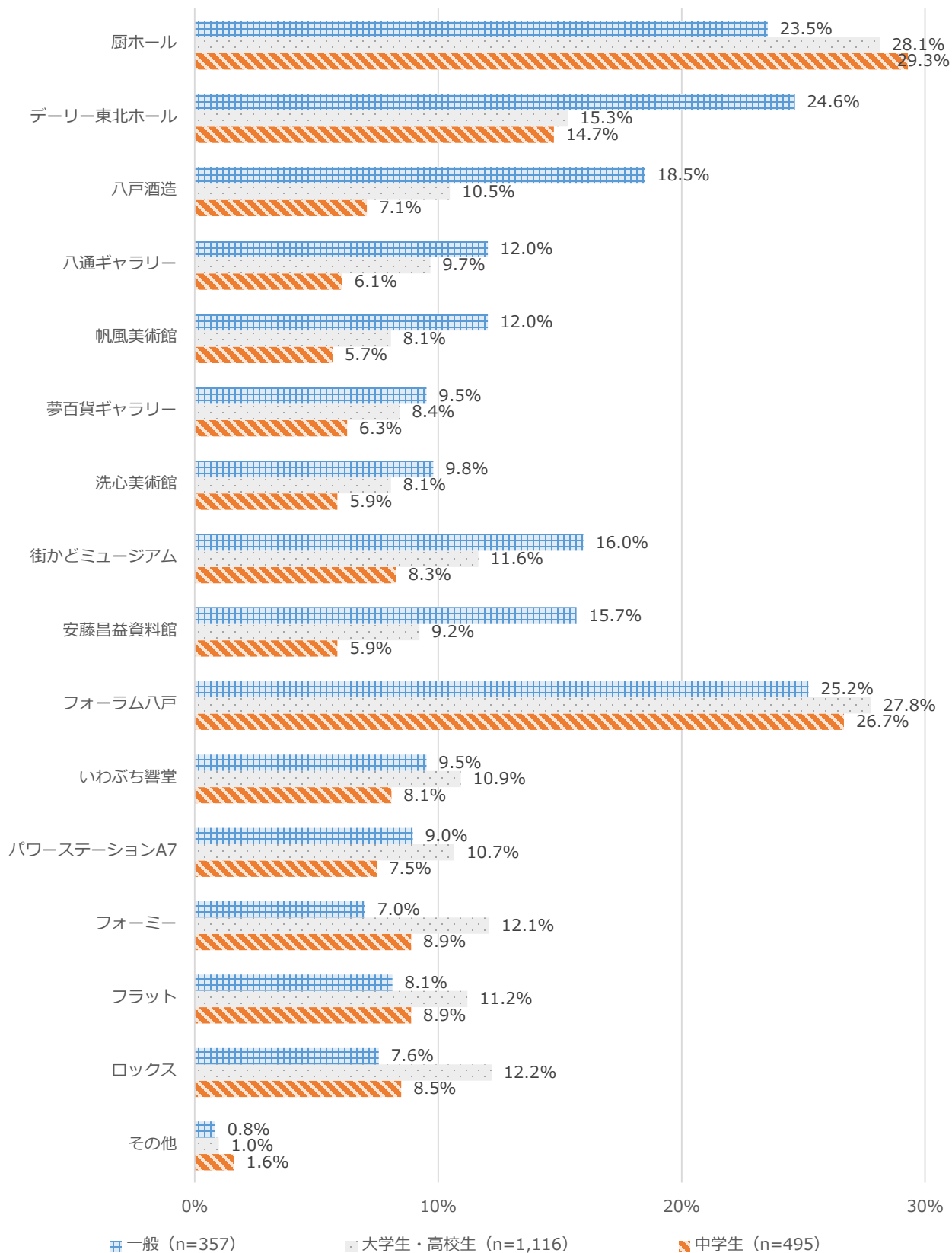
「③活動」では、「厨ホール」「八戸フォーラム」「デーリー東北ホール」が高く、他施設は軒並み1%を前後であった。



「④活発」では、「厨ホール」が中学生から大学生の評価が比較的高く、「デーリー東北ホール」「八戸酒造」「八戸クリニック街かどミュージアム」では一般の評価が比較的高くなった。



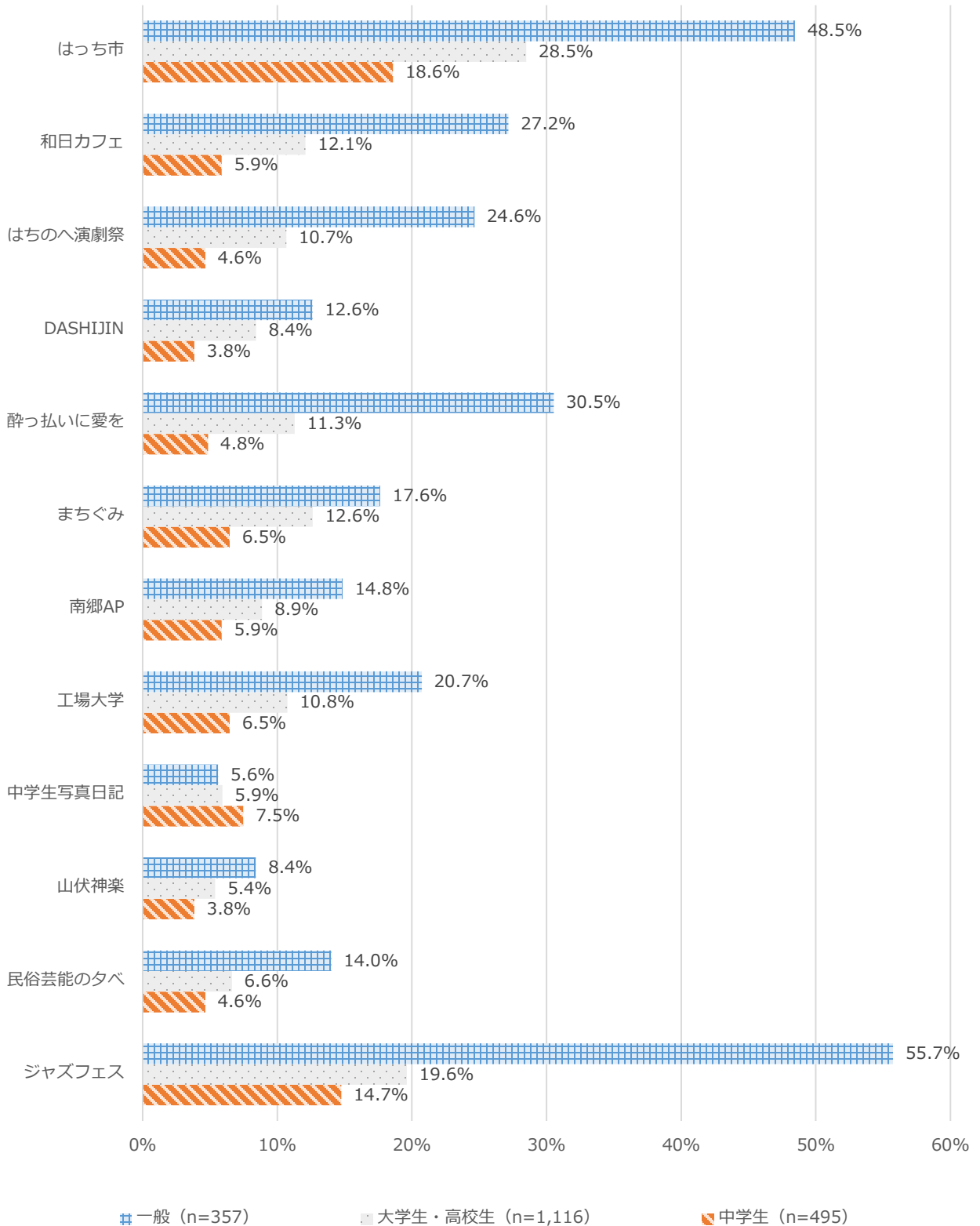
「⑤期待」では、「厨ホール」「八戸フォーラム」が全世代で20%を超える結果となった。「デーリー東北ホール」「街かどミュージアム」「八戸酒造」等は一般からの他世代と比較して一般の評価が高く、「いわぶち響堂」等のライブハウスは大学生・高校生、中学生からの評価が高い結果となった。



【問3-(3)】事業別にお聞きします。(複数選択可)

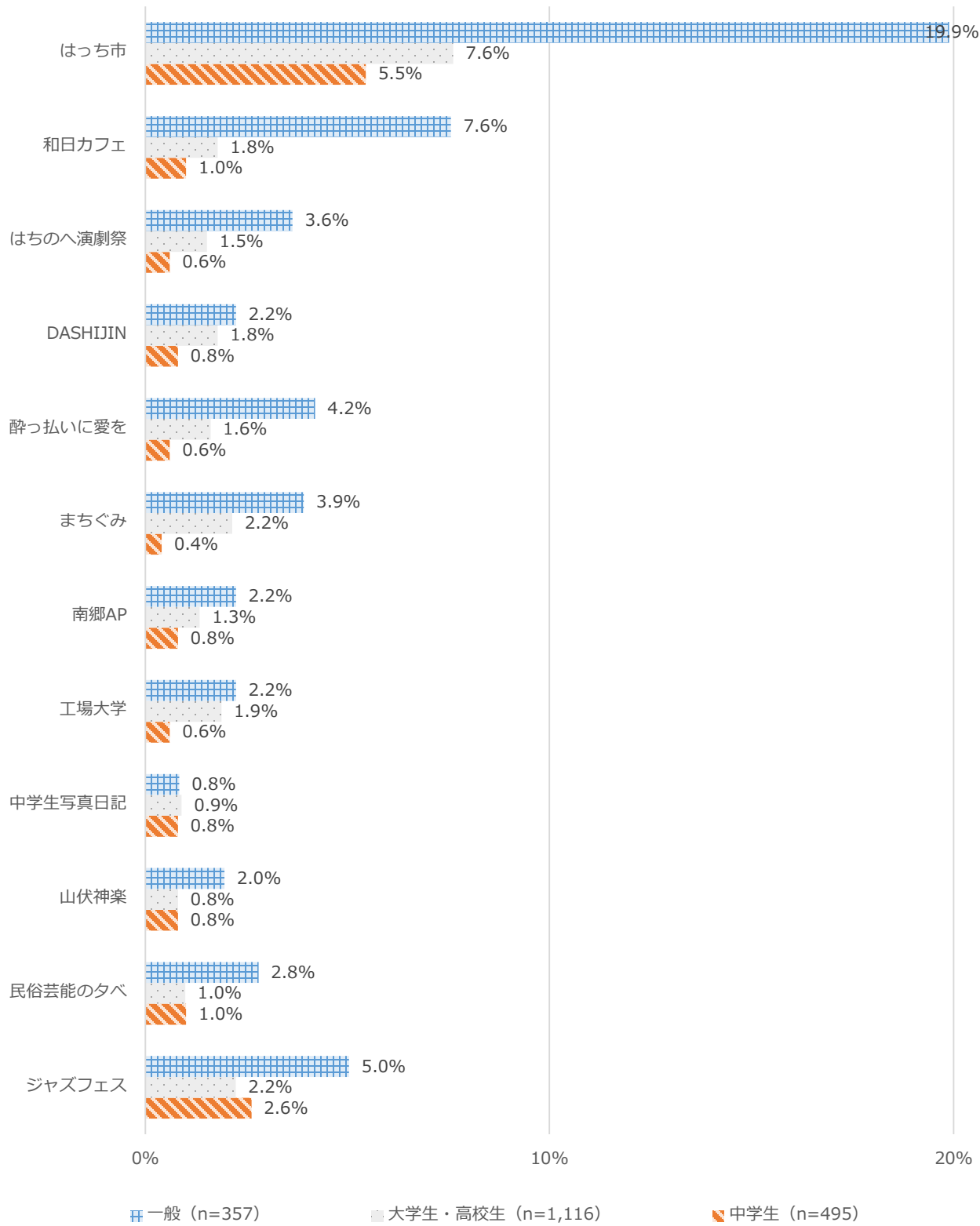
①知っている事業

「はっち市」「ジャズフェスティバル」の数値が高く、また、「中学生写真日記」以外は一般の数値が大学生・高校生、中学生よりも高い結果となった。



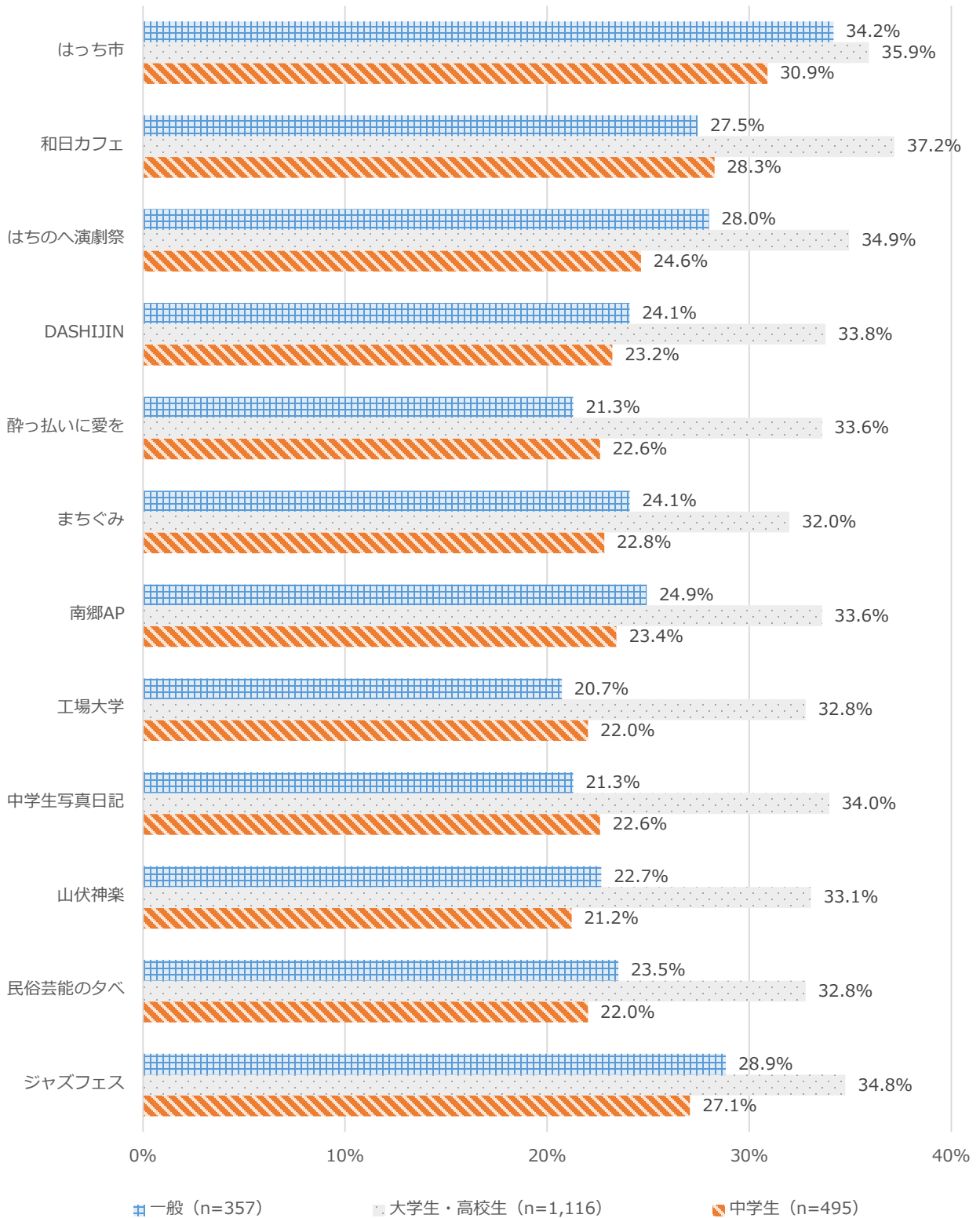
②過去1年間に利用や鑑賞、参加した事業

各世代ともに「はっち市」の数値が高く、「和日カフェ」「ジャズフェスティバル」が続いた。他の事業については、一般と大学生で事業毎に少し数値が出ているが、特に大学生・高校生と中学生は、「ジャズフェスティバル」と大学生・高校生の「まちぐみ」に数値が出ている以外0%付近で推移している。



③より充実した事業実施を期待する事業

大学生・高校生の期待が概ね30%台で推移するのに比較して、一般と中学生の期待が20%台で推移している。

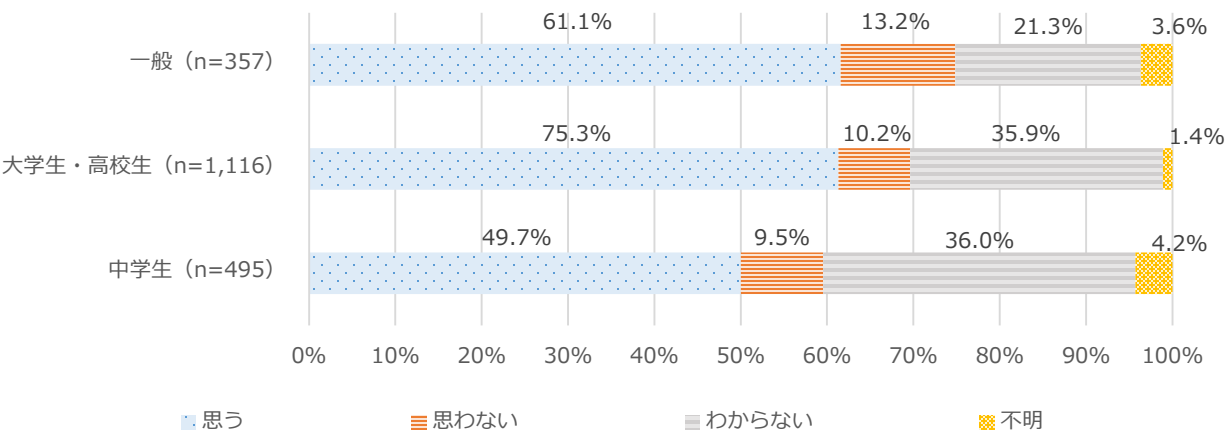


5 八戸市の文化芸術について

(1) 文化芸術の充実と魅力的な街の関係性

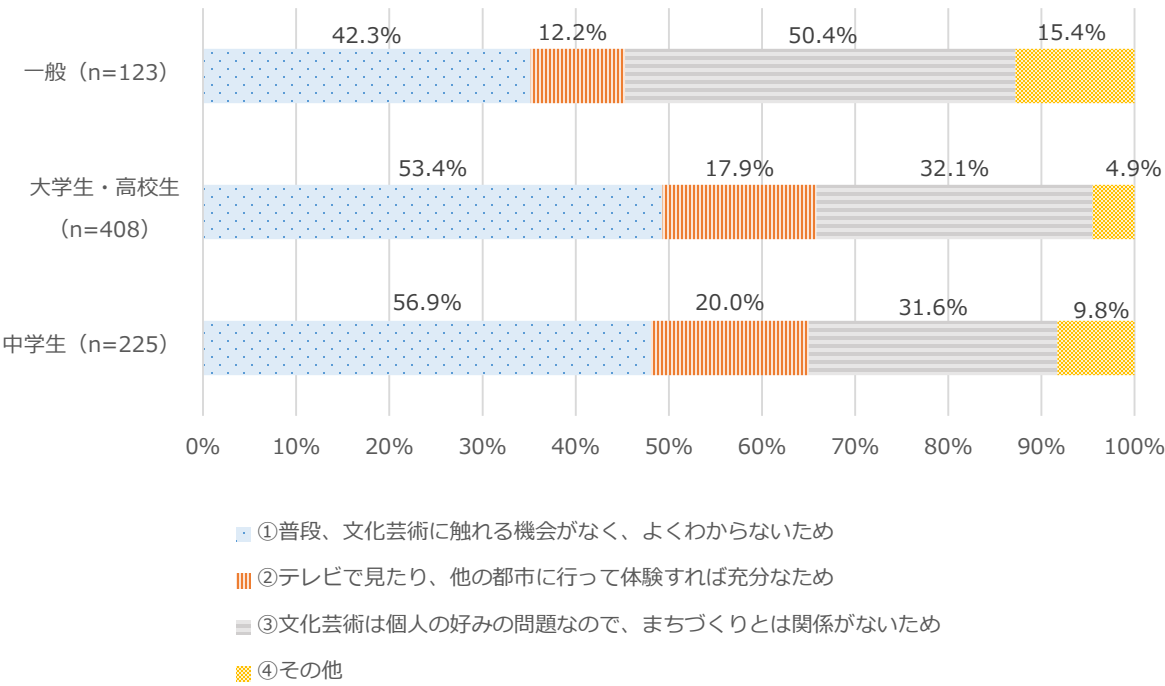
【問4】文化芸術に関する鑑賞や活動の機会が充実することは、暮らしたいまち、住み続けたいまち等魅力的なまちをつくることにつながるといいますか。

全ての世代で、「思う」が最も高い数値となった。



【問5】問4で「思わない」又は「わからない」とお答えした方にお聞きします。そのように考える理由は何でしょうか。

一般は、「③文化芸術は個人の好みの問題なので、まちづくりとは関係ないため」と回答した人が最も多く、一方で、大学生・高校生、中学生は「①普段、文化芸術に触れる機会がなく、よくわからないため」が最も多い結果となった。



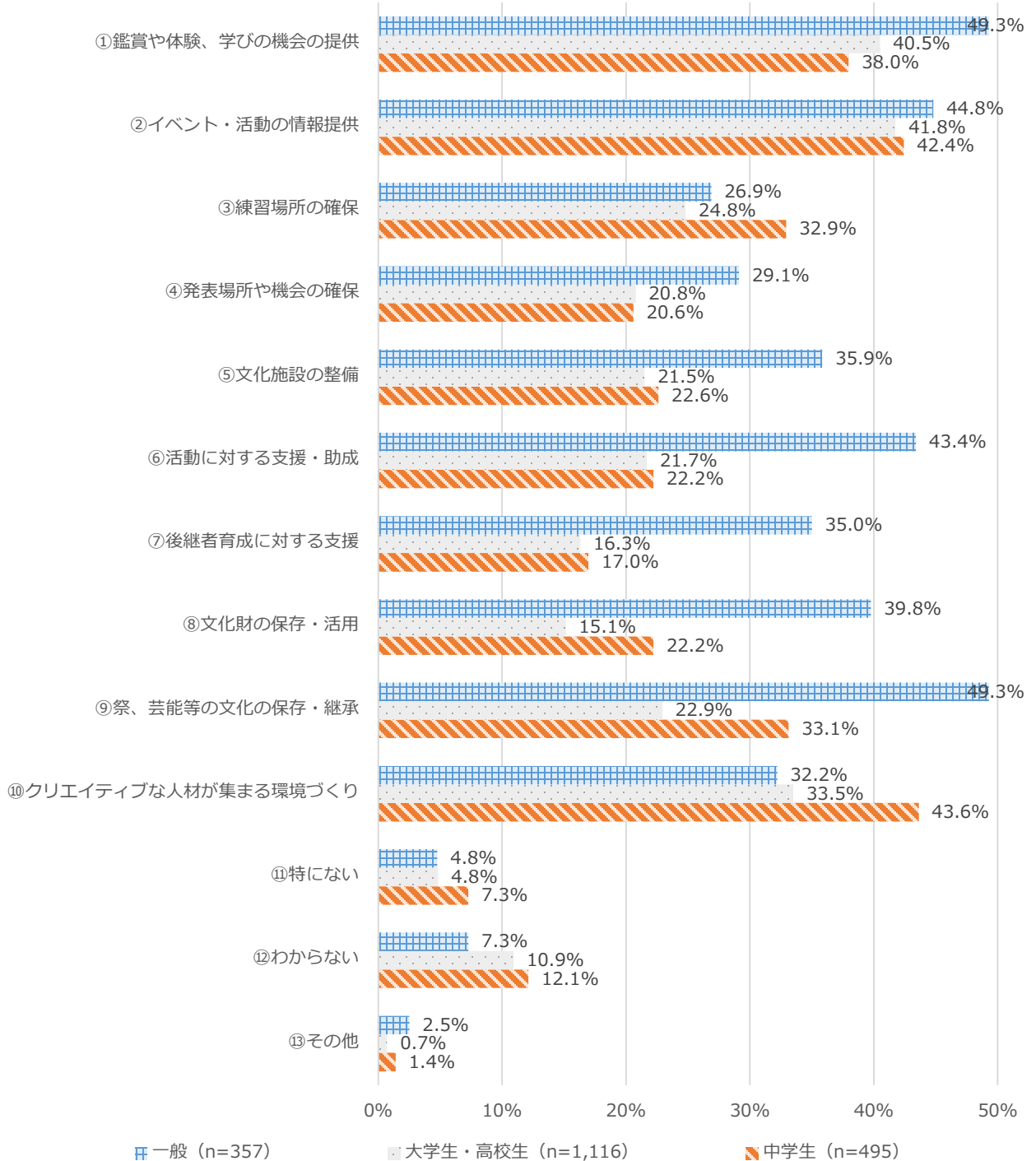
(2) 八戸市の文化芸術について

【問6・7】文化芸術に関して、取り組む必要があると思う番号に○をつけてください。

(複数選択可)

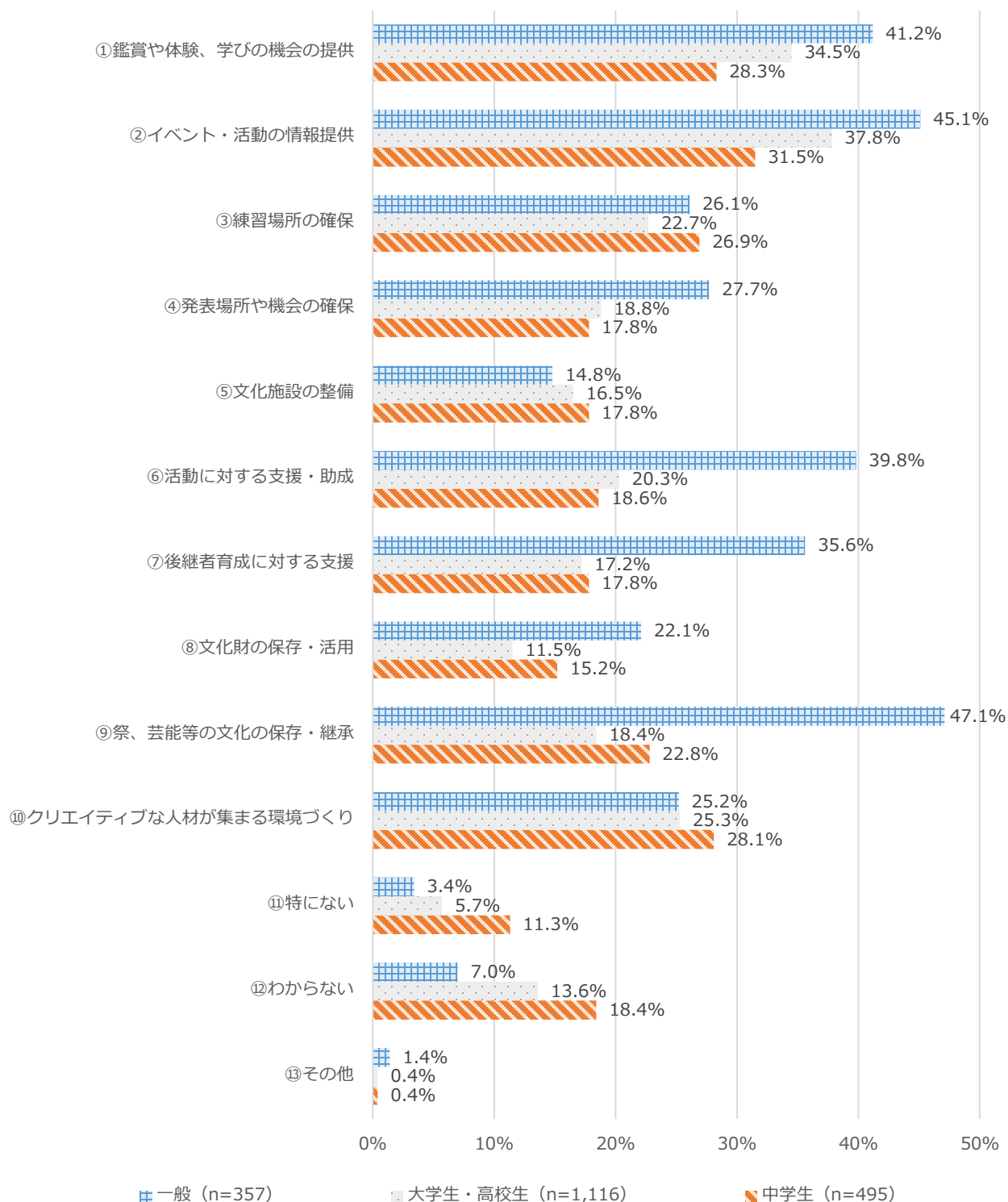
行政（県、市等）

「②イベント・活動の情報提供」が全ての世代で40%を超える結果となった。大学生・高校生、中学生と比較して、「⑨祭、芸能等の文化の保存・継承」等は一般の数値が高い傾向であるが、「③練習場所の確保」「⑩クリエイティブな人材が集まる環境づくり」は中学生の数値が高い結果となった。



民間（企業、市民団体等）

一般は、「⑨祭、芸能等の文化の保存・継承」「②イベント・活動の情報提供」「①鑑賞や体験、学びの機会の提供」の順で40%を超える結果となった。大学生・高校生、中学生では40%を超える項目はなかったが、「②イベント・活動の情報提供」「①鑑賞や体験、学びの機会の提供」「⑩クリエイティブな人材が集まる環境づくり」の順で高い結果となった。

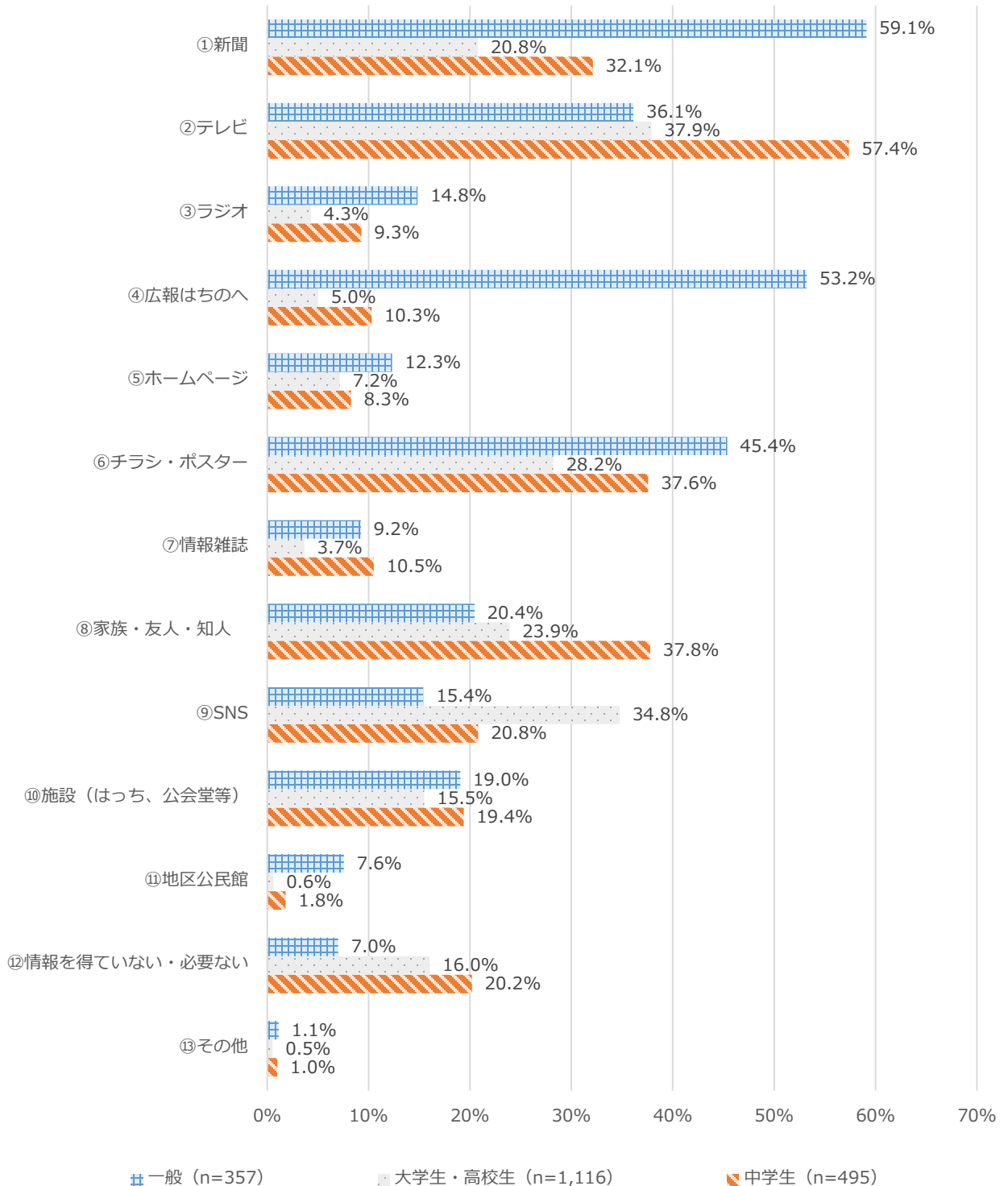


(3) 文化芸術に関する情報入手について

【問8】 普段、文化芸術に関するイベントや出来事に関する情報はどちらから入手していますか。

あてはまる番号に○をつけてください。（複数選択可）

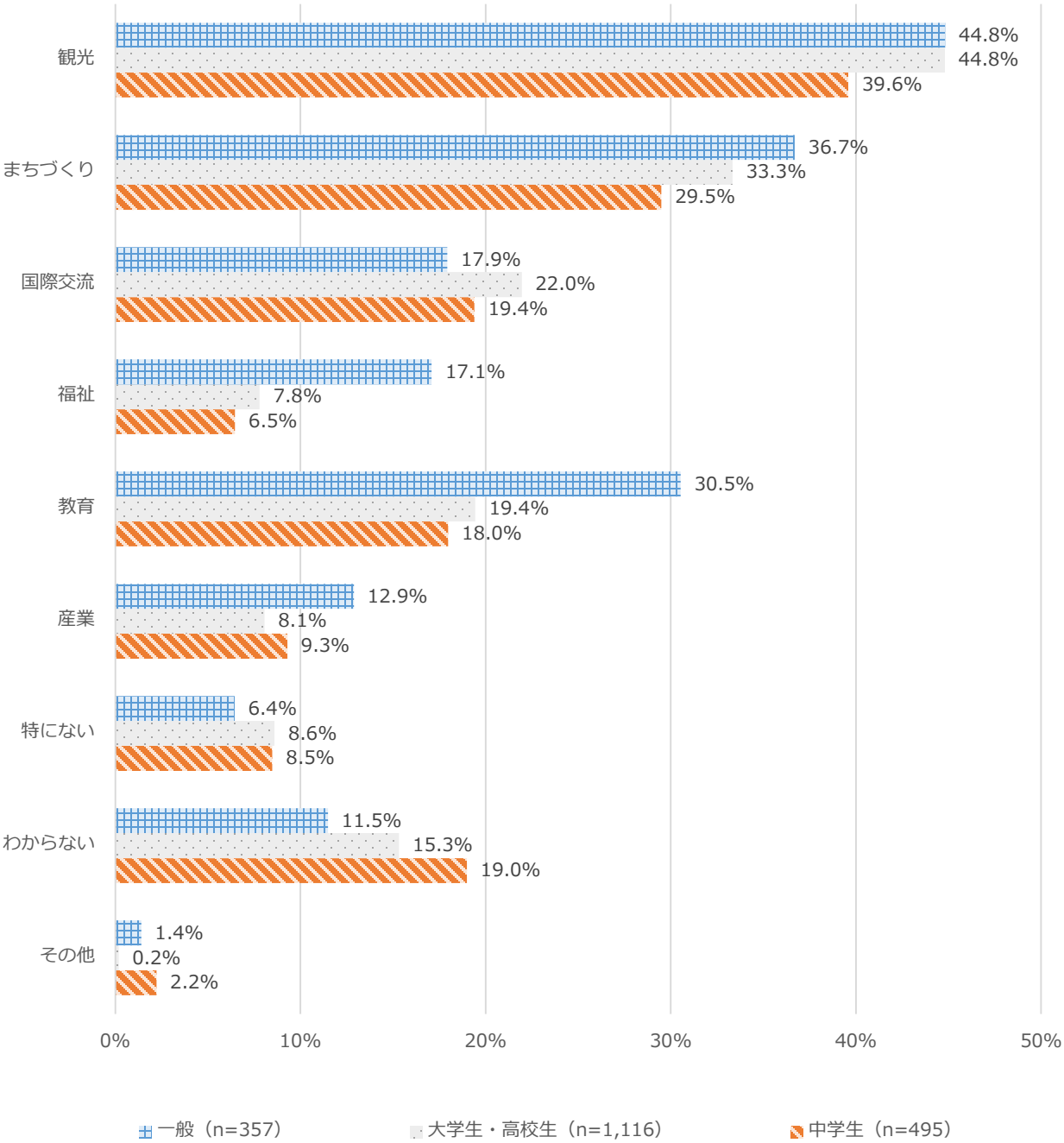
一般は、「①新聞」「②広報はちのへ」「③チラシ・ポスター」の順で高い数値を示した。一方、大学生・高校生は「②テレビ」「⑨SNS」、中学生は「②テレビ」「⑧家族・友人・知人」の順で高い結果となった。



(4) 文化芸術の持つ可能性を活かせる「分野」について

【問9】文化芸術が持つ可能性を活かせる、又は、活かしてほしいと思う「分野」はありますか。
(複数選択可)

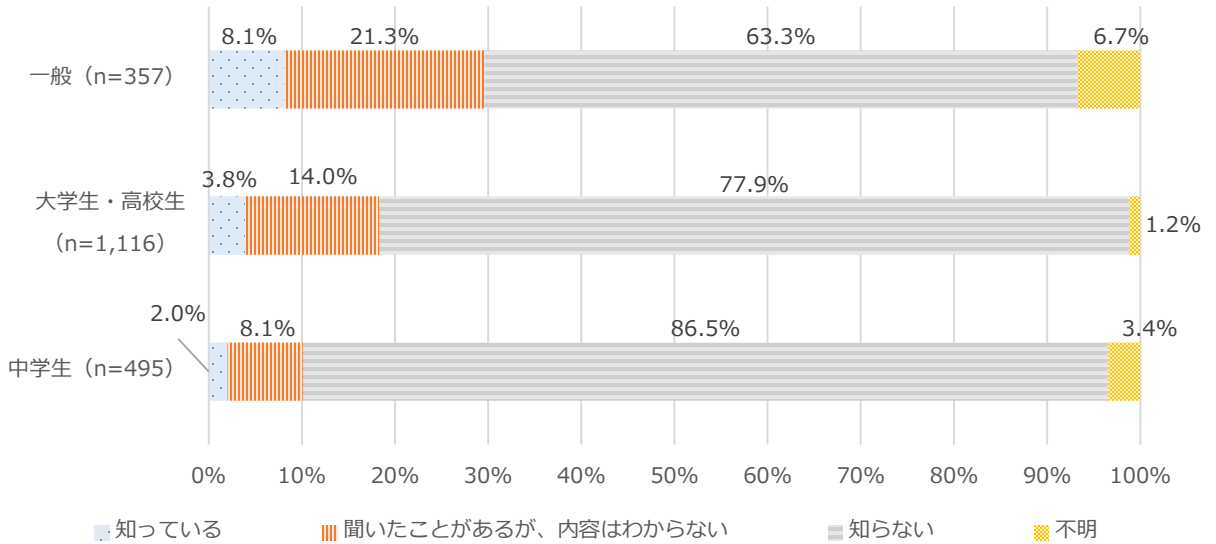
「観光」「まちづくり」の数値が高い結果となった。次いで、一般では「教育」で、大学生・高校生、中学生では「国際交流」という結果になった。



(5) 「多文化都市八戸」について

【問10】「多文化都市八戸」という言葉を知っていますか。

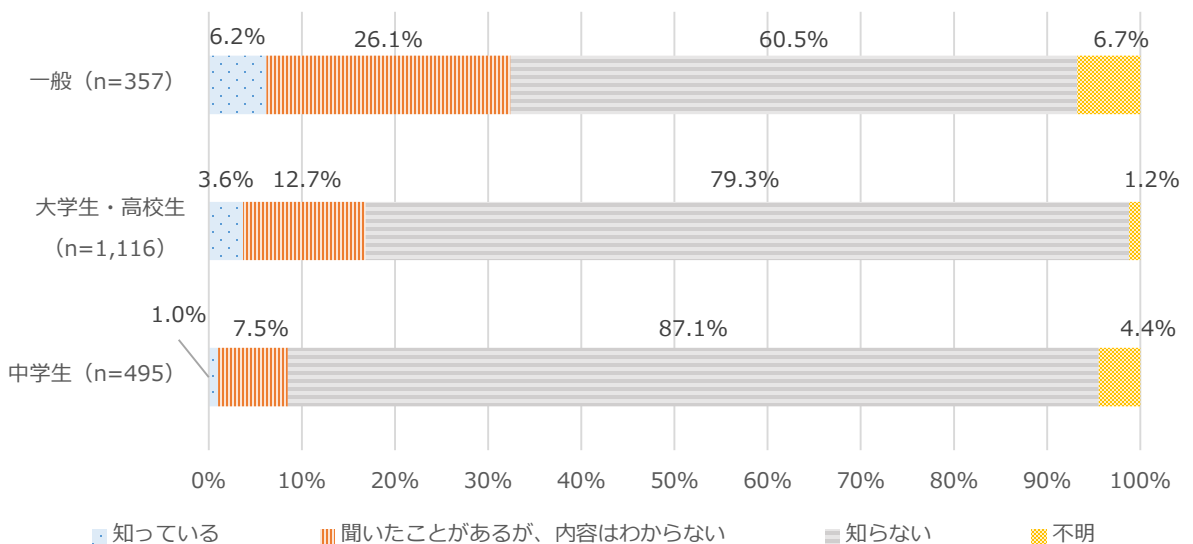
全ての世代で「知らない」と回答した人が多い結果となった。



(6) 「八戸市文化のまちづくりビジョン」について

【問11】「八戸市文化のまちづくりビジョン」を知っていますか。

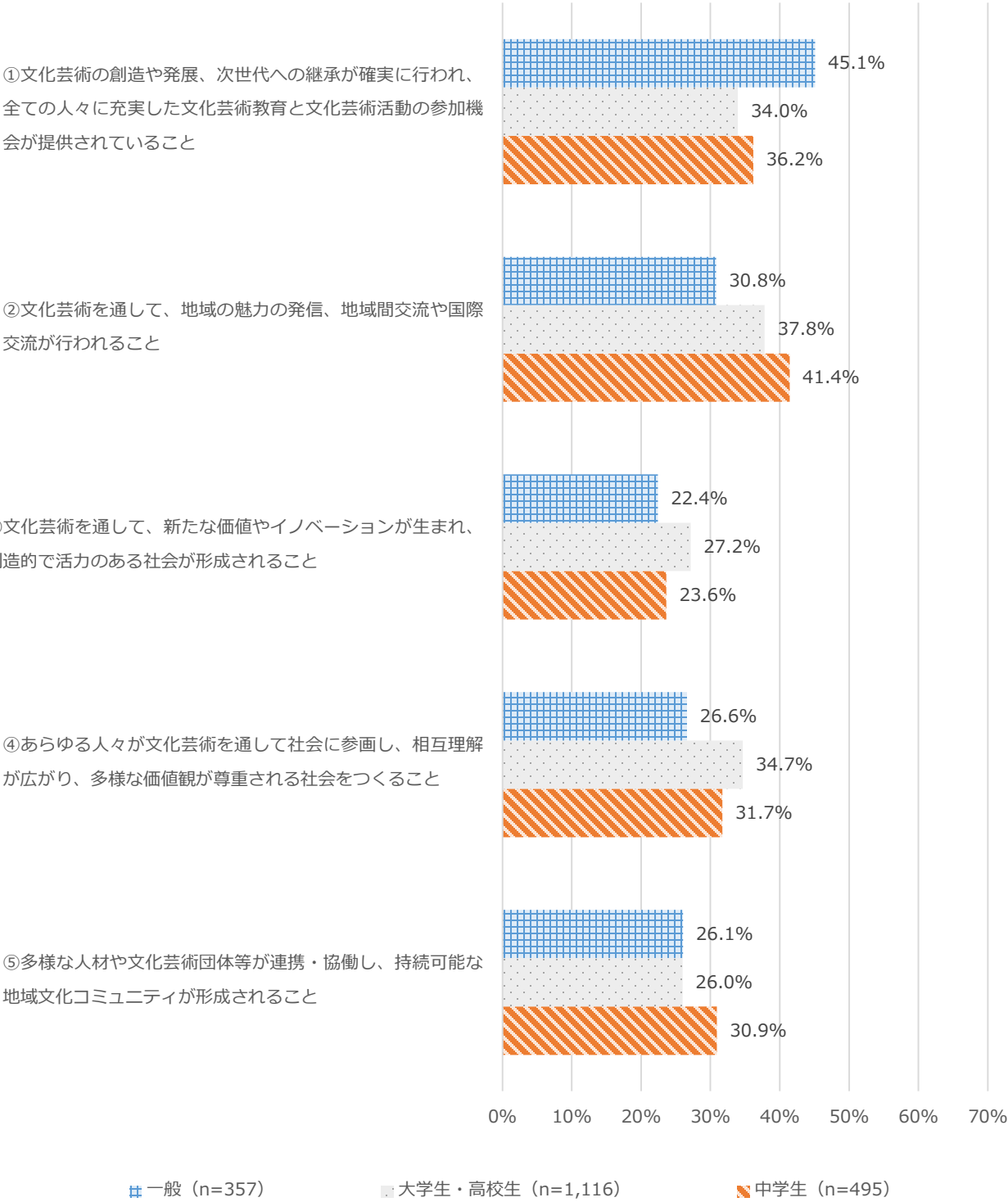
全ての世代で「知らない」と回答した人が多い結果となった。



(7) 八戸市の文化芸術政策の目指すべき姿について

【問12】 今後、八戸市の文化芸術政策の目指すべき姿（方向性）として、特に大切だと思うものを「2つ」まで選択して番号に○をつけてください。

「①文化芸術の創造や発展、次世代への継承が確実に行われ、全ての人々に充実した文化芸術教育と文化芸術活動の参加機会が提供されていること」「②文化芸術を通して、地域の魅力の発信、地域間交流や国際交流が行われること」の数値が高くなったが、他の項目も20%～30%であり、大きな差は生じなかった。



【問13】文化芸術政策に関するご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

◎文化芸術活動でも多様化が進んでいると思う。様々な事柄に細かく支援して下さるようなれば良いと思っている。自分が菱刺を習っていることもあり、津軽の「こぎん刺」の活発さ、地域での活用のされ方など、どうしても違うのかと残念に思うことが多い。三社大祭の山車小屋のこともそうだが、行政が先頭にたってまとめていく必要があるのではないかと思っている。ねぶた、ねぶたとの活動の違いは何かとも。地域や企業の協力ももっと必要で、また、未来を支えていく子供たちに様々な文化活動にもっと親しんでもらい、将来もすんなりと関わってくれる土台を作ってもらいたい。(50代・女性)

◎八戸市は昔、合唱が盛んで全国的にも八戸市の名を轟かせてきたが、衰退の一途で危機感がある。他の文化芸術と違い身体ひとつあればいつでもどこでもやれる、お金のかからない合唱を市民の皆さんが今一度見直してくれることを期待しつつ、目でも楽しい合唱の形を構築し、八戸市から発信できたらいいと思う。(40代・女性)

◎八戸ならではの文化の保存、継承、活用は重要であり、文化芸術の活発化は次世代の人材育成にもつながると思う。公共施設を上手く利用し、気軽に参加しやすいイベントを希望。(50代・男性)

◎社会人、成人の文化芸術に参加できる機会を増やしたほうが良い。(10代・女性)

◎八戸市の美術館のイベントは過去、面白いものがたくさんあった。リニューアル後では、より幅広く多様で面白いものがあることを期待している。また、八戸市の発信能力が低いことを日々感じるので向上してほしい。(10代・男性)

◎三社大祭の笹踊りに出てくれる子供達が少なくなってきたので、お祭りの参加者を増やせるような活動をしてほしい。(10代・女性)

◎公会堂及び公民館で演劇、音楽の催しがある時に、幼児を待っている親にも鑑賞出来るように施設の充実（例：防音室などで分けけて幼児と共に鑑賞出来るスペース）があると良い。併せて、障がいのある方にも配慮した設備をお願いしたい。(70代以上・男性)

◎八戸市博物館はよく利用しているが、子どもたちがもっと体験できるイベントがあると良い。(40代・女性)

◎はっちではイベントがあるが、街までなかなか行かないため、近くの博物館でいろんなことをやってほしい。(40代・女性)

◎YSアリーナだけでなく、公会堂ももう少しライブやコンサートで人が来てくれる環境が整備されると良い。はっちのように気軽に子供たちが集まって足を運べるように。安価に借りられる音楽の練習ルームや会議室等が充実し、地域の人々が普段使いのように集まって文化交流できる空間が、中心街にもっとあってよいと思う。はっちの子供広場のようなところは子供の感性を育む場としてとても役立っている。(30代・女性)

※全325件中、一部要約して抜粋

Ⅲ. 調査概要（文化団体）

- 調査の目的 市内で活動する文化団体の現状や課題、他の分野との連携による文化芸術の発展性や可能性についての意識を把握することを目的とする。

- 調査対象

対象者	団体数	有効回収数	有効回答率	選定（抽出）
文化団体	約170団体	87票	51.2%	①八戸市文化協会会員 ②音楽分野の活動団体 ③演劇分野の活動団体

- 調査方法 (1) 調査票のQRコードを読み取り、SNSで回答
(2) 同封の返信用封筒に入れ、投函

- 調査時期 令和元（2019）年12月

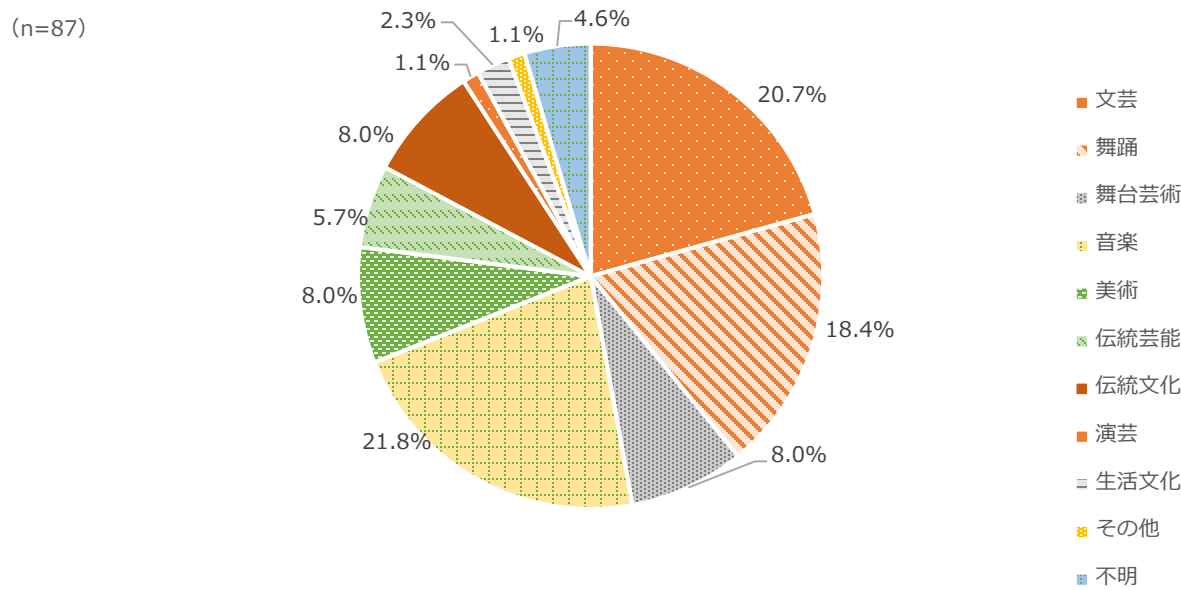
- 調査項目 (1) 活動している団体について
 - ①団体について
 - ②活動の頻度や場所について
 - ③課題について
 - ④情報発信について
- (2) 回答者個人について
 - ①文化芸術への興味・関心について
 - ②文化芸術に関する活動について
 - ③文化芸術事業・施設について
 - ④文化芸術の情報入手について
 - ⑤八戸市の文化芸術について

IV 調査結果（文化団体）

IV-1 活動している団体について

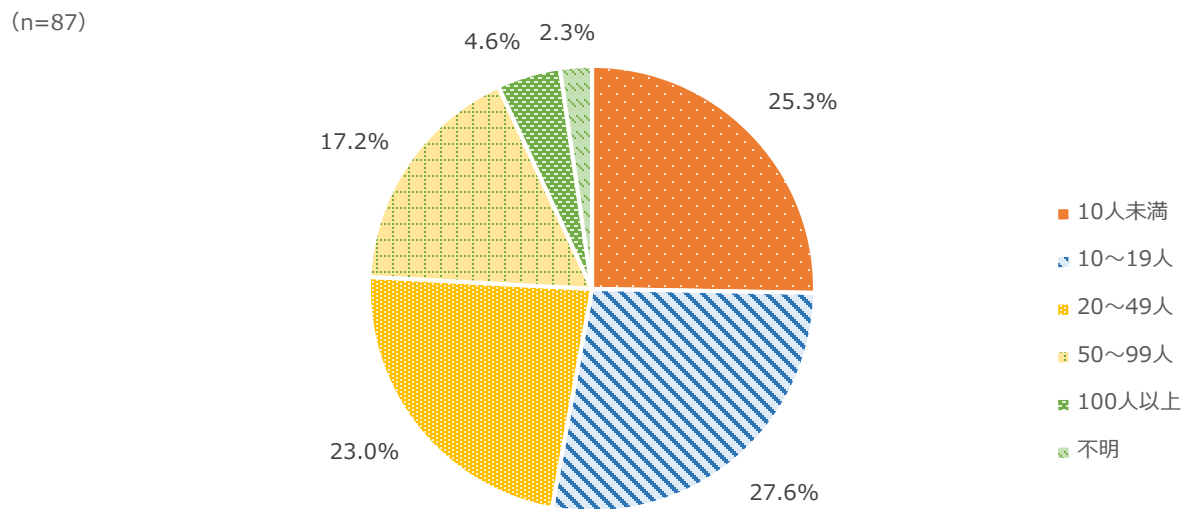
1 団体について

【問 1 - (1)】活動のジャンルをお書きください。



【問 1 - (2)】会員やメンバー（以下「会員等」）の数について、近い番号に○をしてください。

20人未満での小規模で活動しているとの回答が半数以上であった。わずかではあるが、100人規模で活動するという回答もあった。

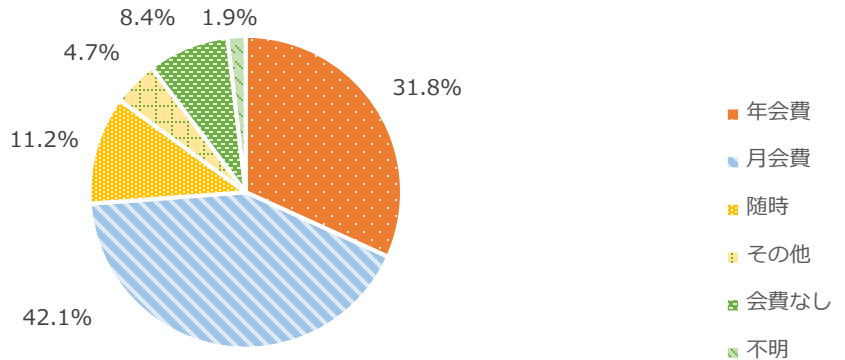


【問 1 - (3)】活動にあたり、会員等や会費や活動・発表等に伴う負担金（以下「会費等」）についてお聞きします。

①会費等を支払頻度について、あてはまる記号に○をしてください。

調査を行った団体のほとんどが会員等に会費等があるという結果となった。最も多いのは月会費で42.1%。

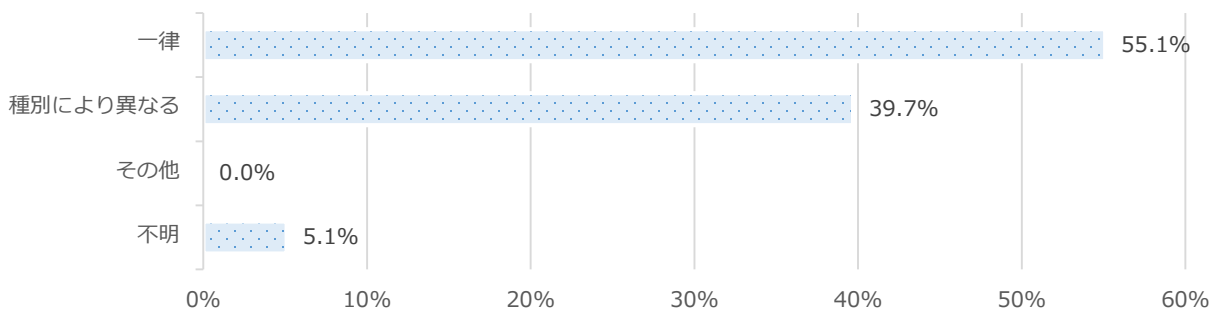
(n=87)



【問 1 - (3)】②会費等の金額（負担額）は、会費等の種別（クラス等）によって異なりますか？

会費等の金額を一律にしているとの回答が約半数の55.1%となり、種別によって異なると回答したのは39.7%となった。

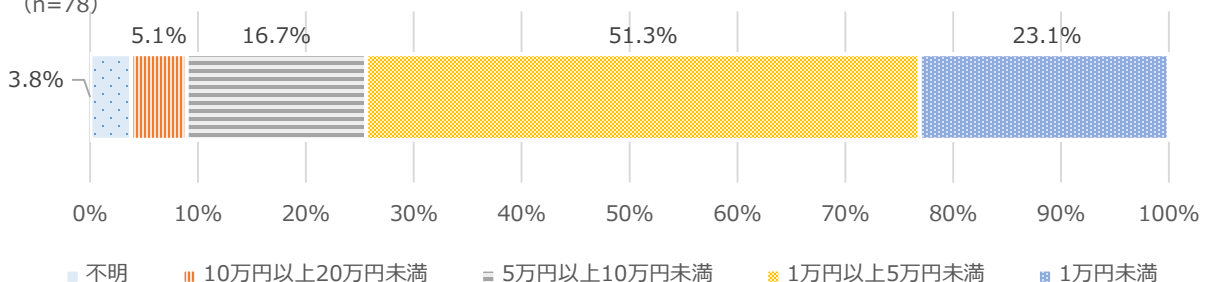
(n=78)



【問 1 - (3)】③年間の会費等の総負担額はどの程度でしょうか？

年会費が「1万円以上5万円未満」と回答した人が最も多く、51.3%という結果になった。

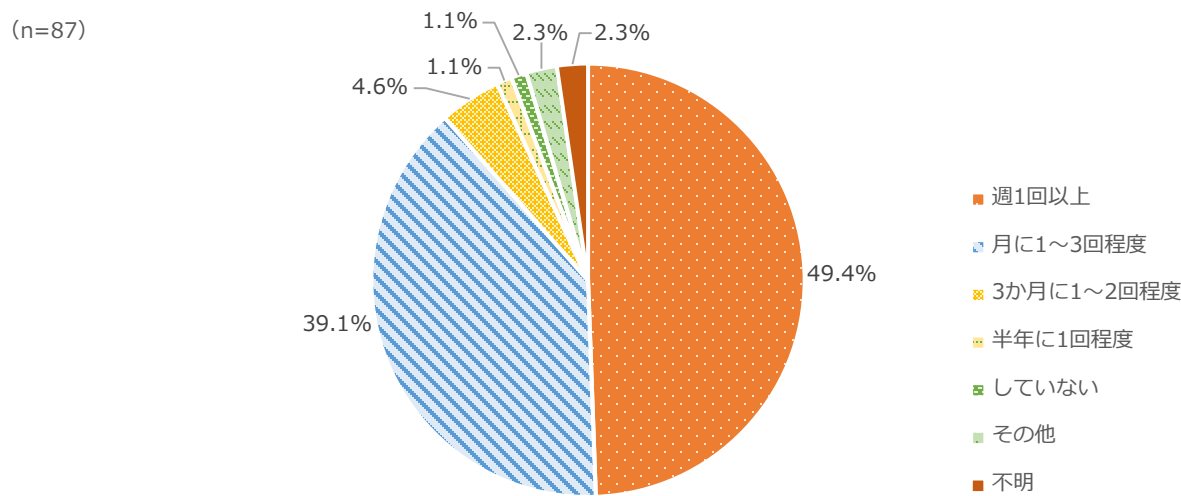
(n=78)



2 活動の頻度や場所について

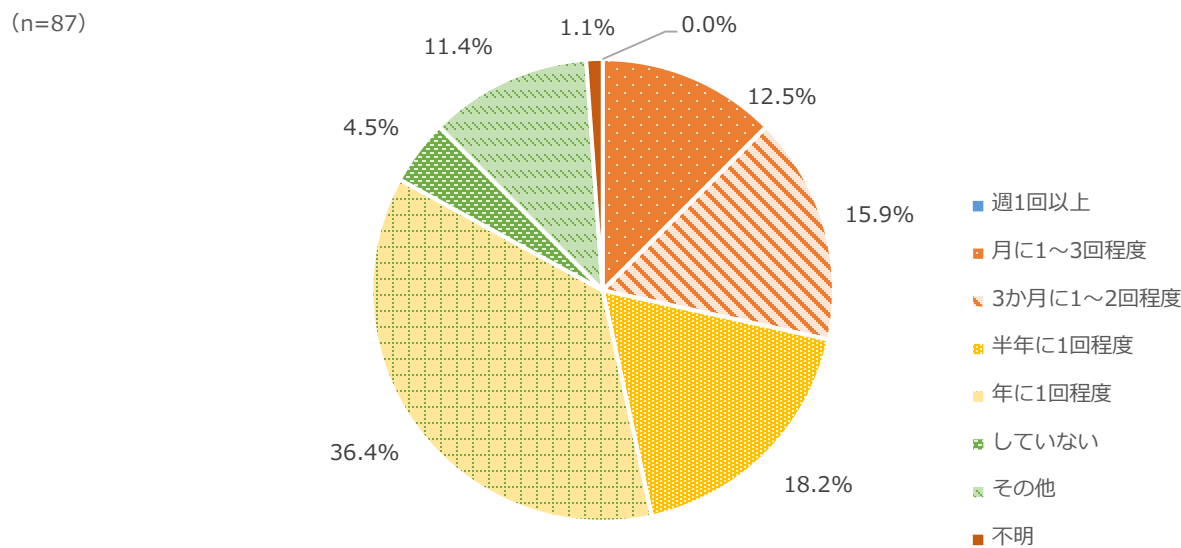
【問 2 - (1)】練習など、会員等のみの活動の頻度はどの程度でしょうか？

週に 1 回以上活動するという回答が約半数の49.4%となった。



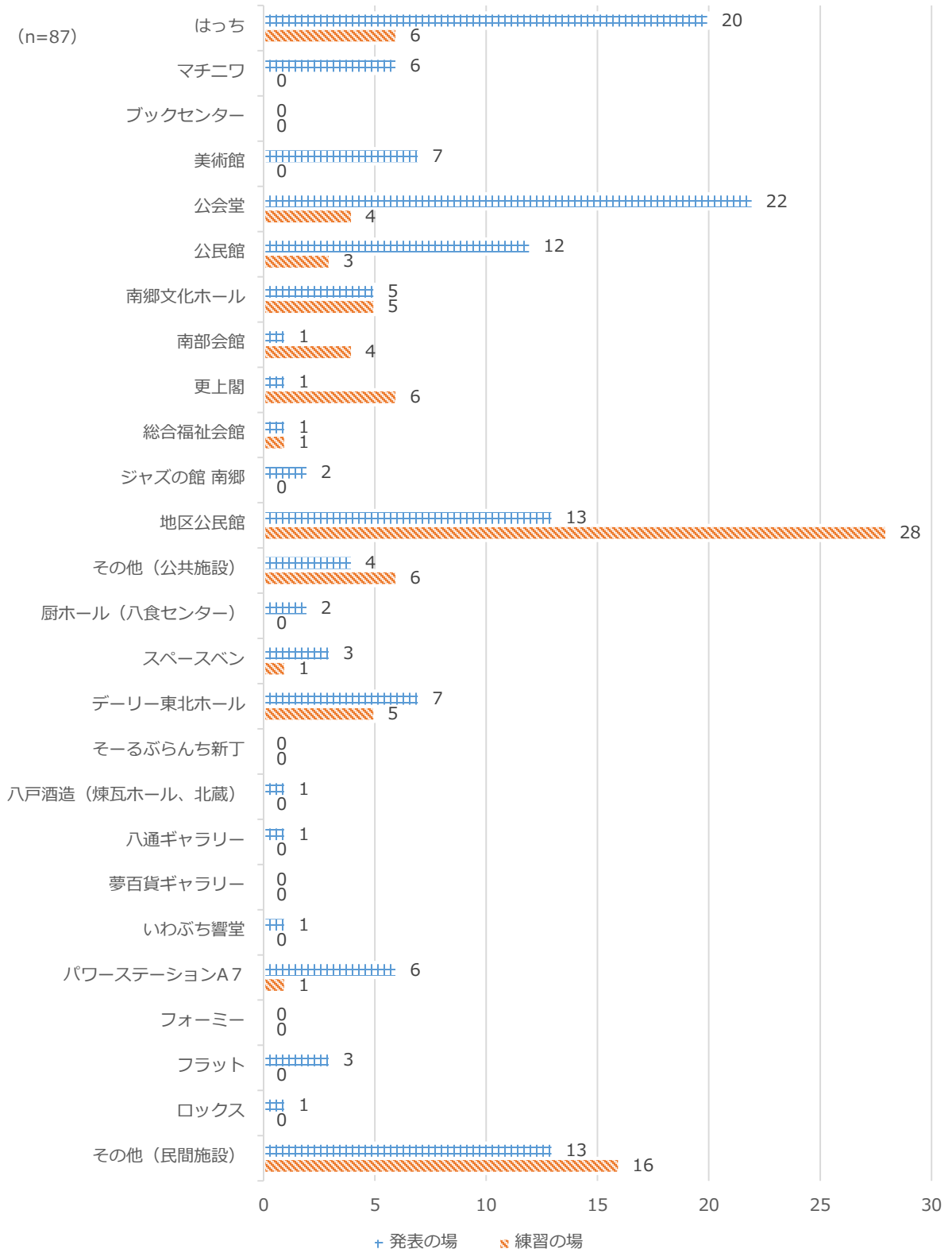
【問 2 - (2)】発表など、不特定多数の方々へ活動内容を見せる機会の頻度はどの程度でしょうか？

最も多かった回答は「年に 1 回程度」の36.4%、次いで「半年に 1 回程度」の18.2%であった。定期演奏会など、大きな行事がある音楽関係団体は、練習の期間などもあり発表の頻度はやや少ない回答となった。



【問2-(3)】活動場所についてお聞きします。

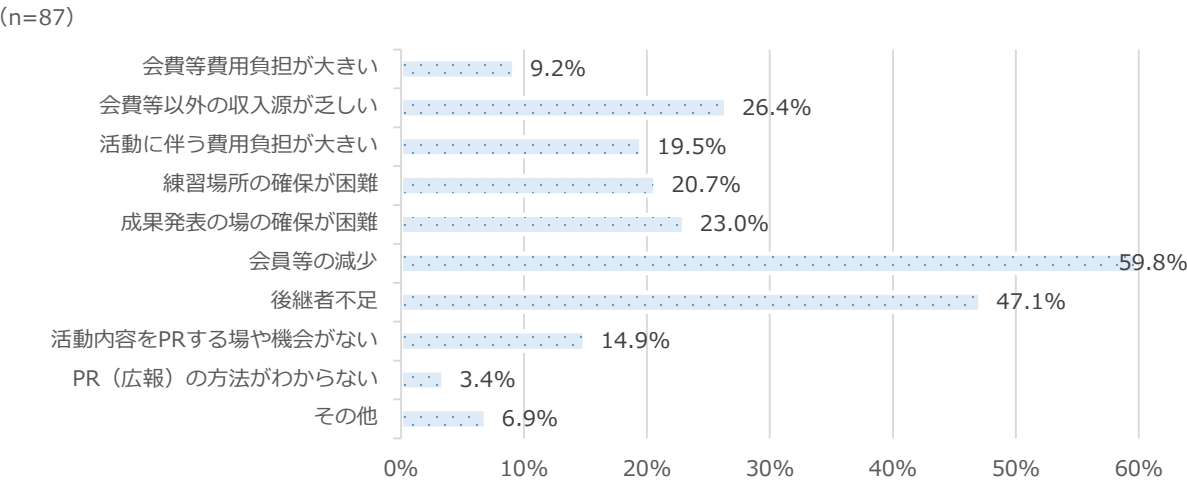
練習の場として最も多かった回答は「地区公民館」、発表の場として最も多かった回答は「公会堂」、次いで「はっち」となった。施設の認知度や収容人数、アクセスのしやすさが回答に大きな影響を与えていると考える。



3 課題について

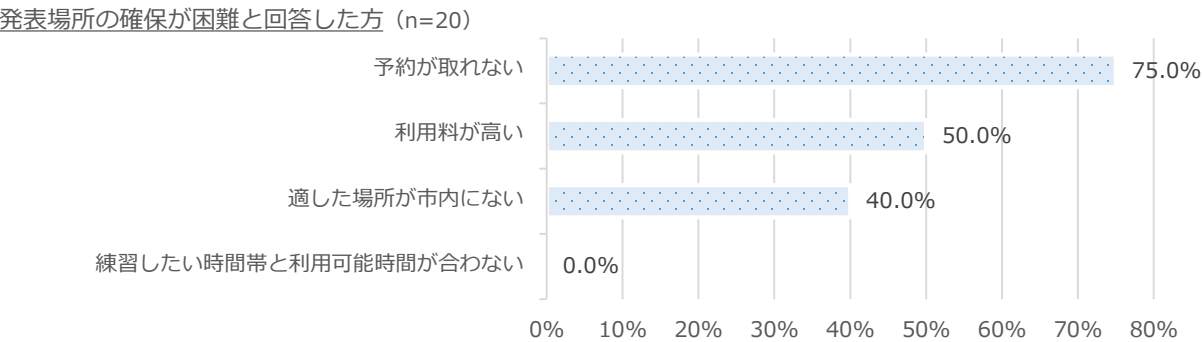
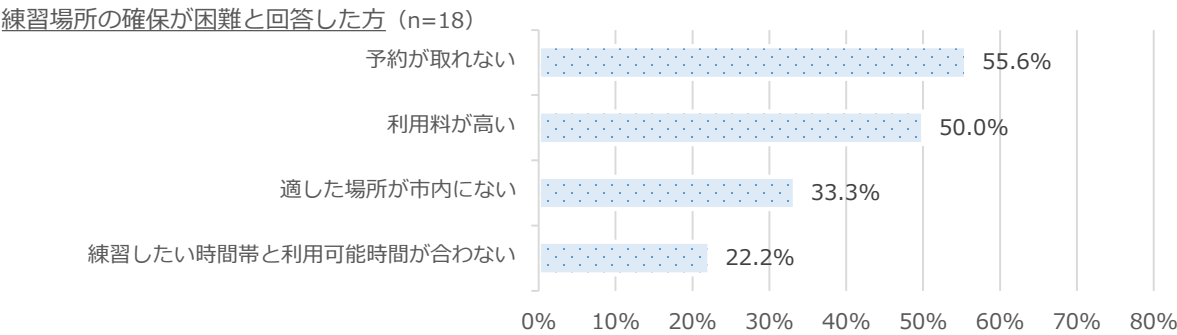
【問 2 - (4)】活動を継続していく上で、課題に感じていることは何ですか？（複数回答可）

最も多かった回答は「会員等の減少」で60%、次いで「後継者不足」の47%であった。回答の3割を超えるものはどちらも人に関係しており、15%が回答した「活動内容をPRする場や機会がない」との回答とも大きく関係している。



【問 2 - (5)】(4)で「練習場所」や「成果発表の場」の確保が困難とお答えした方にお聞きします。こんなの理由はそれぞれ何でしょうか？

練習場所・発表場所の確保ともに、困難な理由として半数以上が「予約が取れない」「利用料が高い」と回答し、どちらも施設自体に関係する結果となった。



【問2 - (6)】 (4) の課題を解決するためにどのような取組、あるいは支援が必要だと思われますか？
(自由記述)

施設の使用料や、駐車場、駐車料金に関する回答が多く見られた。発表に際する補助金を活用する団体も多いため、その面での補助を求める回答はあまり見られなかったが、普段の活動に対する支援に関する回答は見られた。

◎八戸市内(希望として、類家地区) 辺りに総合的な文化センター(和室も含む)を建設して、駐車場も無料にして欲しい。土・日・祝日は使用料1時間1,000円くらい、平日はその半額、そして、高齢者もバスで行けるようにバス停も玄関口に造る。大型のバスも乗り入れられるようにしてほしい。

◎発表する場所を増やして欲しいと思う。あるいは、発表するときに使う、花を飾るBOXや平台を貸し出しできるなどがあれば良い。保管場所があれば良いとも思う。

◎八戸市が誇る三浦哲郎の文学について、後世に継承するための活動である。市教育委員会には協力を得ており感謝しているが、学校(小・中・高)での三浦文学についての教育に力をいれることで、後世に伝わると思う。また、三浦文学ゆかりの地を巡る企画など観光面につながる活動も必要と思われる。

◎120名を超える人員の勉強する場(高齢者を考慮した場所…椅子席、バス等の路線に近い場所=中心街、会議用椅子・テーブルが設置されている場所=移動の必要がない、冷暖房が整っている場所)の支援が必要である。また、上記の条件がそろった利用料が安い公共施設、予約が取りやすい施設も必要だと思う。

◎毎回又は3か月毎などの申し込み不要等の長期での練習時間が確保しやすい、長期割引などの安価で利用可能な環境の整備が必要だと思う。

◎地区公民館などからの依頼演奏には謝礼をいただいているが、謝礼よりも経費負担のほうが多く、実際は赤字ということが多い。そのため、打楽器購入費用を大きく積み立てたいと思っていてもなかなかそうはいかない状況にあり、現在は必要なものを学校から借用して対応している。演奏会補助金はあるが、継続的活動に対する支援もあると良い。

◎ほとんどの公共施設の利用時間が夜9時~10時までだが、多くのメンバーが社会人のため、夜7時過ぎまで仕事をしているため、あと1時間(11時)利用できれば余裕をもって練習に臨める。また、近隣住民から苦情が来ないためにも防音設備がある建物が望ましい。ドラムセットやアンプ類のような大きな機材を保管できる練習場があれば良い。

◎市内に楽器倉庫付の音響を考慮した練習場を作ることがオーケストラを育てるために必要である。発表の場として多目的ホールではなく、音楽に特化したホール大小1つずつ必要である。(例：久慈市のアンバーホール、その次にむつ市民会館、二戸市民会館)

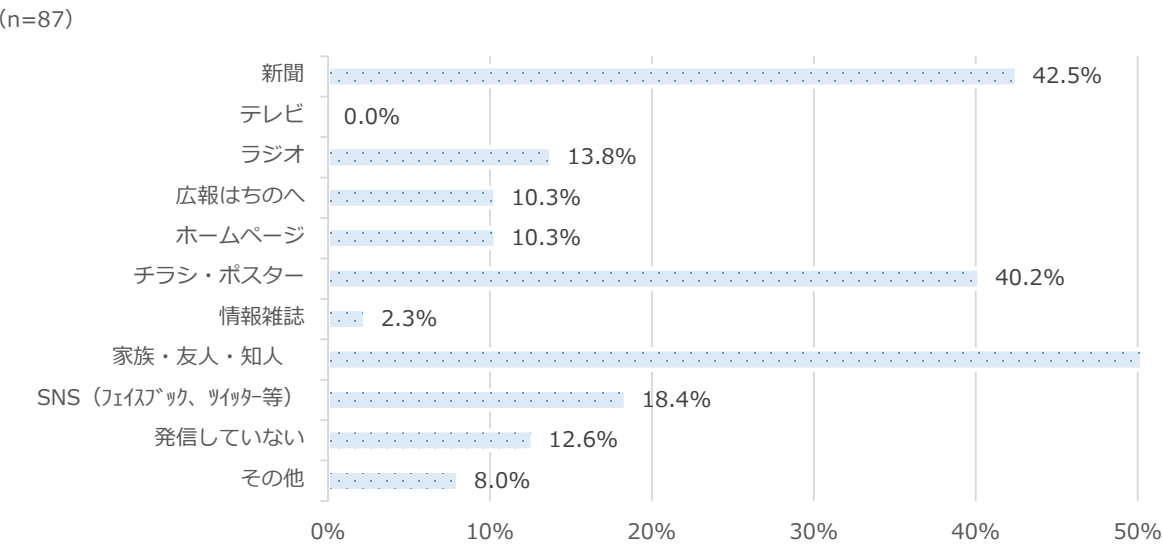
◎継承より、いまの芸術を志す人達がやりたいことが自由にやりやすい環境をつくって欲しい。

※全31件中、一部要約して抜粋。

4 情報発信について

【問3】活動や発表のPR（広報）は、どのような媒体を利用して情報発信していますか。（複数選択可）

最も多い回答は「家族、友人、知人」であり、身内からの発信となった。次いで「新聞」「チラシ・ポスター」と紙媒体が続いた。一方、現在若年層を中心に利用者の多い「SNS（フェイスブック、ツイッター等）」は18.4%とやや低い結果となった。



IV-2 回答者個人について

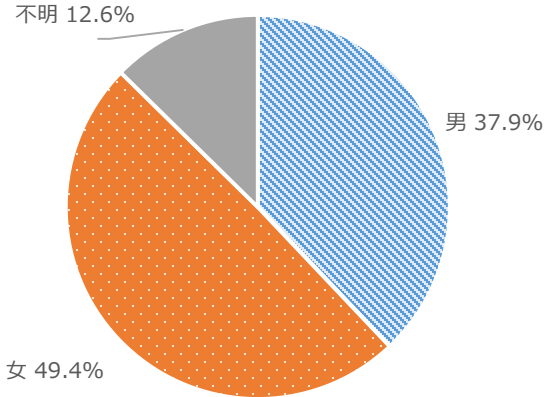
1 基本構成

【問1】あなたについてお聞きします。

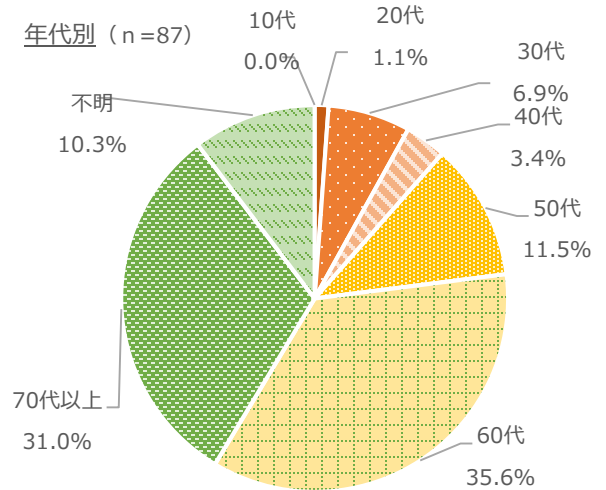
問1-(1) 性別

問1-(2) 年代

男女比 (n=87)



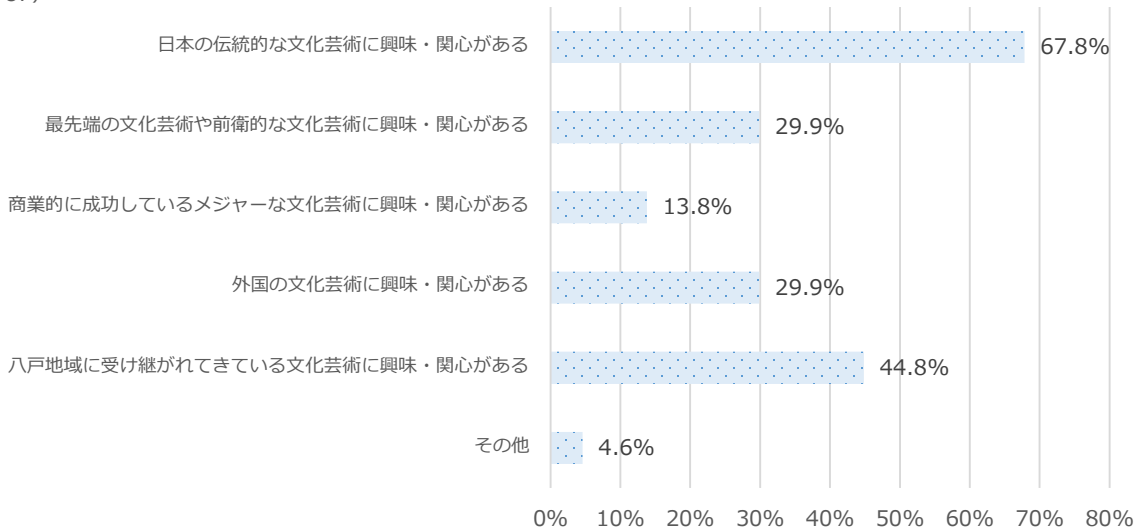
年代別 (n=87)



【問1-(3)】どのような分野の文化芸術に興味・関心がありますか？（複数選択可）

「日本の伝統文化や文化芸術に興味・関心がある」という回答が最も多く、次いで「八戸地域に受け継がれてきている文化芸術に興味・関心がある」という結果になり、地域にあるものに目を向けられていることが分かった。

(n=87)

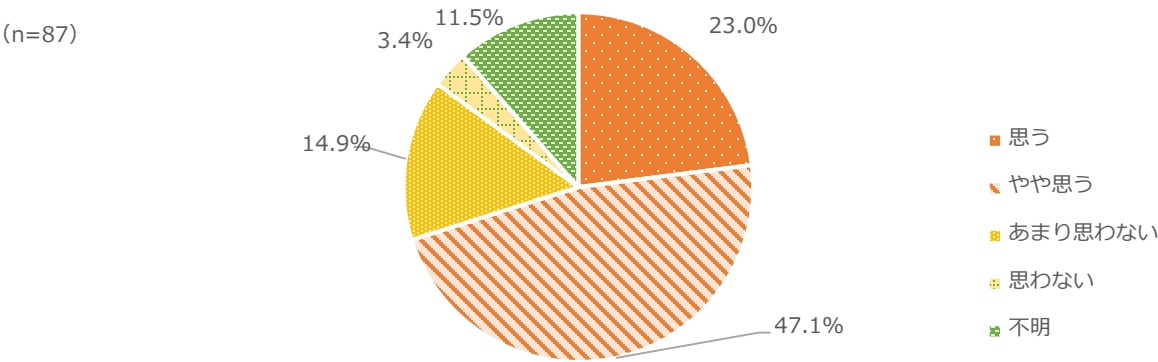


2 文化芸術に関する八戸市のイメージ

(1) 文化芸術に関する八戸市のイメージ

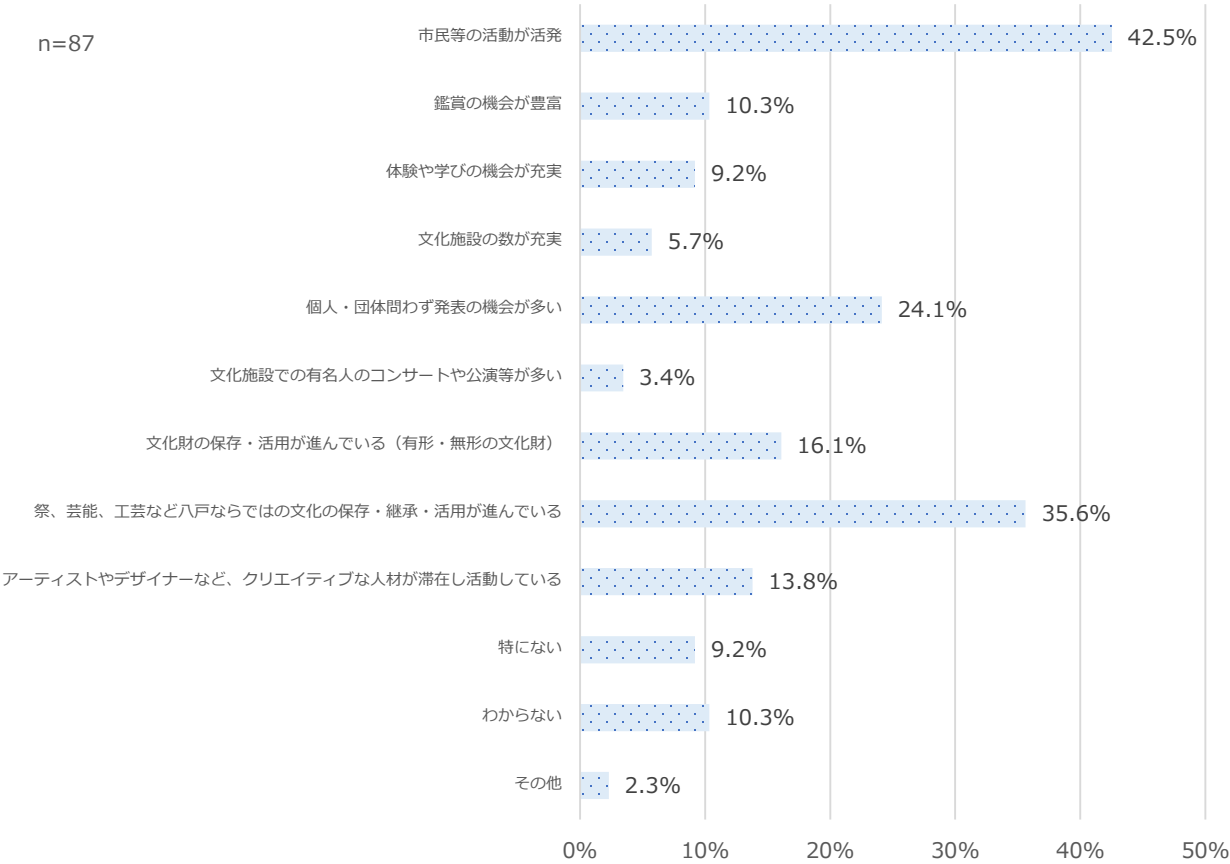
【問 2 - (1)】文化芸術に関する八戸市のイメージについてお聞きます。八戸市は文化芸術が盛んなまちだと思いますか？

「思う」「やや思う」の回答が70.1%となり、市民に対するアンケートと比較して数値が高い結果となった。



【問 2 - (2)】活動が充実していると思うものに○をつけてください。

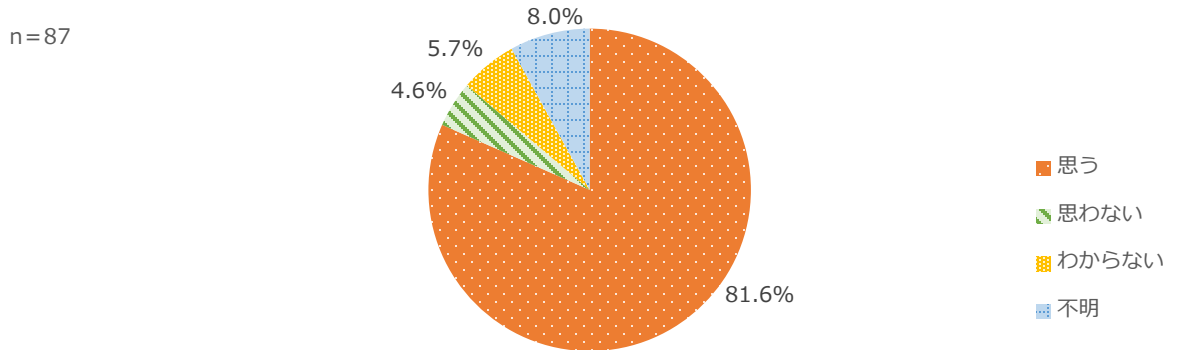
「市民等の活動が活発」が42.5%で一番多い結果となった。



(2) 文化芸術の充実と魅力的な街の関係性

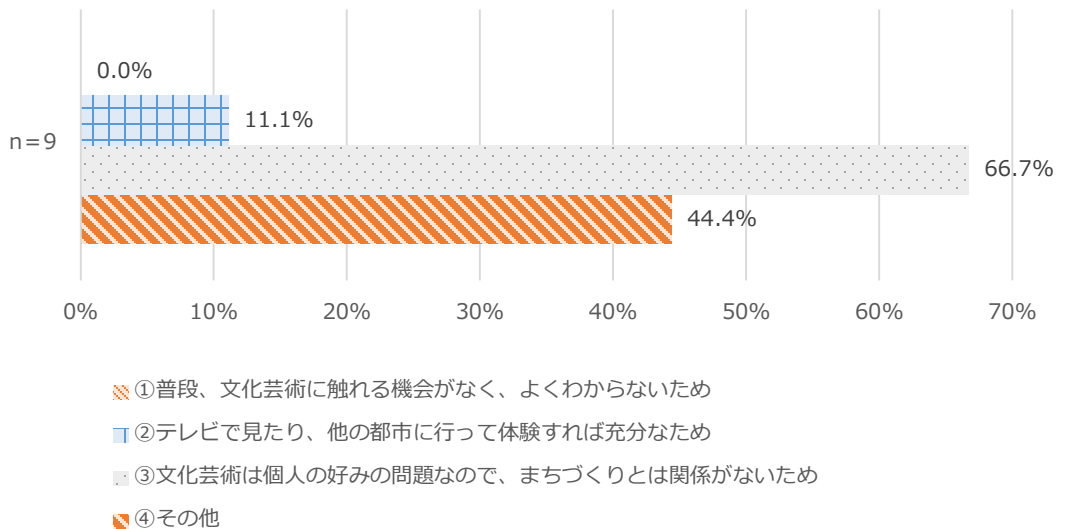
【問3】文化芸術に関する鑑賞や活動の機会が充実することは、暮らしたいまち、住み続けたいまち等魅力的なまちをつくることにつながるといいますか。

全ての世代で、「思う」が最も高い数値となった。



【問4】問3で「思わない」又は「わからない」とお答えした方にお聞きします。そのように考える理由は何でしょうか。

「③文化芸術は個人の好みの問題なので、まちづくりとは関係ないため」が最も高い数値となった。

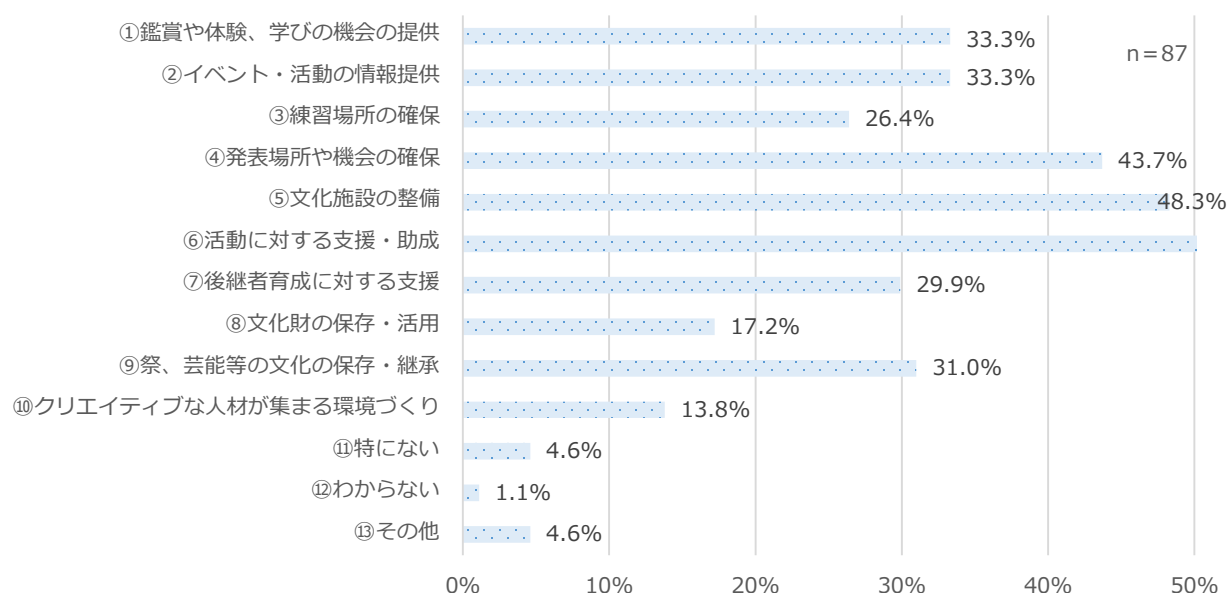


2 八戸市の文化芸術について

(1) 八戸市の文化芸術について

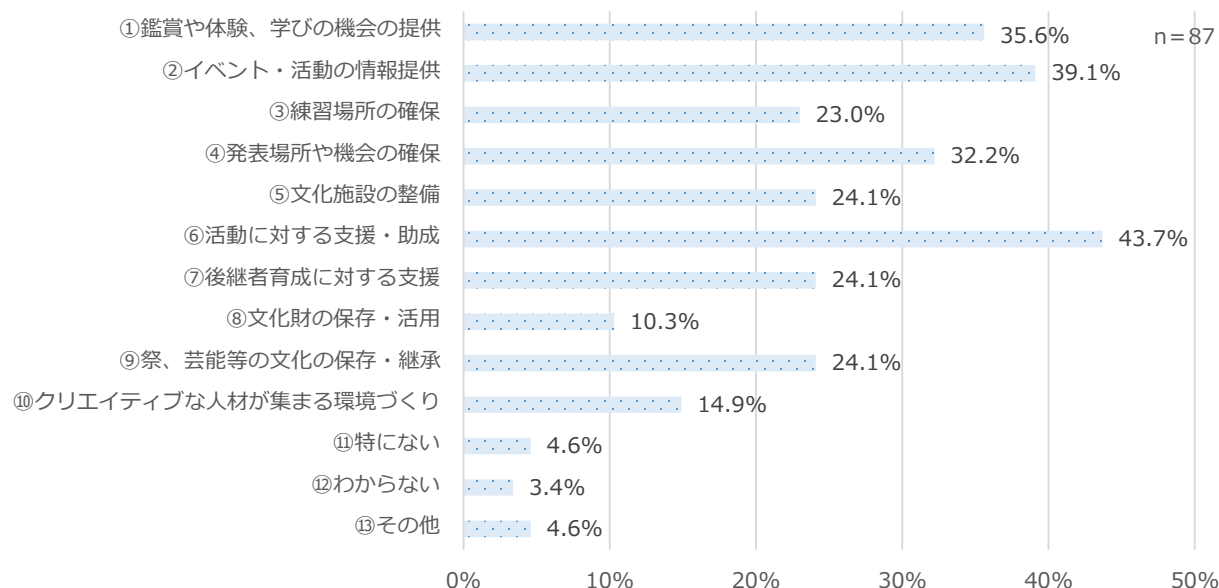
【問 5】文化芸術に関して、行政（県や市等）が取り組む必要があると思う番号に○をつけてください。（複数選択可）

「⑥活動に対する支援・助成」が51.7%で最も高く、「⑤文化施設の整備」「④発表場所や機会の確保」が40%を超える結果となった。



【問 6】文化芸術に関して、民間（企業、市民団体等）が取り組む必要があると思う番号に○をつけてください。（複数選択可）

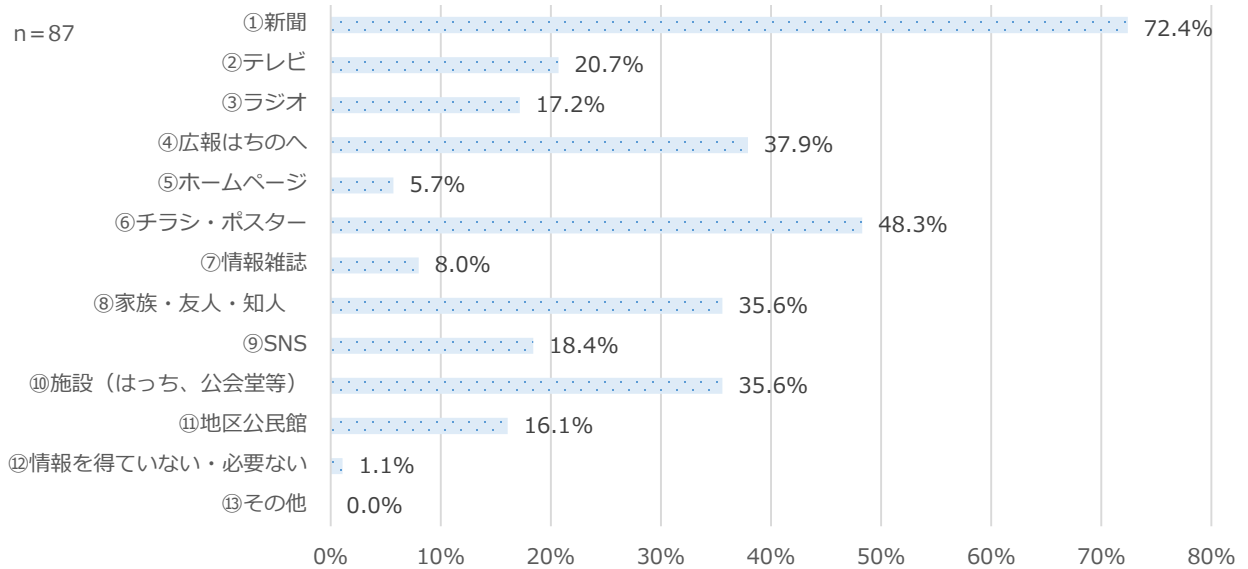
問 5 と同様に「⑥活動に対する支援・助成」が最も高く、43.7%であった。次いで、「②イベント・活動の情報提供」「①鑑賞や体験、学びの機会の提供」「④発表場所や機会の確保」が30%を超える結果となった。



(2) 文化芸術に関する情報入手について

【問7】普段、文化芸術に関するイベントや出来事に関する情報はどちらから入手していますか。あてはまる番号に○をつけてください。（複数選択可）

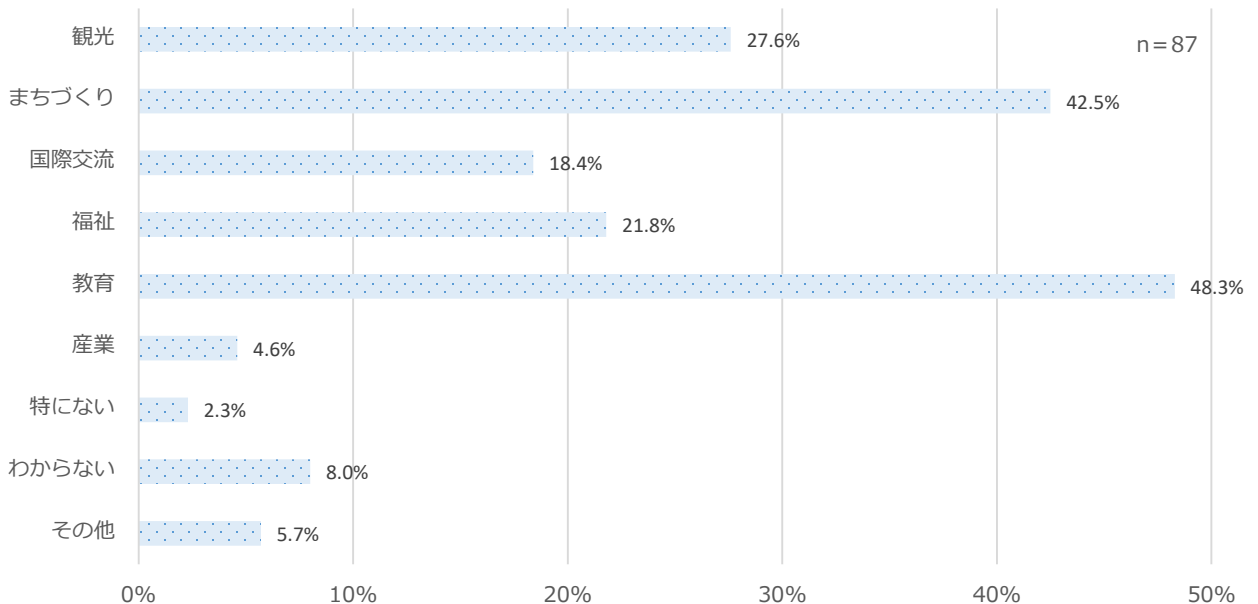
「①新聞」が72.4%で最も高い結果となった。次いで、40%を超えたのは「⑥チラシ・ポスター」、30%を超えたのは「④広報はちのへ」「⑧家族・友人・知人」「⑩施設」となった。



(3) 文化芸術の持つ可能性を活かせる「分野」について

【問8】文化芸術が持つ可能性を活かせる、又は、活かしてほしいと思う「分野」はありますか。（複数選択可）

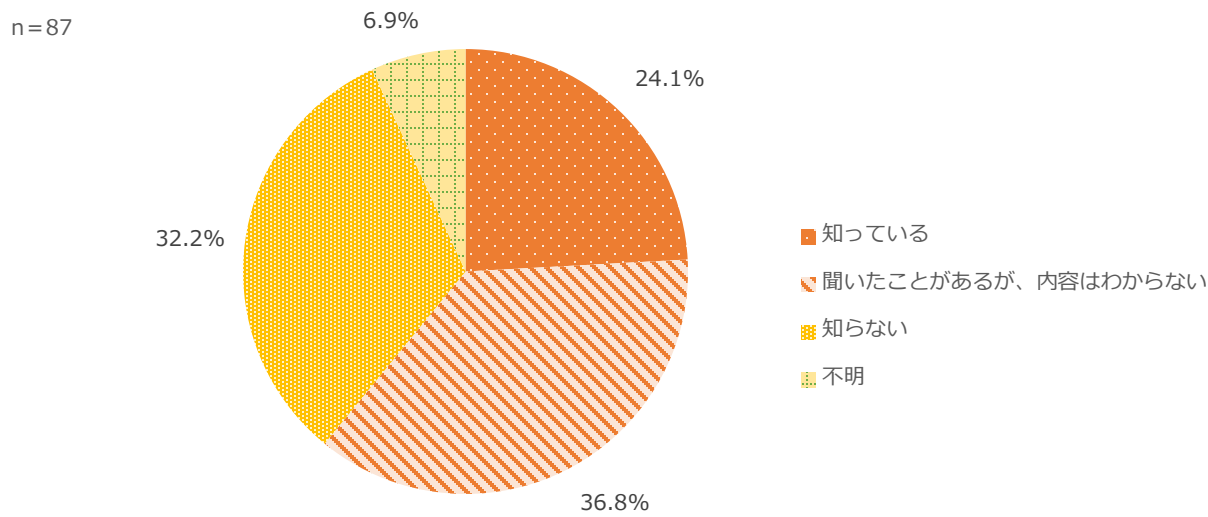
「教育」「まちづくり」が40%を超える結果となった。



(4) 「多文化都市八戸」について

【問10】「多文化都市八戸」という言葉を知っていますか。

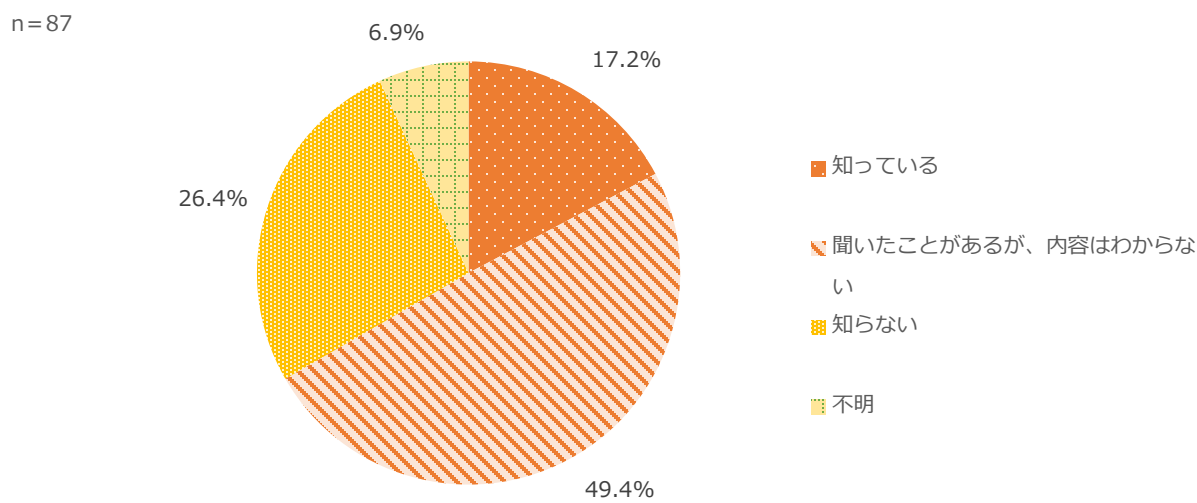
「知っている」「聞いたことがあるが内容はわからない」が60.9%となった。



(5) 「八戸市文化のまちづくりビジョン」について

【問11】「八戸市文化のまちづくりビジョン」を知っていますか。

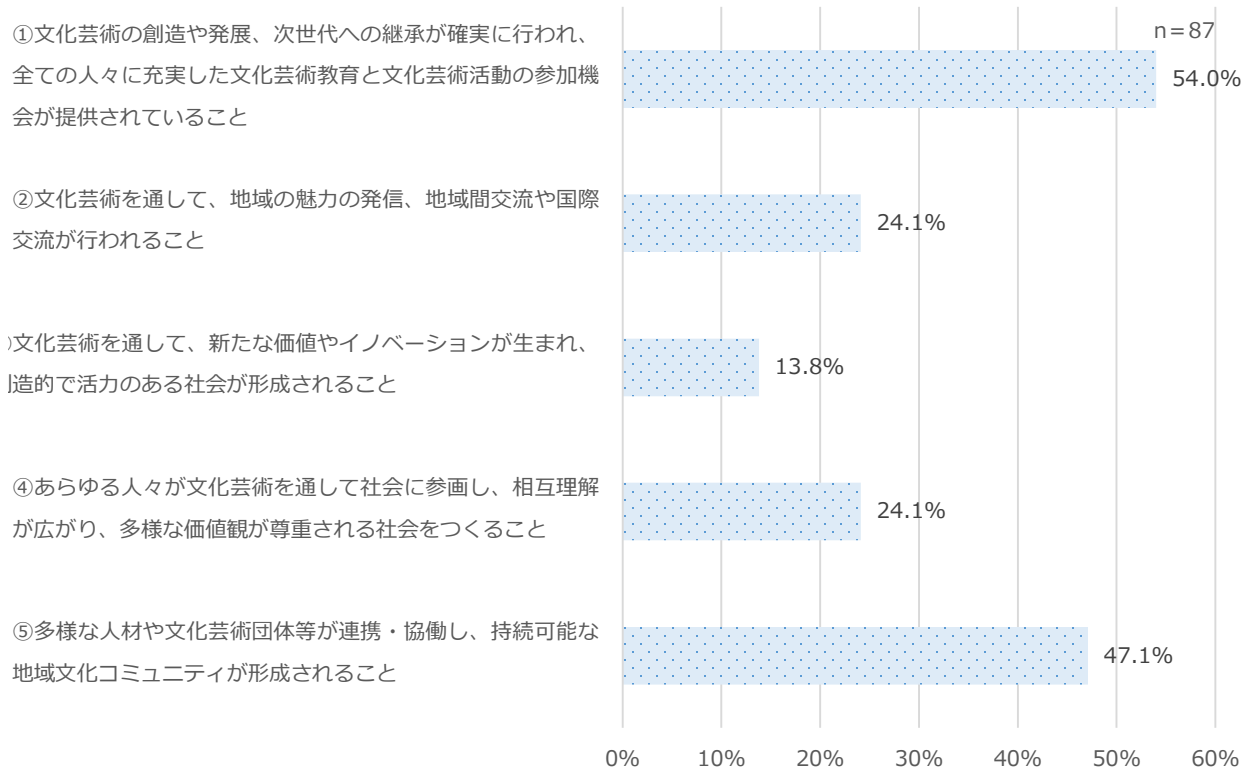
「知っている」「聞いたことがあるが内容はわからない」が66.6%となった。



(6) 八戸市の文化芸術政策の目指すべき姿について

【問11】 今後、八戸市の文化芸術政策の目指すべき姿（方向性）として、特に大切だと思うものを「2つ」まで選択して番号に○をつけてください。

「①文化芸術の創造や発展、次世代への継承が確実に行われ、全ての人々に充実した文化芸術活動と文化芸術活動の参加機会が提供されていること」が最も高い数値となった。



【問12】 文化芸術政策に関するご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

◎私は洋舞を教えており、子どもの頃から始める方は良いですが、近頃は共働きのために子どもの送迎ができず、あきらめている人が多い。こどもはっち等で日曜日に教えることができれば子どもが育ち、それを継続していくことができれば多方面に文化芸術が発展していくと思う。年月を費やすことで、急にはできない事なので先を見てやっていく必要がある。中学、高校になれば自力で練習場所に行けるが、その頃になると学校行事や部活に縛られ、レッスンに来られないのが現実である。(60代・女性)

◎地域に受け継がれている芸術、または全ての文化芸術（上質なものも含め）に触れる機会が豊富であることを望んでいる。活力ある、魅力あるまちになってくれたらと思う。(60代・女性)

◎職場を引退して、時間はあるけれど何かをやりたいと思う人がたくさんいると思う。しかし、どれも初めてなのでどうしても入っていけない。やはり、子どものうちに少しでも体験していると、入ってみようかなと思うので、学校教育の中で、いろいろな文化に触れさせることは必要ではないか。(70代以上・女性)

◎大学生の活動の場がもう少しあってもよいのではないかとと思う。また、昭和20～30年代には職場に文化的なサークルや運動クラブなどがあり、活発に活動していたように記憶している。あの頃の活気を取り戻すにはどうしたらよいのかを考えてみるのもよいのではないか。(70代以上・男性)

◎各々が探求している文化芸術を、何年かに一度でも異文化交流イベントやセミナーなどを行い、絵画と短歌、書と俳句、音楽と詩、ダンスと書など、静と動をコラボして、また、各作家同士のコミュニケーションを図り、文化創造の刺激を与えあうなどはどうか。別分野でも追及していくと、深いところに共感しあうものがあり、その発見が素晴らしい新しき一歩を生み出すと思う。(60代・女性)

◎文化施設（はっちやブックセンター、公会堂など）はもっと若い人が行きやすい方法を考えることが必要だと思う。例えば若い人、子供連れは車で来ることが多いので、駐車可能な場所や30分無料等考えてほしい。(70代以上・女)

◎八戸市は県内で最も音楽活動が活発な地域だと思う。私が八戸に生活・音楽活動の拠点を移したのはその為であり、これからも更に発展するために官民一体となって取り組んでいけたらと思う。(70代以上・男)

※全33件中、一部要約して抜粋

資料編 2

これまでの取組事例

目次

(1) 八戸ポータルミュージアム	141
(2) 南郷アートプロジェクト	143
(3) 八戸工場大学	145
(4) 多文化都市八戸推進事業補助金	146
(5) 本のまち八戸	147
(6) 民俗芸能の普及啓発と後継者支援	149
(7) 市史編纂事業	151
(8) ICANOF（イカノフ）	152

ここでは、第1部「3当市の文化芸術に関するこれまでの取組など」に掲載した事業の具体的な事例を紹介します。

(1) 八戸ポータルミュージアム（はっち）

①アーティスト・イン・レジデンス（AIR事業）

八戸ポータルミュージアム（以下、「はっち」という。）では、開館1年前の平成22年（2010）年から、様々なアートプログラムを展開していますが、当時、建物内にレジデンス機能を有する施設は全国的にも珍しく、はっちの活動を象徴するもののひとつであると認識しています。

はっちのAIR事業は、アーティストやクリエイターを招聘や公募により招致し、地域資源を対象とし、文化芸術の力により新たな価値を加えその魅力を再認識する機会とすることを目的に実施しています。

また、実施にあたっては、アーティストと市民が交流し共創することに主眼をおき、さらには、制作の場をオープンにすることで来館者にも可視化され、プロジェクトによっては来館者も参加できる形態をとっていることが特徴といえます。

はっちのアートプログラムには、これまでに述べ5万3千人を超える方が参加しています。（「横丁オンラインユーシアター」、「DASHIJIN」を除く。）

また、アーティストの創造力により八戸の地域資源の新たな魅力が創出され、はっちを介してアーティストと市民が交流する機会を生み出す効果があったほか、事業完了後も、その活動がはっちや市民に受け継がれたものもありました。

主な実施例としては、次のものが挙げられます。



アーティスト・イン・レジデンス「はっち流騎馬打毬」
平成24（2012）年

	実施例
平成23（2011）年	八戸が発祥の「デコトラ」をテーマに獅子舞のような作品「デコトラ装束」を制作し、完成した装束を身に着けて市民ダンサーズが市内各所で披露。
平成24（2012）年	伝統武芸「加賀美流騎馬打毬」に着目し、当市が中学校ロボコン発祥地であることにも着想した「伝統芸能×ロボコン」「はっち流騎馬打毬」を実施。
平成25（2013）年度	自転車に乗って八戸の魅力を探し出し、6つのコースを作成。市民とともに自転車に乗ってコースを巡り、八戸を新・珍発見する企画。また、はっち初の全国公募の企画。
平成26（2014）年度	八戸の沿岸部を舞台にしたアニメーション作品「はちのへごっこ『ハマネコ』」を制作。音楽、声優には市民や八戸縁の人々が多数関わった。

	実施例
平成27（2015）年度	「八戸ロマン時空探検隊」（縄文をテーマに公募し採択された企画）。中心市街地の空き店舗を「基地」に、縄文を現代の目線から楽しく追っていくプロジェクト。翌年度には、是川縄文館と連携し、「是川時空探検祭」が開催。はっちのアウトリーチの成功事例となる。
平成28（2016）年度	「堤にもどる」（スケートをテーマに公募し採択された企画）。氷都八戸の歴史を掘り起こし、旧柏崎小学校跡地に八戸スケート大会発祥の“ため池”「勘太郎堤」（10分の1サイズ）を制作し、市民の当時のスケートの思い出を収集・展示。

②酔っ払いに愛を「横丁オンリーユーシアター」

横丁オンリーユーシアターは、はっち開館前の平成20（2008）年から実施しており、中心市街地にある8つの横丁を舞台に「はっちと横丁関係者がともに作り上げるアートプロジェクト」として開催しています。当初、出演者は全て招聘でしたが、回を重ねるごとに完全公募であったり一部公募にするなどアーティストの選定にも創意工夫をし、新しいジャンル・作風を取り入れるなど、毎年、経験値をあげながら取り組んでいます。

また、参加（鑑賞）者は、飲み物片手に、様々なパフォーマンスを観て楽しむイベントとなっており、これまでに参加したアーティストは述べ103組、参加（鑑賞）者は、述べ1万1千人余りとなっています。

このプロジェクトを通して、まちとのコミュニケーションの流れが生まれ、また、これまでアートに触れる機会が少なかった横丁の人が事業を通して自らアートのことを語るなど、アーティストの存在がまちの印象や風景のみならず、関わる人やまちの人の意識にも大きな変化をもたらし、現在は秋の横丁の風物詩として、商店街や市民の方々に、横丁文化を知ってもらおう機会となっています。



酔っ払いに愛を「横丁オンリーユーシアター」
平成22（2010）年～令和3（2021）年

③DASHIJINプロジェクト



「DASHIJIN」
平成28（2016）年～令和2（2020）年

はっちのAIR事業では初となる5年間（平成28（2016）年度～令和2（2020）年度）の長期プロジェクトで、八戸三社大祭をテーマに、祭りを作る人・支える人・かだる（参加する）人、また、神事にも焦点を当てて、取り組みました。

山車の独自の造形美、世代や立場を超えてつながる精神性など、一人ひとりの祭りへの想いが結集して祭りが成立し存在するその意義を市民が体感し、祭り継承への一步を踏み出すことを目的に実施しました。

5年間で、全27組の山車組関係者をはじめ、アーティスト6組、参加者は約3万人となっています。
主な実施例としては、次のものが挙げられます。

実施例

三社大祭山車組リサーチ。27組全ての山車組を対象に、制作時から祭り本番まで足を運び現状把握。

市内に暮らす人々の生活の中に存在する物語やエピソード「八戸の宝」を88個取材収集し、成果品の冊子は市内小・中学校、地区公民館等へ配架。

アーティストがガイド役になり「山車づくり現場の見学ツアー」「山車造形物制作ワークショップ」を実施。

子どもたちが、仮想テレビ局のカメラマンとリポーターに扮して山車制作現場を取材し、みんなに教えたいたいオリジナル番組を制作。

三社大祭を将来へ引き継ぐための教育現場で活用できる祭り教育プログラムキットを制作。キットの作成にあたり、市内4つの小学校で授業を実施。

祭り本番で使用する山車装飾を、市民も参加して制作。

(2) 南郷アートプロジェクト

当市南郷地区は人口5,300人ほどの過疎高齢地域でありながら、平成2（1990）年から毎夏にジャズフェスティバルを開催しているほか、えんぶりや神楽などの民俗芸能があるなど、地域のなかに身体表現が自然に溶け込んでいる地域です。南郷アートプロジェクトは「アート」のもつ創造的な視点から地域資源を活用し、地域内外に魅力を発信するアートプロジェクトを展開することで、地域コミュニティの活性化や交流人口の増加に結び付けるとともに、南郷地域をはじめ当市の更なる魅力を創出することを目的に平成23（2011）年にスタートしました。



「島守の、うずうずツアーなんだこりゃ！」
平成23（2011）年

これまで、南郷の地域コミュニティに入り込む企画を実施し、積極的に南郷地域で生活する人々に協力（参加）いただくことで、南郷文化ホールへの集客が促進され、また、同プロジェクトで出会った人同士が繋がり、「すまもり中世の田んぼクラブ」が結成されたり、移住者やUターン者のネットワークも形成されました。



「すまもり中世の田んぼクラブ」

さらに、南郷文化ホールの稼働率の増加もみられ、より多くの人々がホールを利用し、文化芸術に親しむ環境を作ることにつながったことや、芸能、郷土史、食、農耕文化、場所等、多様な地域資源を有効活用した事業を展開し、えんぶり組の伝承や、出稼ぎくじら漁の歴史等を作品にしたことで、知られていなかった南郷地区の魅力を掘り起こし、次代に伝える機会を創出しました。

10年間にわたって行われたこのプロジェクトには、49組のアーティストが関わり、参加したあるいは入場した市民は約2万7千人となりました。

主な実施例として、次のものが挙げられます。

	実施例
ダンス公演 DANCE×JAZZ 平成23（2011） ～27（2015）年度 平成29（2017）年度 令和2（2020）年度	南郷の地域資源に着目し、市民が関わり創作したパフォーマンス作品を南郷文化ホールにて上演。令和2年度では題材として、南郷サマージャズフェスティバルを取り上げ、地域住民から聞き取ったエピソードのエッセンスを盛り込みながら、コンテンポラリーダンスとジャズの生演奏によるダンス作品を上演した。
映画をつくろう！ 平成25（2013） ～27（2015）年度	学校に通う子どもたちや、地域の人々がダンサーとして登場し、地域の歴史や物語を題材としたダンス映画を制作した。
おじょう藤九郎 平成26（2014）年度	当市に伝わる民俗芸能の「えんぶり」を、舞踏手が習い、その振りやその本質を採集し、再構築して舞踏バージョンのえんぶりを創作し、上演した。
なんごうカルタ 平成28（2016） ～30（2018）年度	地域の方（特に高齢者）から、一般には知られていない、集落や個人にまつわる物語や、地域に残る知恵や技に関する話を収集し、カルタとして編纂。カルタが完成するまでの過程で得た「物語」は写真と文章でつづり、ウェブや紙媒体で発信するほか、完成したカルタを用いて、展示や朗読会などを開催。
くじら村 平成30（2018）年度	南郷の捕鯨漁をテーマにした新作演劇作品を創作、上演。当市で演劇活動を行う市民を中心に公募し、オーディションで出演者を決定した。
なんごう小さな芸術祭 平成30（2018）年度	南郷地域を舞台にアーティストと地域の方々が一緒になり、公演、展示、ワークショップ等、南郷アートプロジェクト8年間の集大成として実施。これまで関わったアーティストや企画をリニューアルして再現するなど、多岐にわたるプログラムを行い、バスツアーも企画した。

(3) 八戸工場大学

八戸工場大学は、八戸の「工場」を文化資源と捉え、工場の新たな魅力を創出し、市のブランドイメージを高め、市内外に発信するプロジェクトで、市民とアーティストと工場が協働で実施する「市民参加型」のアートプロジェクトを運営することで、各々のシビックプライドの醸成や、工場の地域社会貢献への波及効果を生むことを目指して、平成25（2013）年から取組を始めました。

令和2（2020）年度までに、8つの企業と協力してプロジェクトを行い、参加（入場）した市民は約4千人となりました。参加した市民や企業から、「八戸の魅力を再認識できた」「従業員の家族に自分の工場のことを知ってもらえる良い機会だった」「自分なりに気にかけて、地元を楽しもうと思うようになった」という声があり、地域の新たな魅力創出と、市民や工場の誇りの醸成に繋がりました。

さらに、活動を重ねることで受講生同士の積極的交流が生まれ、その結果事務局、受講生がチームとしてのアートプロジェクトの運営にあたることができ、さらに広く一般の方の関心の輪を広げることに繋がり、また、企業による文化芸術への理解や支援が地域貢献にも繋がり、関係者自らが市内外へ発信する意欲が形成できました。

主な実施例は、次のものとなります。



「さよなら、ぼくらの大煙突」
平成30（2018）年



「虹色の狼煙」
平成29（2017）年

	実施例
八戸工場大学文化祭「工場サイコウ」 平成25（2013）年度	八戸の工場をテーマにし、アーティストと参加した市民がそれぞれの作品（八戸の工業団地をモチーフにした建築模型や工場をモチーフにしたグッズ等）を持ち寄り、展示を行った。
-162℃の炎を見よう 平成26（2014）年度	八戸LNGターミナルの稼働開始に合わせ、JXエールエヌジー・サービスと協働し、鉄塔から吹き上がる炎を愛でる作品の展示や催しを貿易センタービル（当時）で開催。
虹色の狼煙 平成28（2016）年度	大 平洋金属と連携し、工場から出る煙（水蒸気）を狼煙に見立て、七色に染め上げてナレーションと音楽で演出したものを皆で鑑賞するプロジェクトを開催。
八戸・工場アート展 平成29（2017）年度	「わたしたちが惹かれる工場の魅力を、アートを通じて探る。」をコンセプトに、工場をテーマとした作品を制作している作家・アーティスト、受講生が撮影した八戸の工場をモチーフとした写真の展覧会を開催した。
さよなら、ぼくらの大煙突 平成30（2018）年度	東北電力八戸火力発電所と協働し、役目を終えて解体予定の大煙突を参加者がエアロバイクで発電した電気で光を灯すライティングショーを実施。

(4) 多文化都市八戸推進事業補助金

平成20（2008）年度から、市内を活動拠点に、多種多様な分野で活発に繰り広げられている市民の特色ある文化芸術活動を支援しています。支援対象となるのは、先駆的・実験的な事業内容で、対象者を限定せず広く市民が参加し、鑑賞機会が得られるもので、地域活力の創出が期待できるものとしています。（同一の事業に対しては補助は最大3回までとしています。）

平成20（2008）年度から令和2（2020年）までの13年間で41件の活動に補助金（325万7千円）を交付してきました。参加された方の人数は、約1万3千人にのぼります。また、補助金の活用にあたり、文化芸術活動者が従前にはなかった発想で取組を考えるきっかけとなり、その結果、新しい表現方法の確立、他分野との連携や新規の参加層の獲得につながり、また、参加した市民が文化芸術活動に触れ、親しむことができる環境をつくることにつながりました。

主な実施例としては、次のものが挙げられます。



多文化都市八戸推進事業補助金活用事業
現代アート展「INCIDENTS2016/インシデンツ2016」
平成27（2016）年

	事業名	実施例
平成23 （2011）年度 平成24 （2012）年度	VIVA南郷！+ウーゴファットルーソ&レイタンボールライブ VIVA!BOSSA!! 9 スウィングする南郷、おしゃべりな図書館	ちびっこサンバ隊の披露、写真展示、ライブコンサート、青空市を、南郷文化ホール、ホール前広場、南郷図書館などで実施し、ホール周辺の一体的な使い方や図書館の新しい使い方を提案するイベント。
平成26 （2014）年度	銀の滴降る降る杜に2014	義経北方伝説をテーマに、民俗芸能・方言を活かした朗読・僧侶を招聘しての講話・アコースティックライブなどバラエティー豊かな演目により表現。
平成26 （2014）年度 平成27 （2015）年度	現代美術作品展「ジャンルレス展」 現代アート展「INCIDENTS2016／インシデンツ2016」	国内外で活躍する気鋭のアーティストを招聘し、現代アートの展覧会を開催。会期中にギャラリートークやパフォーマンス、ワークショップなど様々な企画を実施。
平成29 （2017）年度 平成30 （2018）年度 令和元 （2019）年度	アーティスト・イン・レジデン2017 -港をつなぐ アーティスト・イン・レジデン2018 -港をつなぐ アーティスト・イン・レジデン2019 -港をつなぐ	八戸港と姉妹港のフィリピン・マニラからアーティストを招聘し、個人宅にレジデンスしながら市内のリサーチや作品制作などの芸術活動を通じて、市民、学生、外国人住民との文化交流を行う企画。

(5) 本のまち八戸

これまでの図書館や各学校での読書推進の取組に加え、平成26（2014）年度から様々なかたちで本に触れる動機づけとなる事業を実施し、子どもから大人まで市民がもっと本に親しめる環境を目指す「本のまち八戸」を推進しています。

当初は、子どもを対象とした事業（ブックスタート事業、マイブック推進事業、おすすめ！キッズブック事業【詳細は後述】）を中心に実施し、平成28（2016）年12月には、「本のまち八戸」の拠点施設として位置づけた八戸ブックセンターを開設しました。

【八戸ブックセンターについて】

地域の民間書店の役割を補完し、また、本を私有して読むことも大切であるという考えのもと、これまで市内書店では手に触れる機会が少なかった本を中心に、特徴ある提案・編集型の陳列を施し、本を販売しています。

また、「本を読む人を増やす」「本を書く人を増やす」「本でまちを盛り上げる」という3つの基本方針に則った様々な企画事業を実施しています。

企画事業の主な実施例としては、次のものが挙げられます。

事業名称	内容
本のまち読書会	様々なテーマによる読書会やゲストを招いてのトーク
アカデミックトーク	教育機関や文化施設等から講師を招いたトーク
執筆出版ワークショップ	作家などを講師に執筆や出版に関するワークショップ
ギャラリー展示	本にまつわる展示
パワープッシュ作家	八戸出身の作家などをパワープッシュする企画
ブックフェス	様々な団体と連携した本に関するイベント
ブックサテライト	市内全域に本棚スポットをつくる



トークイベント（読書会ルーム）



本のまち八戸ブックフェス

①八戸市ブックスタート事業

八戸市ブックスタート事業は赤ちゃんとその保護者に、絵本を開く楽しい体験の提供と、絵本を手渡すことで、赤ちゃんが家族が心ふれあう楽しいひとときを持つきっかけをつくることを目的とし、平成26（2014）年7月より開始しました。

対象は生後90日から1歳未満の赤ちゃんとその保護者で、毎週水曜日に市総合健診センターで行われる先天性股関節脱臼検診（生後90日～120日で受診）の会場で受診後の親子1～2組に読み聞かせボランティアが読み聞



かせを行ってから、絵本1冊と図書館の利用案内、おすすめブックリスト等の入ったブックスタートパックを配付しています。これまで述べ1万組以上の親子にパックを配付しました。

②マイブック推進事業

八戸市マイブック推進事業は、小学生が自ら本を選び購入する体験を通して、読書に親しむ態度を養うことを目的として、平成26（2014）年度に事業を開始しました。

八戸市立小学校に在籍する全児童と、市内にある青森県立特別支援学校小学部に在籍する全児童を対象に、八戸市内の書店で書籍を購入できるマイブッククーポン（以下、「クーポン」）を、児童1人に2千円分（500円券×4枚綴り）配布しています。クーポン使用期間は、7月1日～9月30日で、市外から転入した児童にも配布しています。



学校に配布したポスター



おすすめブックリスト

子どもと一緒に書店で本を選んだことで、家庭でも本の話をするようになった」などの声が多く寄せられています。

児童には、クーポンと併せて、おすすめの本を掲載したブックリスト「本はともだち」と、書店へ出かけることが難しい場合でも本を購入できるように、教育委員会（教育指導課）が作成したクーポン専用の注文袋を配布しています。さらに、各学校には、「児童が思わず足を止めて、何度も見たくなる」をコンセプトに作成したポスターを配布しています。

児童のクーポン使用率は年々向上しており、令和2（2020）年度のクーポン使用率は98.7%でした。本事業の趣旨や実施方法が、児童・保護者に浸透していることがうかがえます。

学校や保護者からは、アンケートを通じて、「進んで読書をする姿を多く見かけるようになった」「図鑑は普段なかなか買ってあげられないが、クーポンのおかげで買うことができた」「子ども

③おすすめ！キッズブック事業（平成30（2018）年度までは“読み聞かせ”キッズブック事業）

おすすめ！キッズブック事業は、子育てに関わる人に対し、絵本や読み聞かせを通して、親（保護者）と子の触れ合いと、子どもの情操教育に資する支援を行うものとして、平成28（2016）年度から平成30（2018）年度まで実施されていた“読み聞かせ”キッズブック事業の目的を引き継いで、令和元（2019）年度から実施しています。

主な実施例としては、次のものが挙げられます。

	実施例
令和元（2019）年度	八戸ブックセンター、八戸市立図書館の協力のもと、選書した「おすすめ絵本」のリストを作成・配布したほか、市内の読み聞かせ団体による読み聞かせ会及び絵本展を「八戸ブックフェス」にて開催。また、市民を対象にした「おすすめ絵本」のエピソードを募集し、市ホームページでの公開。
令和2（2020）年度	新型コロナウイルス感染症の影響により、「おすすめ絵本リスト」の作成中止。また、「八戸ブックフェス」も中止となった。「おすすめ絵本」のエピソード募集は継続実施した。
令和3（2021）年度	新型コロナウイルス感染症の影響により、「八戸ブックフェス」が中止となったことに伴い、読み聞かせ会及び絵本展が中止となった。その他事業として、八戸ブックセンター、市立図書館、NPO法人はちのへ未来ネット（こどもはっち受託者）、学校司書の選書による「おすすめ絵本」を子育て情報配信事業「はちすく通信」LINEにて月2回ずつ配信している。

(6) 民俗芸能の普及啓発と後継者支援

八戸市内では約60団体が山伏（やまぶし）系神楽、えんぶり、虎舞（とらまい）、駒踊（こまおどり）などの民俗芸能を伝承しており、種類、団体ともに青森県で随一、全国でも有数の数を誇ります。教育委員会では指定・未指定問わず、様々な支援を行っており、その1つに上演会が挙げられます。

一般に文化財保護の一環で行われる民俗芸能上演会は、出演団体（伝承者）の「保存伝承意欲の向上」と「普及啓発」を目的としています。

「保存伝承意欲の向上」とは、伝承者の民俗芸能を続ける意欲を高めることです。この動機づけには、伝承者にとって民俗芸能が必要とされていることを実感することが肝要なため、主催者は上演の機会を提供するとともに多くの観客を集め、保存伝承の励みにつなげていかなければなりません。そして、「普及啓発」とは、①認知度を上げファンを増やす、②民俗芸能に携わりたいと思う人を増やすことです。

上記のような目的のもと、教育委員会では以下の事業に取り組んできました。

①民俗芸能のタベ

民俗芸能のタベは、昭和53（1978）年度から年1回開催し、令和3（2021）年度で44回目（42、43回目はコロナにより中止）を迎えました。

例年、八戸市公民館ホールで4団体が出演し、毎回ほぼ満席となります。さらに、3年に1回の頻度で、久慈圏域・二戸圏域・八戸圏域合同の北緯40°ナニヤトラ連邦郷土芸能交流祭を併催しています。



民俗芸能のタベ 新井田虎舞組



招待団体・東通村蒲野沢青年会による能舞
(国指定重要無形民俗文化財)

「民俗芸能の夕べ」の継続を検討し、平成28（2016）年度に芸能団体、平成29（2017）年度に来場者へアンケートを実施した結果、大多数の芸能団体及び来場者が継続を望み、そして、更なる技術向上のため、市外の団体の出演を希望する声が多く挙がりました。この結果を踏まえ、平成30（2018）年度から市外の国・県指定民俗芸能団体の招聘を始めました。招聘した東通村の蒲野沢青年会と共演した囃（おがみ）神社法霊（ほうりょう）神楽保存会は、現在も交流を続けていると聞いています。

令和3（2021）年度は、3年ぶりに「民俗芸能の夕べ」を開催しました。出演した団体からは、新型コロナウイルス感染症の影響で上演機会が皆無となっていたため、上演の場が励みになったという声をいただきました。ニーズに応え変化させながらも、上演の機会を提供することが「民俗芸能の夕べ」の役割だと再認識し、今後も本事業に取り組んでいきます。

②山伏神楽U-30～若者がぎりぎりって舞いて候う～

進学・就職等のため民俗芸能をやめる子どもが多い中、活発に活動している芸能団体には、10～30代の若者たちが上演や行事を支え、彼ら彼女らに憧れる子どもが芸能を続けている良い流れができているという共通点があります。

しかしながら、民俗芸能の中でも特に山伏系神楽は、えんぶりや山車組と違い、団体間の交流がなく、孤独や不安を感じる若者もありました。

そこで、神楽に携わる若者同士の交流を図ることと、若者たちが活躍する姿を子どもたちに見せ、自身のロールモデルを形成することを目的として、10～30代の若者を出演者のメインとした神楽の上演会「山伏神楽U-30～若者がぎりぎりって舞いて候う～」を、平成29（2017）年度から令和元（2019）年度まで実施しました。

この事業を通して、神楽の魅力や迫力を子どもたちはじめ多くの方々に伝えることができました。また、3年かけて神楽団体同士のつながりができ、刺激を受け合う仲になりました。

本事業が終了した令和元（2019）年度以降は、新型コロナウイルス感染症の影響で上演機会が減少しましたが、出演した若者たちは現在も神楽を続けており、当市の民俗芸能を支え、継承しています。



はちのへホコテン会場での上演



八戸ポータルミュージアム（シアター2）での上演

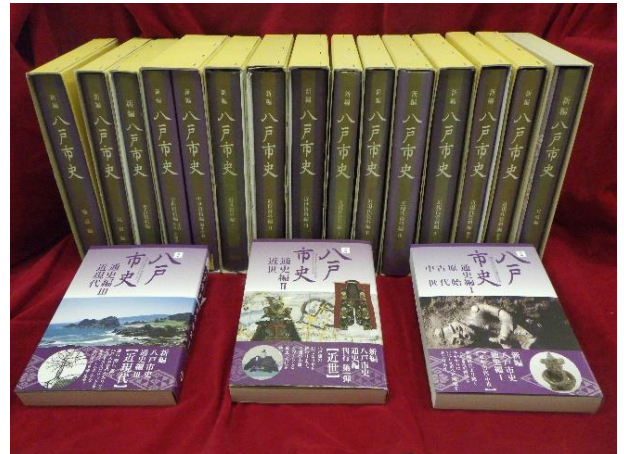
開催日・会場	出演団体	内容
平成29（2017）年5月21日 はっちシアター2	龍神社法霊神楽保存会 白銀四頭権現（しろがねしとうごんげん） 神楽保存会 鮫神楽連中	上演時間は各団体30分程度 来場者約250名（満員となり、入場できなかった方多数有）
平成30（2018）年9月2日 はっちシアター2・ 和のスタジオ	龍神社法霊神楽保存会 鮫神楽連中 笹ノ沢神楽保存会 白銀四頭権現神楽保存会	来場者多数のため、法霊神楽と鮫神楽は和のスタジオでも上演した。 来場者約460名
令和元（2019）年9月29日 はちのへホコテン会場	笹ノ沢神楽保存会 白銀四頭権現神楽保存会 江刺家（えさしか）神楽保存会（招へい・九戸村） 鮫神楽連中 龍神社法霊神楽保存会	来場者1,323名（延べ）

(7) 市史編纂事業

八戸市では、昭和44（1969）年から昭和56（1981）年にかけて『八戸市史』を刊行しています。この時は『史料編』10冊、『通史編』1冊の計11冊を編纂しました。しかし、取り上げた時代が江戸時代に限られていたことや、その後の研究が進展したことにより、平成8（1996）年より市史編纂事業の構想が練られ、平成10（1998）年に市史編纂室が設置されました。以降、平成26（2014）年度まで17年間に渡り市史編纂が行われ『資料編』14冊、『通史編』3冊、計17冊の『新編八戸市史』を刊行しました。

市史編纂の過程では、市内外の旧家や関係機関の調査などを経て、3万点以上の資料を収集し、その目録を『八戸市史収集文書目録』として公開したほか、編纂過程で研究された成果を『はちのへ市史研究』として7冊にまとめ、一般向けにわかりやすく解説した『八戸の歴史双書』を12冊刊行、市史編纂に当たって解読した古文書の翻刻（ほんこく※40）をまとめた『八戸藩遠山家日記』を4冊刊行しました。

市史の刊行が終了し、市史編纂事業は終了しましたが、編纂にあたって収集した資料を整理・公開する必要がありました。そのため、市史編纂室の後継として平成27（2015）年度に歴史資料グループを設置しました。



※40 翻刻・・・古文書等の歴史資料を現代の活字に直し、読みやすくすること。

新編八戸市史刊行一覧	
新編八戸市史	考古資料編
新編八戸市史	中世資料編
新編八戸市史	近世資料編Ⅰ
新編八戸市史	近世資料編Ⅱ
新編八戸市史	近世資料編Ⅲ
新編八戸市史	近現代資料編Ⅰ
新編八戸市史	近現代資料編Ⅱ
新編八戸市史	近現代資料編Ⅲ
新編八戸市史	近現代資料編Ⅳ
新編八戸市史	近現代資料編 都市計画
新編八戸市史	近現代資料編 戦争
新編八戸市史	別編 自然編
新編八戸市史	民俗編
新編八戸市史	地誌編
新編八戸市史	通史編Ⅰ 原始・古代・中世
新編八戸市史	通史編Ⅱ 近世
新編八戸市史	通史編Ⅲ 近現代

歴史資料グループでは、収集した資料を『八戸市史収集文書目録』の続巻として公開、『八戸の歴史双書』の刊行、『八戸藩遠山家日記』の続巻を刊行するなど編纂事業の成果をまとめるほか、研究成果を広く市民に知ってもらうため、市史を利用した講演会を開催しています。

また、市史編纂事業の構想当初は、事業終了後の部署に公文書館的機能を持たせることを想定しており、これも検討する必要があります。

自治体史編纂は、およそ30年～40年のサイクルで行われ、新知見などの研究成果を反映させた地域の歴史を編纂・公開していく必要があります。歴史資料グループでも、次の市史編纂にむけて資料の収集、保存も行っています。

新編八戸市史シリーズは、平成16（2004）年度に刊行された自然編がはじまりでした。次の編纂を見据え、研究の蓄積をはじめることが必要になる時期にきています。

(8) ICANOF（イカノフ）

寄稿：市民アートサポートICANOF代表 米内安芸

市民がアートに親しみ、アートが市民を創りだすような「場のムーヴメント」は欧米では当たり前のことですが、日本ではまだ、そういう街を探さなくてはなりません。ブラリと八戸に来てみたいと思えるような願いを込めて市民とアートの創発的な場づくりのため、平成12（2000）年12月、現代芸術家として各国に知られた豊島重之がキュレーター（※41）となり有志十数名でアートサポートボランティアとして発足しました。名称は豊島によりInteractive.Com.ArtNow/OI-Factoryの略称としてICANOF(イカノフ)と、また「イカの街 八戸」にもちなみます。

豊島のキュレーション（※42）は現代アートに大きく位置づける“写真”ということに深くリンクしています。また、未来の八戸と子どもたちのためにICANOF宣言をし、多くの事業に取り組みました。

パイロットプロジェクト（※43）としてのイベント「TIMELAGの写真と写真のRAGTIME」の“タイムラグ・ラグタイム展”は、旧・八戸市美術館内フロアに土器片が混じる土を大量に引き詰めた中に写真を埋め込み、参加者に金属探知機で埋蔵写真を掘り起こさせる、小さな戸を付けた床の中に展示した写真を覗かせる等々、様々な仕掛けがあるインスタレーション（※44）は、土門拳賞の写真家 金村修を当地に滞在させて自身が引き伸ばしたプリントを使用して作家自身を驚かせもしました。また、金村と港千尋の2人の作家と参加者が一同に市内を撮影して巡るなどのワークショップも人気で、参加者が溢れました。

※41 キュレーター・・・展覧会等の企画や構成、運営などを行う専門職。

※42 キュレーション・・・情報を収集し、整理することで再定義する。キュレーターの派生語。

※43 パイロットプロジェクト・・・先行的・試験的な企画事業。

※44 インスタレーション・・・展示空間を含めた全体を作品とみなす手法。

このイベントは、平成13（2001）年9月21日から9月30日まで開催し、八戸市美術館との共催による市民参加型の大きなイベントとして平成13（2001）年9月27日付東奥日報社の社説をはじめ、各新聞社に掲載され、多くのマスコミに取り上げられました。

第2回企画展ICANOFメディアアートショウ『食間展』（平成15（2003）年2月14日～23日 八戸市美術館）は、ミロスワフ・パウカはアウシュビッツ、パク・ファヨンは食という、“命”に共有する、嫌悪感とただならない空気感を孕（はら）んだ時空をインスタレーションとしました。同時に、一般から広く公募した写真作品をNHK八戸支局と市内各所に展示しました。その間、吉増剛造、飯沢耕太郎、南條史生他、我が国を代表する作家、評論家を招聘し、八戸芸術大学を開講し、天聖寺など市内各所での講演やワークショップにより層の厚いものとなりました。

このボリュームは、次の石内都、北島敬三、岡村民夫、楠本亜紀、暮沢剛巳、竹内万里子、八角聰仁を招いての第3回企画展『風景にメス展』（平成15（2004）年3月13日～28日 八戸市美術館）以降に続くことになります。



フリープレスICANOF

著名な作家たちを招聘してのイベントはフリープレスICANOFの刊行やイカノフラジオなどやマスコミで広く紹介され、文化庁「文化ボランティア推進モデル事業」にも指定されました。同時に発刊した400ページに及ぶ図録は東京都写真美術館はじめ各方面から高い評価を得て、日本芸術文化振興基金、UFJ信託文化財団、アサヒビール等の企業メセナ、三陸復興国立公園、青い森ファンド、青森県、八戸市等各界から多くの助成を受ける元となり、フリー

プレスは33回、図録は第14回まで発刊を続けることができました。

そして、イベントに携わったイカノフメンバーが先んじて多くの恩恵を被（こうむ）ることになりました。

我々の使命は難解と思われがちな講演やインスタレーションなどの、アルゴリズム（※45）では解けない解答をオーディエンス（※46）とICANOF宣言で誓った未来の子どもたちのため探し続けることだと思います。次の活動に向け構想中の豊島が平成31（2019）年1月に急逝して活動は止まったまま今に及んでいますが、ICANOFが取り組み、先鋭過ぎると言われてきた活動のすべてが、全国の現代アートのムーヴメントの“パイロットプロジェクト”としてようやく認識されたと思います。また、この振幅は平成13（2001）年12月設立のACAC（国際芸術センター青森）ははじめ我が国の現代アートという行為に確実に波及しています。

八戸市の多文化推進構想に響き、南郷アートプロジェクトや八戸工場大学などに共振し、新八戸市美術館の仕事に早くも浸透してきています。また、令和3（2021）年10月9日から令和4（2022）年1月23日まで開催されている青森県立美術館での企画展『あかし』は、まるでICANOFの第15回企画展のようでした。

今後、ICANOFは稀有な豊島につなぐことができるキュレーターを待たねばなりません。

※45 アルゴリズム・・・問題を解くための手順や方法、やり方。

※46 オーディエンス・・・観客。

第4回以降の企画展（全て八戸市美術館にて開催）

開催時期	内容
平成16（2004）年9月4日～20日	第4回企画展『風景の頭部展』
平成17（2005）年9月17日～10月2日	第5回企画展『MEGANEURA（メガネウラ）展』
平成18（2006）年7月19日～8月6日	第6回企画展『TELOMERIC（テロメリック）展』
平成19（2007）年9月12日～30日	第7回企画展『ISTHMUS（イスマス）地峡展』
平成20（2008）年8月18日～24日	第8回企画展『68-72＊世界革命＊展』
平成21（2009）年9月18日～27日	第9回企画展『Blinks of Blots and Blanks（余白とシミの明滅／瞬き）展』
平成22（2010）年9月17日～26日	第10回企画展『飢餓の国・飢餓村・字（あざ）飢餓の木』
平成25（2013）年8月31日～9月23日	第11回企画展『北島敬三－種差scenery（たねさしスィナリー）景色展』
平成26（2014）年8月22日～9月13日	第12回企画展『矢野静明－種差 enclave（エンクレイヴ）飛び地展』
平成27（2015）年8月22日～9月13日	第13回企画展『笹岡啓子－種差ninoshima（にのしま）展』
平成28（2016）年8月26日～9月11日	第14回企画展『赤城修司+黒田喜夫－種差デコンタ2016展』

主な招聘作家と講師の方々（50音順、敬称略）

赤城修司、足立智美、飯沢耕太郎、石井達朗、石内 都、伊藤二子、稲川方人、鶴飼 哲、梅内美華子、江澤健一郎、遠藤利克、及川廣信、太田省吾、岡村民夫、角田 聡、加須屋明子、金村 修、河井克夫、川端隆之、北島敬三、キム・ヌリ、楠本亜紀、倉石信乃、暮沢剛巳、小沼純一、笹岡啓子、佐藤尉隆、佐藤 真、しりあがり寿、菅木志雄、杉本敦子、須山悠里、高梨 豊、高嶺 剛、竹内万里子、田中佐好、土屋誠一、月舘敏栄、露口啓二、ディーター・ホフマン、豊島弘尚、仲里 効、中ザワヒデキ、中平卓馬、南條史生、二瓶 晃、野村喜和夫、パク・ファヨン、浜田剛爾、比嘉豊光、福山知佐子、前田恭二、松井憲太郎、港 千尋、ミロスワフ・パウカ、森山大道、八角聡仁、矢野静明、吉増剛造

ICANOF宣言 – ICANOF Manifesto –

私たちは「ICANOF イカノフ」です。
 私たち自身がアートを楽しむために。
 まだ気づかない八戸の魅力を自分たちで掘り起こすために。
 未来のこどもたちのために。
 誰でも参加できるし、関わり方もそれぞれ、出入りも自由な集まりです。
 私たちの街「八戸」（＝イカの府）が今より、もっとずっと素敵な街になったら、
 そこに住む私たちの心も豊かになるでしょう。
 異論反論がおおいに飛びかうような、ゆるやかで、おおらかな、
 そして エキサイティングな会を目指します。

資料編 3

文化施設・文化財一覧

文化施設

多目的な施設

施設名	基本情報	施設紹介
青葉湖展望交流施設（山の楽校）	南郷大字島守字北ノ畑 6-2 0178-82-2222	廃校となった増田小中学校を利用した体験交流施設。農家レストランをはじめ、そば打ちやみそ作り等の体験メニューもある。
カッコーの森エコーランドエコステージ	南郷大字中野字高村 5-5 0178-82-3303	野外にある屋根付きステージ。毎年夏に開催する、南郷サマージャズフェスティバル等の会場として活用されている。
八戸市島守田園空間博物館 館のやかた	南郷大字島守字館 22-1 0178-80-8060	安土桃山時代、島守地区を領する「島守安芸」が住んでいた館跡と伝えられている。囲炉裏のある和室や和室2部屋は農村交流等の研修室として利用可能。
八戸市島守田園空間博物館 南郷朝もやの館総合情報館	南郷大字島守字古坊 61-1 0178-80-8088	田園空間博物館の基本テーマ「朝もやけむる水と森の里」の中心地となる施設。地域に関する総合案内所であり、地域交流の活動拠点としての機能も担っている。
八戸ポータルミュージアム（はっち）	大字三日町 11-1 0178-22-8228	八戸の中心市街地と市全体を活性化するために建てられた文化観光交流施設。八戸に関する情報を集めたり、イベントの会場や人々の交流の場として活用されている。
八戸まちなか広場（マチニワ）	大字三日町 21-1 0178-22-8228	街なかにある「庭」をコンセプトにしたガラスの屋根つき広場。憩いの場やイベント会場として利用できる多目的スペース。

美術館

施設名	基本情報	施設紹介
澤田政廣の世界 洗心美術館	大字長苗代字上碓田 56-2 0178-27-6570	常設展示では、奈良・天平時代の脱活乾漆技法による彫刻および木造、ブロンズ、彫刻、陶板、陶器、絵画、書等多岐にわたる。
八戸クリニック街かどミュージアム	柏崎 1丁目 8-29 0178-32-7737	浮世絵等の伝統木版画・八戸ゆかりの鳥瞰図絵師吉田初三郎の作品・懐かしの映画ポスターなどを収蔵。
クラシックカー博物館 ツカハラミュージアム	北インター工業団地 4丁目 2-57 0178-21-1656	手作りで修復を行うクラシックカー博物館。TOYOTA2000GTをはじめ世界中の名車を展示し、運転席に座ることのできる体験車も展示されている。
八戸市美術館	大字番町 10-4 0178-45-8345	「ひと」が活動する空間を大きく確保し、様々なプロジェクトを実施していく新しいかたちの美術館。
帆風美術館	北インター工業団地 1丁目 5-2 0178-20-1335	コレクションは持たず、江戸期の日本画を主に展示している複製画専門の美術館。明るい照明の元、実際に触れることのできる展示が特徴。

劇場・ホール

施設名	基本情報	施設紹介
ジャズの館南郷	南郷大字中野字舘野4-4 0178-82-2902（グリーンプラザなんごう）	ジャズLP・CD約6,000枚を揃える、良質な音楽でくつろげる喫茶店兼無料休憩所。不定期でジャズライブなどの音楽イベントも行う。貸切でのホール利用も可能。
スペースベン	柏崎1丁目11-8 080-6025-0990	演劇をはじめとした様々な活動、また、表現活動をしたい方のサポートを行う。ジャンルの枠にとらわれず、公演を開いている。
デーリー東北ホール	城下1丁目3-12 0178-80-7299	13メートルの吹き抜けが特徴のホール。グランドピアノを常設し、音楽ライブや落語、地元ゆかりの芸術家の個展など、様々なイベントを行う。
八戸市公会堂	内丸1丁目1-1 0178-44-7171	音楽や演劇等色々な芸術文化事業を行っている。
八戸市公民館 （公会堂文化ホール）	内丸1丁目1-1 0178-45-1511	音楽や演劇等色々な芸術文化事業を行っている。
八戸市南郷文化ホール （スウィングベリー南郷）	南郷大字市野沢字中市野 沢24-1 0178-60-8080	ジャズを始め、クラシックコンサート、伝統芸能、映画等幅広く活用されている多目的ホール。可動席の収納でオープンプラザとしても利用可能。

たたみ(畳)のある施設

施設名	基本情報	施設紹介
カッコーの森エコーランド 南郷茶室（谿松庵）	南郷大字市野沢字中市野 沢44-10 0178-82-2008	にじり口のある小間や庭を見通せる広間で茶席を楽しむことができる。茶道や華道、句会等に活用されている。
八戸市文化教養センター南部会館	内丸3丁目3-6 0178-43-9202	144畳の大広間をはじめ、和室や板の間、舞台を備えており、謡・舞踊などの練習及び発表の場や茶会等で利用されている。
八戸市立集会場（更上閣）	大字本徒士町5-4 0178-22-2260	主屋と正門が国の登録有形文化財に指定されている。全室和室で日本舞踊や大正琴等の練習の場などとして利用されており、毎年2月の八戸えんぶり期間中には「お庭えんぶり」が開催される。

本にふれる施設

施設名	基本情報	施設紹介
八戸学院図書館	大字美保野13-98 0178-30-1695	約16万冊を蔵書。学生や教職員をはじめ、学外の一般の方も利用可能。多目的ホールの機能を備えた礼拝堂を併設しているのが特徴。
八戸工業高等専門学校図書館	大字田面木字上野平16-1 0178-27-7225	館内には閲覧室のほか、グループ学習やディスカッションに利用できる交流室などがある。学生や教職員をはじめ、一般の方も利用可能。
八戸工業大学図書館	大字妙字大開88-1 0178-25-8032	ビデオ閲覧コーナーやPCコーナーなどが併設されている。学生や教職員をはじめ、一般の方も利用可能。
八戸市立図書館	大字糠塚字下道2-1 0178-22-0266	本やCDの貸出のほか、おはなし会や講座等を開催。三浦哲郎文学コーナーでは三浦哲郎著作物や限定本を展示している。

施設名	基本情報	施設紹介
八戸市立南郷図書館	南郷大字市野沢字中市野沢39-1 0178-60-8100	本やCD等の貸出のほか、ジャズ資料コーナー等の常設、三浦哲郎の執筆机等を展示した三浦文学の部屋がある。
八戸市図書情報センター	大字尻内町字館田1-1 八戸駅ビル1階 0178-70-2600	本やCD等の貸出のほか、本やDVDの展示、おとの定期便として月に2度テーマに沿った所蔵のCDを館内で流している。
八戸ブックセンター	大字六日町16-2 GardenTerrace 1階 0178-20-8368	本の販売のみならず、本に関するイベントなどの開催を中心に市内の民間書店や図書館、市民活動と連携している。

歴史に触れる施設

施設名	基本情報	施設紹介
安藤昌益資料館	大字八日町3 0178-20-8109	デジタル技術によって復元された「八戸藩日記」をはじめとする関連資料が閲覧可能。
国宝館（櫛引八幡宮）	大字八幡字八幡丁3 0178-27-3053	国宝 赤糸 威 鎧兜大袖付 附唐櫃ほか、重要文化財・県重宝・市文化財など計25点の文化財を収蔵・展示している。
八戸市史跡根城の広場	大字根城字47 0178-41-1726	昭和16（1941）年に国史跡に指定、日本100名城にも選ばれている。主殿や工房・納屋・馬屋などの建物が忠実に復原され、安土桃山時代の根城の面影を現代に伝えている。
八戸市博物館	大字根城字東構35-1 0178-44-8111	郷土の歴史と文化を後世に伝える博物館。考古・民俗・歴史・無形資料を常設で展示している。随時企画展を開催。
八戸市南郷歴史民俗資料館	大字南郷島守字小山田7-1 0178-83-2443	「昭和」という時代をテーマに、「青い目の人形 メリーちゃん」をはじめとし、戦時中の資料や戦後の昭和の生活の変遷を展示している。
八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館	大字是川字横山1 0178-38-9511	是川遺跡や風張1遺跡を通して、東北地方の優れた縄文文化を発信し、埋蔵文化財の積極的な公開活用と保存管理を行う。国宝「合掌土偶」が常設されている。
八戸市縄文学習館（是川縄文館分館）	大字是川字中居3-1	※令和2（2020）年7月より整備工事のため、令和8（2026）年度（予定）まで休館中。
八戸市みなと体験学習館 （みなっ知）	大字湊町字館鼻67-7 0178-38-0385	旧八戸測候所を改修し、湊地域の歴史・文化と東日本大震災の被害を伝える学習施設。「震災伝承施設」として登録されている。
羽仁もと子記念館・八戸友の家	大字沢里字古宮35-3 0178-24-2232	羽仁もと子の歩んできた折々の写真・遺品等を展示。希望者はビデオ「羽仁もと子の生涯」が視聴可能。

ギャラリー

施設名	基本情報	施設紹介
青森銀行展示スペース	大字堀端町3-1 0178-43-0111	青森銀行八戸支店兼三日町支店内にある展示スペース。店舗の営業時間に合わせ入館することができ、パネル展など、今後様々な企画が期待される。
北蔵、煉瓦ホール （八戸酒造）	大字湊町字本町9 0178-33-1171	湊町の本社酒蔵に併設された「煉瓦ホール」や「北蔵」を活用し、様々な展覧会や音楽会、民俗芸能の公演などを開催。メセナ活動に取組んでいる。

施設名	基本情報	施設紹介
厨ホール (八食センター)	大字河原木字神才22-2 0178-28-9311	団体食事の会場のみならず、展示会や講習会、イベントなどに活用されている。
ソールランチ新丁	小中野8丁目8-40 0178-85-9017	展示スケジュール期間内のみ営業しているカフェ & ギャラリー。展示のみならず、コンサートやトークイベントも開催している。
八通ギャラリー	城下1丁目1-9 0178-44-0121	だれでも利用できるオープンなギャラリースペース。バラエティーに富んだ古典・グループ展などを随時開催。
夢百貨ギャラリー	江陽2丁目20-26 0178-22-1385	これまで239回の写真展を開催している、八戸の隠れ家的ギャラリー。月替わりテーマで個性あふれる写真を展示。

ライブハウス

施設名	基本情報	施設紹介
いわぶち響堂	小中野8丁目5-13 0178-22-2741	ジャズバンドなど、市内で活動する楽団が多くライブを行っている。また、バンド出演日以外には店主の弾き語りがある。
パワーステーションA7	大字六日町12 大松ビル 4階 0178-72-3773	フォークソング、ジャズ、ロック、ポップス等の演奏が楽しめるライブハウス。
FOR ME	大字長横町12ゆりの木ビル地下2階 0178-20-3766	ライブ以外にも、フリーマーケットやバー営業、楽器指導など、随時様々なイベントを開催している。
フラット	大字六日町10いわとくパ ルコ新館2階 0178-44-3898	ライブやトークイベントなどが開催可能。地域の食材で手作りされた本格的な料理と種類豊富なお酒が人気。
Live&Cafe ROXX	大字類家字堤端84デンデ ンビル2階 0178-46-1889	日本一お客さんとステージが近い（自称）ライブハウス。ライブのない平日はカフェとして営業している。

観光施設

施設名	基本情報	施設紹介
種差海岸インフォメーションセンター	大字鮫町字棚久保14-167 0178-51-8500	三陸復興国立公園に指定された種差海岸や階上を中心とした自然・文化の紹介や解説、自然と人がふれあう体験プログラムなどを実施している。
八戸市蕪島休憩所	大字鮫町字鮫93 0178-51-6464	蕪島の四季や歴史、ウミネコ、蕪島周辺の見所、みちのく潮風トレイル等の展示を行っている。天窓や自然観察スペースからウミネコの営巣の様子を間近で観察可能。
八戸市水産科学館マリエント	大字鮫町字下松苗場14-33 0178-33-7800	魚たちが泳ぐ大水槽や、海の生き物に触れることのできるタッチ水槽、ウミネコシアターなどがある。また、魚たちへの餌やりなどの体験も可能。

映画館

施設名	基本情報	施設紹介
フォーラム八戸	大字十三日町16 0178-71-1555	八戸市中心街にある映画館で、9部屋のスクリーンを兼ね備えている。

地区公民館

施設名	基本情報	会議室	調理室	ホール	和室	図書室	その他
市川公民館	大字市川町字赤畑19- 2 0178-52-2319		○	○	○	○	
大館公民館	大字新井田字常光田17- 11 0178-25-3331	○	○	○	○	○	
柏崎公民館	柏崎3丁目13- 5 0178-43-9139		○	○	○	○	講義室
上長公民館	一番町1丁目4- 1 0178-23-3237	○	○	○	○		講義室
江陽公民館	江陽2丁目18-34 0178-45-4571		○	○	○		講座室
是川公民館	大字是川字東前田3-11 0178-96-1219		○	○	○		講座室
小中野公民館	小中野5丁目2-17 0178-22-2877	○	○	○	○		
鮫公民館	大字鮫町字住吉町14- 1 0178-33-1942	○	○	○	○	○	
下長公民館	下長1丁目4- 9 0178-28-8863		○	○			講義室
白銀公民館	白銀3丁目2-14 0178-33-1633	○	○	○	○		講義室
白銀南公民館	大字大久保字行人坂36- 6 0178-35-6810	○	○	○	○		
瑞豊館	大字豊崎町字上永福寺 130- 1 0178-23-2618		○	○	○		農事研修室
館公民館	大字八幡字下陳屋40- 1 0178-27-5431	○	○	○	○		多目的室
田面木公民館	大字田面木字上野道下 夕30- 1 0178-27-3333	○	○	○	○	○	講座室
長者公民館	大字糠塚字下道2- 1 0178-45-4801	○	○	○	○		研修室、相談 室、講座室
南郷公民館	南郷大字市野沢字黒坂 7- 2 0178-82-3385	○	○	○			大広間、研修 室、視聴覚室、 控室、楽屋
南郷公民館 頃巻沢分館	南郷大字頃巻沢字蒼前 下38- 1 0178-82-3385（南郷 公民館）		○		○		
南郷公民館 中野分館	南郷大字中野字樋河ノ 上1 0178-82-3385（南郷 公民館）		○	○			老人室
南郷公民館 古里分館	南郷大字島守字若宮9 0178-82-3385（南郷 公民館）		○		○		

施設名	基本情報	会議室	調理室	ホール	和室	図書室	その他
南郷公民館 緑分館	南郷大字島守字馳下り 14- 1 0178-82-3385（南郷 公民館）		○		○		講堂
根岸公民館	高洲2丁目23-19 0178-20-4894	○	○	○	○	○	
根城公民館	根城3丁目11-22 0178-44-6927		○	○	○	○	講座室
白山台公民館	北白山台5丁目2-5 0178-38-9788		○	○	○		講義室
東公民館	大字新井田字八森平7- 67 0178-25-2951	○	○	○	○		
吹上公民館	吹上3丁目17-3 0178-43-2931	○	○	○	○	○	講義室
湊公民館	大字湊町字中道64-7 0178-33-4411	○	○	○	○		講義室
南浜公民館	大字鮫町字棚久保14- 48 0178-39-3036		○	○	○		茶室
三八城公民館	城下3丁目1-17 0178-45-2566	○	○	○	○	○	講義室

文化財

国指定・登録文化財一覧

国宝

種別	名称	員数	指定年月日	所在地
工芸品	赤糸威鎧 兜、大袖付 附唐櫃	1 領	昭和28（1953）年 11月14日	大字八幡字八幡丁 （櫛引八幡宮）
工芸品	白糸威褰取鎧 兜、大袖付 附唐櫃	1 領	昭和28（1953）年 11月14日	
考古資料	土偶（青森県八戸市風張1遺跡出土）	1 箇	平成21（2009）年 7月10日	大字是川字横山（是 川縄文館）

国重要文化財

種別	名称	員数	指定年月日	所在地
建造物	清水寺観音堂 附棟札3枚	1 棟	昭和55（1980）年 1月26日	大字是川字中居（清 水寺）
建造物	櫛引八幡宮本殿、旧拜殿、末社神明 宮本殿、末社春日社本殿、南門 附 鰐口	5 棟	平成5（1993）年 4月20日	大字八幡字八幡丁 （櫛引八幡宮）
工芸品	紫糸威肩白浅黄鎧 兜、大袖付	1 領	昭和25（1950）年 8月29日	
工芸品	唐櫃入白糸威肩赤胴丸 兜、大袖付	1 領	昭和25（1950）年 8月29日	
工芸品	兜 浅黄威肩赤大袖二枚付	1 頭	昭和25（1950）年 8月29日	
考古資料	青森県是川遺跡出土品	963点	昭和37（1962）年 2月2日 平成23（2011）年 6月27日	大字是川字横山（是 川縄文館）
考古資料	青森県風張1遺跡出土品 附炭化米 二粒	663箇	平成9（1977）年 6月30日	大字是川字横山（是 川縄文館）
考古資料	青森県丹後平古墳群出土品	195点	平成30（2018）年 10月31日	大字根城字東構（八 戸市博物館）
重要有形 民俗文化 財	八戸及び周辺地域の漁撈用具と浜小 屋	1,383点 1 棟	平成5（1993）年 4月15日	大字鮫町字大作平、 大字根城字東構（八 戸市博物館）
重要無形 民俗文化 財	八戸のえんぶり		昭和54（1979）年 2月3日	
重要無形 民俗文化 財	八戸三社大祭の山車行事		平成16（2004）年 2月6日	

国史跡・名勝・天然記念物

種別	名称	員数	指定年月日	所在地
史跡	根城跡 (18.5万㎡)		昭和16（1941）年 12月13日 平成23（2011）年 2月7日	大字根城
史跡	是川石器時代遺跡 (21.9万㎡)		昭和32（1957）年 7月1日 平成16（2004）年 9月30日 平成25（2013）年 10月17日 平成28（2016）年 10月3日	大字是川
史跡	長七谷地貝塚 (3万㎡)		昭和56（1981）年 5月25日	桔梗野工業団地
史跡	丹後平古墳群 (7,000㎡)		平成11（1999）年 1月14日	南白山台
名勝	種差海岸 (880万㎡)		昭和12（1937）年 12月21日	大字鮫町
天然記念物	蕪島ウミネコ繁殖地 (1.8万㎡)		大正11（1922）年 3月8日	大字鮫町字鮫

国重要美術品

種別	名称	員数	指定年月日	所在地
書跡	徳川家康自筆日課念仏	1 巻	昭和8（1933）年 10月31日	
書跡	徳川家康自筆日課念仏	1 巻	昭和8（1933）年 12月14日	
書跡	徳川家康自筆日課念仏	1 巻	昭和8（1933）年 12月14日	

国登録

種別	名称	員数	登録年月日	所在地
建築物	旧河内屋橋本合名会社	1 棟	平成10（1998）年 12月25日	大字八日町
建築物	更上閣主屋	1 棟	平成15（2003）年 10月17日	大字本徒士町（更上閣）
建築物	更上閣門	1 棟	平成15（2003）年 10月17日	
建築物	新むつ旅館本館	1 棟	平成19（2007）年 5月29日	小中野（新むつ旅館）
建築物	旧島守発電所本館	1 棟	平成21（2009）年 11月19日	南郷大字島守字持金沢（旧島守発電所）
建築物	旧島守発電所水槽	1 基	平成21（2009）年 11月19日	
建築物	旧島守発電所水圧鉄管路	1 所	平成21（2009）年 11月19日	

種別	名称	員数	登録年月日	所在地
建築物	旧島守発電所余水路	1 所	平成21（2009）年 11月19日	南郷大字島守字持金 沢（旧島守発電所）
建築物	八戸酒造店舗兼主屋	1 棟	平成22（2010）年 9月10日	大字湊町字本町（八 戸酒造）
建築物	八戸酒造北蔵	1 棟	平成22（2010）年 9月10日	
建築物	八戸酒造文庫蔵	1 棟	平成22（2010）年 9月10日	
建築物	八戸酒造西蔵	1 棟	平成22（2010）年 9月10日	
建築物	八戸酒造煉瓦蔵	1 棟	平成22（2010）年 9月10日	
建築物	八戸酒造煉瓦堀	1 棟	平成22（2010）年 9月10日	

県指定文化財一覧

県重宝

種別	名称	員数	指定年月日	所在地
建造物	八戸城角御殿表門 附棟札3枚 毘沙門天像1躯	1棟	昭和56（1981）年 4月18日	内丸3丁目（棟札3枚及び毘沙門天像は八戸市博物館に所在）
建造物	南宗寺山門	1棟	平成3（1991）年 3月13日	長者1丁目(南宗寺)
建造物	新羅神社本殿、拝殿	2棟	平成3（1991）年 3月13日	長者1丁目(長者山新羅神社)
建造物	旧八戸小学講堂	1棟	平成3（1991）年 3月13日	大字八幡字八幡丁（櫛引八幡宮）
建造物	大慈寺（松館）山門 附棟札1枚	1棟	平成21（2009）年 2月18日	大字松館字古里（大慈寺(松館)）
建造物	大慈寺（糠塚）本堂、山門、経蔵	3棟	平成30（2018）年 8月20日	長者1丁目（大慈寺(糠塚)）
建造物	対泉院山門	1棟	平成29（2017）年 8月16日	大字新井田字寺ノ上（対泉院）
工芸品	鎧櫃	1個	昭和31（1956）年 5月14日	
工芸品	日本刀 銘 奥観寿藤原吉廣	1口	昭和43（1968）年 4月5日	大字根城字東構（八戸市博物館）
工芸品	鰐口 応永十二年銘	1口	昭和46（1971）年 9月6日	大字八幡字八幡丁（櫛引八幡宮）
工芸品	日本刀 銘 備州長船幸光	1口	昭和46（1971）年 9月6日	
工芸品	菊牡丹唐草轡十字紋蒔絵漆器	13点	平成18（2006）年 2月1日	大字根城字東構（八戸市博物館）ほか
工芸品	唐草南部鶴紋蒔絵漆器	12点	平成18（2006）年 4月19日	
工芸品	南部鶴紋蒔絵漆器	7点	平成18（2006）年 4月19日	
彫刻	舞楽面	9面	昭和46（1971）年 9月6日	大字八幡字八幡丁（櫛引八幡宮）
書跡	新編文林全集	1部10冊	昭和31（1956）年 5月14日	
歴史資料	湊家文書	11通	昭和47（1972）年 4月6日	大字根城字東構（八戸市博物館）
歴史資料	天保三辰ヨリ七ヶ年凶作日記（内題「市川日記」）	1巻	平成8（1996）年 5月22日	
歴史資料	遠山家日記	111点	平成28（2016）年 8月15日	大字糠塚字下道（八戸市立図書館）
考古資料	縄文式甕形土器	1個	昭和31（1956）年 5月14日	大字根城字東構（八戸市博物館）
考古資料	縄文式土器	1個	昭和34（1959）年 10月6日	

種別	名称	員数	指定年月日	所在地
考古資料	縄文式板状土偶	1 個	昭和47（1972）年 4月6日	大字根城字東構（八 戸市博物館）
考古資料	鹿島沢古墳群出土品（一括）	27点	平成14（2002）年 4月17日	

県民俗文化財

種別	名称	員数	指定年月日	所在地
無形民俗 文化財	南部駒踊		昭和34（1959）年 10月6日	
無形民俗 文化財	加賀美流騎馬打毬		昭和47（1972）年 3月15日	
無形民俗 文化財	鯨の神楽		昭和55（1980）年 10月21日	
無形民俗 文化財	法霊神楽		昭和61（1986）年 2月4日	

県史跡・名勝・天然記念物

種別	名称	員数	指定年月日	所在地
史跡	八戸南部家墓所		昭和30（1955）年 1月7日	長者1丁目（南宗 寺）
史跡	一里塚	1 基	昭和36（1961）年 6月10日	大字十日市字天摩 （八戸公園内）
史跡	餓死萬霊等供養塔及び戒壇石	2 基	昭和63（1988）年 1月16日	大字新井田字寺ノ上 （対泉院）
史跡	一里塚	1 基	昭和37（1962）年 6月29日	南郷大字頃巻沢字長 久保
史跡	一里塚	2 基	昭和37（1962）年 6月29日	南郷大字市野沢字新 田、中野字大久保
史跡	一里塚	2 基	昭和37（1962）年 6月29日	南郷大字大森字砂子 崎、大森字林崎後
天然記念 物	カヤの木	1 本	昭和42（1967）年 1月11日	南郷大字島守字門前 （高松寺）

市指定文化財一覧

市有形文化財

種別	名称	員数	指定年月日	所在地
建造物	小田八幡宮仁王門	1 棟	昭和48（1973）年 1月24日	大字河原木字小田 （小田八幡宮）
建造物	旧八戸城東門	1 棟	平成 5（1993）年 6月 3 日	大字根城字東構（八 戸市博物館）
絵画	八戸二十景屏風	4 曲 1 隻	昭和34（1959）年 9月15日	
絵画	名花十二客図屏風	6 曲 1 双	平成10（1998）年 6月23日	大字根城字東構（八 戸市博物館）
彫刻	阿弥陀如来像	1 軀	昭和48（1973）年 4月13日	大字新井田字坂（浄 生寺）
彫刻	地藏菩薩像	6 軀	昭和48（1973）年 4月13日	大字妙字東（伝昌 寺）
彫刻	地藏菩薩像	1 軀	昭和48（1973）年 4月13日	大字松館字古里（大 慈寺(松館)）
彫刻	毘沙門天象	1 軀	昭和48（1973）年 4月13日	大字河原木字小田 （小田八幡宮）
彫刻	五智如来像	1 軀	昭和48（1973）年 4月13日	大字上野
彫刻	地藏菩薩像	1 軀	昭和48（1973）年 4月13日	大字湊町字上ノ山 （十王院）
彫刻	魚藍観音菩薩像	1 軀	昭和48（1973）年 4月13日	小中野 6 丁目（常現 寺）
彫刻	地藏菩薩像（来迎寺）	1 軀	昭和48（1973）年 4月13日	大字朔日町（来迎 寺）
彫刻	大黒天像	1 軀	平成20（2008）年 9月 1 日	
工芸	海有鞍・両咲燈及び障泥	和鞍 1 式	昭和34（1959）年 9月15日	
工芸	千両箱	1 個	昭和34（1959）年 9月15日	
工芸	御拝領御鏡	1 個	昭和34（1959）年 9月15日	
工芸	杉戸・桐戸	15枚・ 2 枚	昭和 38（1963）年 12月 5 日	長者 1 丁目（南宗 寺）
工芸	二十五条袈裟	1 肩	昭和 38（1963）年 12月 5 日	
工芸	青銅擬宝珠	8 個	昭和54（1979）年 9月 6 日	大字八幡字八幡丁 （櫛引八幡宮）
工芸	本小札勝色威二枚胴具足・附具足櫃	1 領	昭和56（1981）年 4月28日	内丸 1 丁目（三八城 神社）
工芸	旧八戸藩主軍装用具	1 式	昭和56（1981）年 4月28日	
工芸	梨子地螺鈿金装太刀	1 口	昭和56（1981）年 4月28日	

種別	名称	員数	指定年月日	所在地
工芸	日本刀 銘 精壮斎宗有	1口	昭和61(1986)年 2月21日	大字根城字東構(八 戸市博物館)
書跡・ 典籍・ 古文書	八戸藩領内境塚大絵図	1部	昭和34(1959)年 9月15日	
書跡・ 典籍・ 古文書	八戸城内図(古御殿御絵図面)	1部	昭和34(1959)年 9月15日	
書跡・ 典籍・ 古文書	八戸城内図(新規御普請御殿御絵図 面)	1部	昭和34(1959)年 9月15日	
書跡・ 典籍・ 古文書	八戸藩政時代市街図(八戸藩城下町 図)	1部	昭和34(1959)年 9月15日	
書跡・ 典籍・ 古文書	陸奥国三戸郡八戸町全図	1部	昭和34(1959)年 9月15日	
書跡・ 典籍・ 古文書	八戸藩初代直房公領地御拜領之節御礼御 奉書	1部	昭和34(1959)年 9月15日	
書跡・ 典籍・ 古文書	八戸藩二代直政公御家督之節御礼御 奉書	1部	昭和34(1959)年 9月15日	
書跡・ 典籍・ 古文書	八戸藩二代直政公御遺訓(直政書)	1部	昭和34(1959)年 9月15日	
書跡・ 典籍・ 古文書	奥南温古集	10冊	昭和34(1959)年 9月15日	
書跡・ 典籍・ 古文書	写経紺紙金泥法華經一部	8巻	昭和48(1973)年 1月24日	大字是川字白幡(福 善寺)
書跡・ 典籍・ 古文書	福士文書	11通	昭和48(1973)年 1月24日	
書跡・ 典籍・ 古文書	八戸藩日記	560冊	平成10(1998)年 1月14日	大字糠塚字下道(八 戸市立図書館)
書跡・ 典籍・ 古文書	刊本自然真営道	3巻	平成10(1998)年 6月23日	
書跡・ 典籍・ 古文書	真法弟算記	2巻	平成14(2002)年 1月24日	
書跡・ 典籍・ 古文書	諸国神社仏閣掛所算術	1冊	平成14(2002)年 1月24日	大字根城字東構(八 戸市博物館)
歴史資料	欄間	2間	昭和48(1973)年 1月24日	
歴史資料	和算用算木	2組	昭和48(1973)年 1月24日	長者1丁目(南宗 寺)

種別	名称	員数	指定年月日	所在地
歴史資料	算額	1 枚	昭和48（1973）年 1月24日	青森市本町2丁目 （青森県立郷土館）
歴史資料	万年暦	1 枚	昭和48（1973）年 1月24日	大字根城字東構（八 戸市博物館）
歴史資料	乙因追善俳諧献額	1 双	昭和54（1979）年 1月19日	大字鮫町字鮫（浮木 寺）
歴史資料	千風庵百々評俳諧献額	1 双	昭和54（1979）年 1月19日	大字河原木字小田 （小田八幡宮）
歴史資料	千石船万徳丸図	1 幅	昭和56（1981）年 4月28日	大字根城字東構（八 戸市博物館）
歴史資料	鬼瓦	3個1式	平成5（1993）年 6月3日	
歴史資料	五梅庵畔李公「国光の発句」献額	1 枚	平成17（2005）年 11月1日	長者1丁目（長者山 新羅神社）

市無形文化財

種別	名称	員数	指定年月日	所在地
無形文化財	八戸藩伝神道無念流居合		平成3（1991）年 10月14日	

市民俗文化財

種別	名称	員数	指定年月日	
無形民俗文化財	泉清水えんぶり		昭和53（1978）年 4月1日	
無形民俗文化財	中野神楽		昭和53（1978）年 4月1日	
無形民俗文化財	大平大神楽		昭和53（1978）年 4月1日	
無形民俗文化財	島守小学校神楽		昭和53（1978）年 4月1日	
無形民俗文化財	島守駒踊		平成11（1999）年 7月1日	
無形民俗文化財	島守虎舞		平成15（2003）年 12月5日	
無形民俗文化財	白銀四頭権現神楽		平成28（2016）年 6月1日	
無形民俗文化財	八太郎おしまこ		平成30（2018）年 8月1日	
有形民俗文化財	清水寺奉納絵馬	51枚	昭和48（1973）年 1月24日	
有形民俗文化財	太公望と屋台一式 （人形、屋台、飾り幕）	1体1台1枚	平成15（2003）年 7月29日	内丸2丁目（龍神 社）
有形民俗文化財	武田信玄と屋台一式 （人形、屋台、飾り幕）	1体1台1枚	平成15（2003）年 7月29日	
有形民俗文化財	享保六年記年銘鉢先	1振	平成15（2003）年 7月29日	

種別	名称	員数	指定年月日	所在地
有形民俗文化財	神功皇后と武之内宿禰 (人形、飾り幕)	2体1枚	平成15(2003)年 7月29日	大字根城字東構(八戸市博物館)
有形民俗文化財	為朝と嶋人(人形、雛型)	3体、1体	平成15(2003)年 7月29日	

市記念物

種別	名称	員数	指定年月日	所在地
史跡	敷石供養塔	1基	昭和48(1973)年 1月24日	長者1丁目(禅源寺)
天然記念物	杉の木	3本	昭和48(1973)年 1月24日	大字豊崎町字上永福寺(七崎神社)
天然記念物	イチイの木	1本	平成4(1992)年 1月31日	南郷大字市野沢字黄檗
天然記念物	クリの木	1本	平成4(1992)年 1月31日	南郷大字市野沢字林合(稻荷神社)
天然記念物	モミの木	3本	平成4(1992)年 1月31日	南郷大字島守字内山
天然記念物	イチイの木	1本	平成4(1992)年 1月31日	南郷大字島守字大波
天然記念物	アカマツの木	1本	平成6(1994)年 1月31日	南郷大字大森字黒坂

資料編 4

文化政策の年譜

年	国の動き	八戸市の動き（行政・民間）
昭和12 (1937) 年		【行政】 ・「種差海岸」国名勝指定
昭和16 (1941) 年		【行政】 ・「根城跡」国史跡指定
昭和25 (1950) 年	・「文化財保護法」公布	
昭和26 (1951) 年	・「博物館法」公布	
昭和28 (1953) 年		【行政】 ・櫛引八幡宮所蔵「赤糸威鎧、兜、大袖付、附唐櫃」、「白糸威 褌取鎧、兜、大袖付、附唐櫃」国宝指定
昭和32 (1957) 年		【行政】 ・「是川石器時代遺跡」国史跡指定 ・「是川遺跡出土品」国重要文化財指定
昭和38 (1963) 年		【行政】 ・八戸市及び八戸文化協会で「八戸市文化賞」表彰制度開始
昭和41 (1966) 年		【行政】 ・八戸市及び八戸文化協会で「八戸市文化奨励賞」設定
昭和43 (1968) 年	・文化庁創設	
昭和45 (1970) 年	・「著作権法」公布	
昭和46 (1971) 年		【民間】 ・八戸文化協会を「八戸市文化協会」に改称
昭和48 (1973) 年	・芸術文化指導者海外派遣 制度発足	
昭和50 (1975)年		【行政】 ・八戸市公会堂開館
昭和52 (1977) 年	・全国高等学校総合文化祭 開催	【行政】 ・八戸市公民館開館
昭和54 (1979) 年		【行政】 ・「八戸のえんぶり」国重要無形民俗文化財指定
昭和55 (1980) 年		【行政】 ・「清水寺観音堂 附棟札3枚」国重要文化財指定

年	国の動き	八戸市の動き（行政・民間）
昭和56 （1981）年		【行政】 ・「長七谷地貝塚」国史跡指定
昭和57 （1982）年		【行政】 ・八戸市文化賞制度新設 制度新設に伴い、「文化賞」、「文化奨励賞」が市長表彰となる
昭和58 （1983）年		【行政】 ・八戸市博物館開館
昭和59 （1984）年		【行政】 ・新図書館完成 ・八戸市美術館完成
昭和61 （1986）年	・国民文化祭開催	
平成2 （1990）年	・「（公社）企業メセナ協議会」設立	【民間】 ・第1回オータムジャズフェスティバルin南郷'90開催
平成3 （1991）年		【民間】 ・羽仁もと子記念館開館
平成5 （1993）年		【行政】 ・「櫛引八幡宮本殿、旧拝殿、末社神明宮本殿、末社春日社本殿、南門 附鰐口」国重要文化財指定 ・「八戸及び周辺地域の漁撈用具と浜小屋」国重要有形文化財指定
平成6 （1994）年	・「（財）地域創造」設立	【行政】 ・八戸市縄文学習館完成
平成9 （1997）年		【行政】 ・「風帳1遺跡出土品」国重要文化財指定
平成10 （1998）年		【行政】 ・「旧河内屋橋本合名会社」国登録有形文化財指定
平成11 （1999）年		【行政】 ・「丹後平古墳群」国史跡指定
平成12年 （2000）年		【行政】 ・ジャズの館南郷開館
平成13 （2001）年	・「文化芸術振興基本法」公布	
平成15 （2003）年	・「指定管理者制度」導入（地方自治法の一部改正）	【行政】 ・「更上閣主屋、門」国登録有形文化財指定 【民間】 ・フォーラム八戸開館
平成16 （2004）年		【行政】 ・「八戸三社大祭の山車行事」国重要無形民俗文化財指定 【民間】 ・夢百貨ギャラリー開館

年	国の動き	八戸市の動き（行政・民間）
平成17 (2005) 年		【行政】 ・八戸南部氏庭園開園 ・南郷村と合併
平成18 (2006) 年		【行政】 ・公立文化施設に指定管理者制度導入(八戸市公会堂、八戸市公民館、文化教養センター南部会館、八戸市更上閣) ・多文化都市八戸推進会議設置
平成19 (2007) 年	・「文化庁長官表彰制度」創設	【行政】 ・「新むつ旅館本館」国登録有形文化財指定 ・ぐれっとタワーみなと完成
平成20 (2008) 年		【行政】 ・南郷文化ホール開館 ・多文化都市八戸推進会議が「多文化都市八戸推進のための提案書」を市長へ提出 ・「踊りに行くぜ！！」八戸公演 ・多目的交流広場「長者まつりんぐ広場」完成 【民間】 ・八戸帆風美術館開館
平成21 (2009) 年		【行政】 ・南郷文化ホール指定管理者制度導入 ・八戸市芸術文化施設連絡協議会設置(～2017年度) ・八戸市博物館所蔵「合掌土偶」国宝指定 ・「旧島守発電所」国登録有形文化財指定 【民間】 ・安藤昌益資料館開館
平成22 (2010) 年		【行政】 ・（財）地域創造「地域文化コーディネーター派遣モデル事業」実施(～2012年度) ・多文化都市八戸推進会議より、「はちのへアートのまちづくり提案書」を市長へ提出 ・「八戸酒造の建物群」国登録有形文化財指定 【民間】 ・洗心美術館開館
平成23 (2011) 年	・企業メセナ協議会「GBFund」を立ち上げ	【行政】 ・八戸ポータルミュージアム「はっち」開館 ・はっち開館プレ事業として「八戸レビュー」などのAIR事業実施 ・芸術環境創造専門員採用(～2019年度) ・南郷アートプロジェクト実施(～2020年度) ・八戸市埋蔵文化財センター「是川縄文館」開館
平成24 (2012) 年	・「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」公布	【行政】 ・まちなかアトリノベーション事業実施(～2016年度) ・はっちAIR事業実施 ・工場アート(八戸工場大学)実施(～2020年度) 【民間】 ・八戸クリニック街かどミュージアム開館
平成25 (2013) 年	・「創造都市ネットワーク日本」設立(設立時から当市加入)	【行政】 ・蕪島から種差海岸が三陸復興国立公園指定

年	国の動き	八戸市の動き（行政・民間）
平成26 (2014) 年		【行政】 ・文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)受賞(県内初) ・マイブック推進事業、ブックスタート事業開始 ・種差海岸インフォメーションセンター、休憩所等開館
平成27 (2015) 年		【行政】 ・八戸市文化のまちづくりビジョン策定(～2020年度) 【民間】 ・デューリー東北ホール開館 ・ソールブランチ新丁開館
平成28 (2016) 年	・「文化庁移転協議会」設置 ・「スポーツ庁、文化庁及び観光庁の包括的連携協定」の締結 ・「スポーツ文化ツーリズムアワード」選定・表彰開催	【行政】 ・南郷アートプロジェクトが過疎地域自立活性化優良事例で総務大臣賞受賞 ・八戸工場大学が産業観光まちづくり大賞特別賞受賞 ・「八戸ブックセンター」オープン ・読み聞かせキッズブック事業開始 ・八戸三社大祭の山車行事が「山・鉾・屋台行事」としてユネスコ無形文化遺産に登録 ・八戸市美術館閉館(建物解体)。「はちのへまちなかアートラボ『Co.部屋』」開設
平成29 (2017) 年	・「文化芸術基本法」公布 ※文化芸術振興基本法の改正 ・「地域文化創生本部」を京都に設置 ・企業メセナ協議会「2021 Arts Fund」設置	
平成30 (2018) 年	・文化芸術推進基本計画策定(2018～2022年度) ・「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」公布 ・「文化科学省設置法の一部を改正する法律」公布 ・「著作権法の一部を改正する法律」公布	【行政】 ・八戸工場大学がふるさとイベント大賞ふるさとキラリ賞受賞 ・八戸まちなか広場「マチニワ」オープン ・「なんごう小さな芸術祭」開催 ・「金装獅嚙三累環頭大刀柄頭 等丹後平古墳群出土品」国重要文化財指定 【民間】 ・八戸酒造「This is MECENAT2018」認定
令和元 (2019) 年		【行政】 ・八戸市公会堂・公民館耐震改修工事着工(～2021予定) ・2月17日を「えんぶりの日」に制定 ・八戸圏域版DMO「VISITはちのへ」設立
令和2 (2020) 年	・「文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律」公布	【行政】 ・文化芸術推進員採用 ・11月3日を「是川縄文の日」の制定
令和3 (2021) 年		【行政】 ・八戸市美術館オープン

※令和3年12月1日現在

資料編 5

用語集

あ

アイデンティティ	自己が環境や時間の変化にかかわらず、連続する同一のものであること。主体性。自己同一性。
アウトリーチ	劇場や美術館などが館外で行う芸術活動。自ら劇場などに出向かない人々に対し、芸術に関心をもたせることを目的として、出張コンサートやイベントを行うこと。
アーツカウンシル	芸術文化に対する助成を基軸に、行政と一定の距離を保ちながら、文化政策の執行を担う専門機関。
アーティスト・イン・レジデンス	アーティストが一定期間ある土地に滞在し、常時とは異なる文化環境で作品制作やリサーチ活動を行うこと。
アーティストバンク	市内で活動するアーティスト等の情報をまとめ、公開するもの。
アートNPO	地域の市民とアーティストがともに作品をつくるワークショップや、学校や福祉施設にアーティストを派遣する活動を行う組織。
アート思考	アーティストが作品を制作する糧に伴う着眼点や問題意識、それらを発展させていくための考え方。
アートのまちづくり	文化芸術の多様な視点から地域資源を捉え、地域の誇りや新たな魅力を生み出し、文化芸術を越えた日常生活上の課題解決に向けたアートの力を活用したまちづくり。「文化のまちづくりビジョン」策定に先立つ八戸ポータルミュージアムや南郷におけるアートプロジェクトなどの実践を踏まえながら、ビジョンに位置づけた。
アートプロジェクト	美術館やギャラリーから外に出て社会的な文脈でアートを捉えたり、アートを媒介に地域を活性化させようとする取組。
エンパワメント	能力開花の妨げを取り除き本来備わっている能力を引き出すこと。

か

回想法	高齢者に、昔の生活用具などを用いて過去の体験を語り合っていたくことで、高齢者自身の認知機能低下を予防して自主活動をめざす、一種の心理療法。
企業メセナ	企業が資金・人材・施設を提供して、文化・芸術活動を支援すること。
クラウドファンディング	プロジェクトのための資金を調達できない個人・団体が、インターネット上で企画内容と必要な金額を提示し、広く支援を呼びかける手法。
グランドデザイン	全体構想。
クリエイティブビジネス	個人の技術や創造力を源泉とする仕事や産業。
コーディネーター	いろいろな要素を統合したり調節したりして、一つにまとめ上げる係。

か

コラボレーション	異なる分野の人や団体が協力して製作すること。
コンテンツ	内容、中身、素材。

さ

サードプレイス	人が生き生きといわれて、自分もここにいていいと思える場所であったり、この集団の中で自分も認められている。そのような居場所のこと。
シーズ	事業化や製品化の可能性のある技術やノウハウ。
シビックプライド	まちに対する市民の誇りや愛着。まちづくりや地域づくりへ積極的に参画し、地域を良くしようとする自負心。
実演芸術	実演により表現される音楽、舞踊、演劇、伝統芸能、演芸その他の芸術及び芸能。
社会包摂	社会的に弱い立場にある人々も含め市民ひとりひとり、排除や摩擦、孤独や孤立から援護し、社会の一員として取り込み、支え合う考え方のこと。
ステークホルダー	利害関係者。
相互貸借	自分の図書館で所蔵していない図書等について、他の図書館とお互いに貸し借りをを行う制度。
創造都市	文化芸術のもつ創造性を地域振興、観光・産業振興等に領域横断的に活用し、地域課題解決に取り組む地方自治体。

た

多文化都市八戸	市内で活発に繰り広げられる、市民の多様で特色ある自主的な文化活動を「多文化」と定義し、八戸市がもつ多文化の力を終結させ、地域活力の創出を図るための推進事業。
デザイン思考	デザインを考える際に用いる思考の過程を体系化し、課題や問題に対し最適な解決を図るために活用する考え方。

は

パートナーシップ	協力関係、協働、提携。
バリアフリー	障がい者や高齢者の生活に不便な障がいを取り除こうという考え方。
プラットフォーム	さまざまな主体（市、文化芸術団体、文化施設、企業等の民間事業者、学校等）が緩やかに繋がり（ネットワークを結び）、目的をもった活動（例えば、情報交換や勉強会など）や何らかの協働が行われる場
ホスピタルアート	アートの力で病院などの医療環境をより快適な癒しの空間とする取組。
翻刻（ほんこく）	古文書等の歴史資料を現代の活字に直し、読みやすくすること。

ま

マネジメントノウハウ	文化の作り手と受け手をつなぐ役割を担うための運営手段・手法。
------------	--------------------------------

や

ユニークベニュー	「歴史的建造物・神社仏閣・城跡・美術館・博物館などの独特な雰囲気を持つ会場で、会議・レセプション・イベント等を実施することにより、特別観や地域特性を演出することを目的」とし、「本来の様とは異なるニーズに応じて特別に貸し出される会場」。（「文化財を活用したユニークベニューハンドブック」より）
ユニバーサルデザイン	高齢であることや障がいの有無などにかかわらず、すべての人が快適に利用できるように製品や建造物、生活空間などをデザインすること。

ら

ライブビューイング	コンサートや演劇、スポーツの試合などが行われている会場の中継映像を、映写設備の整った施設などで上映するイベントのこと。
リサーチャー	調査する人。研究に従事する人。
リピーター	繰り返す人。同じ地を再び訪れる人、同じ商品を気に入って再度購入する人。
レジデンス事業	アーティストが一定期間ある土地に滞在し、常時とは異なる文化環境で作品制作やリサーチ活動を行う。